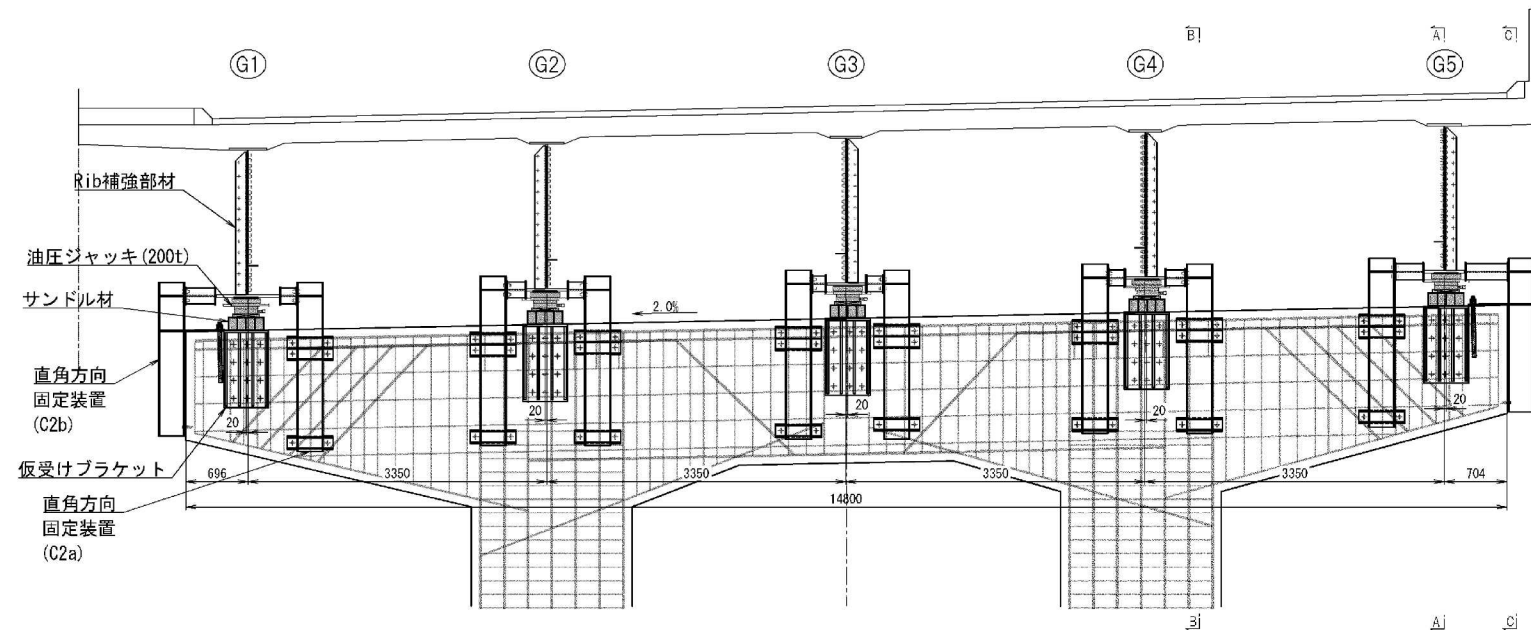


吉倉高架橋 Aライン P2橋脚支承取替工詳細図(3)
支承取替工 BP・B-5
[直角方向固定装置設置工]

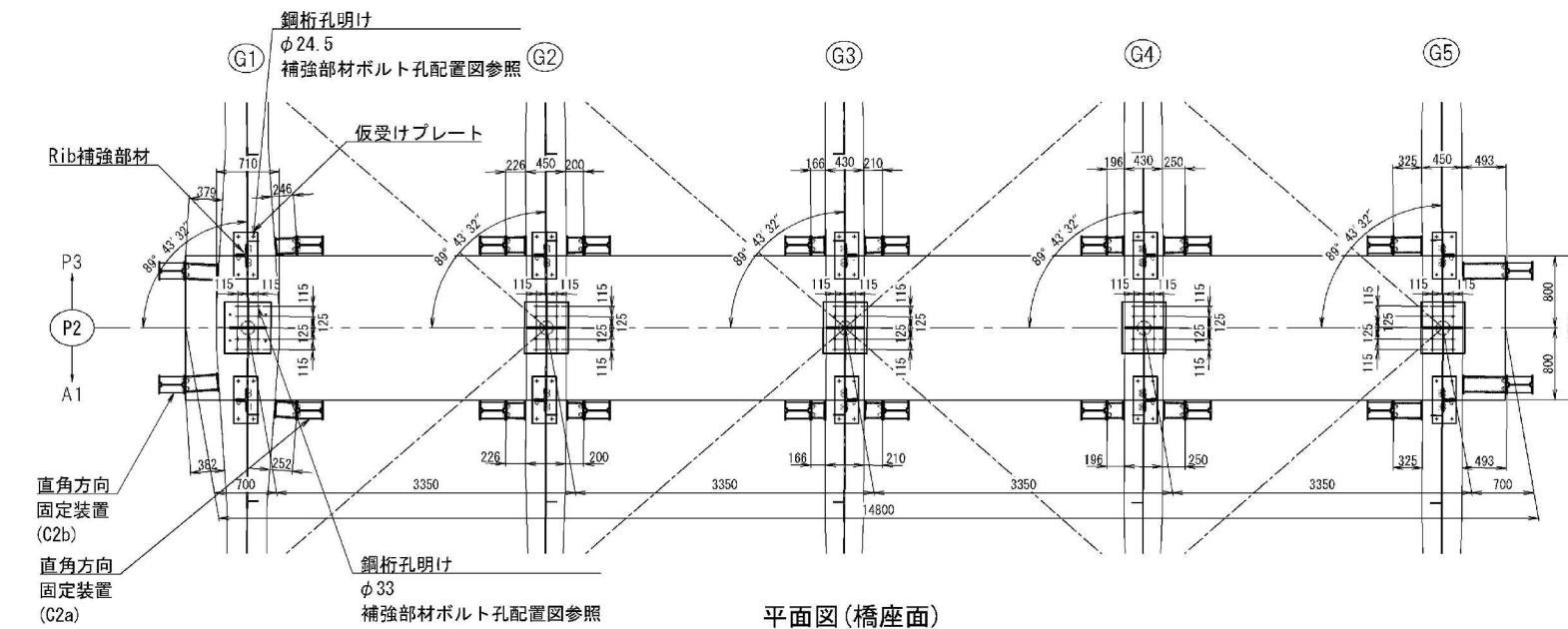
S=1:80

断面図

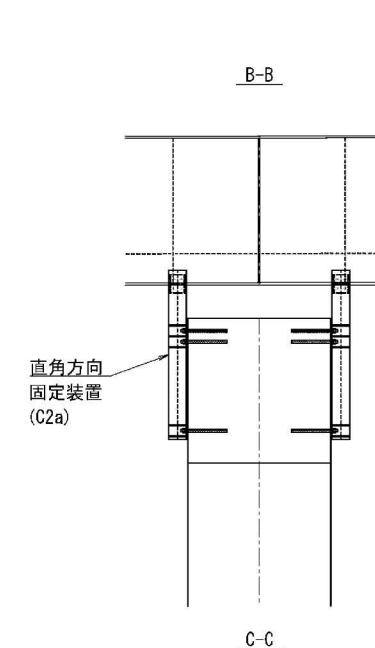
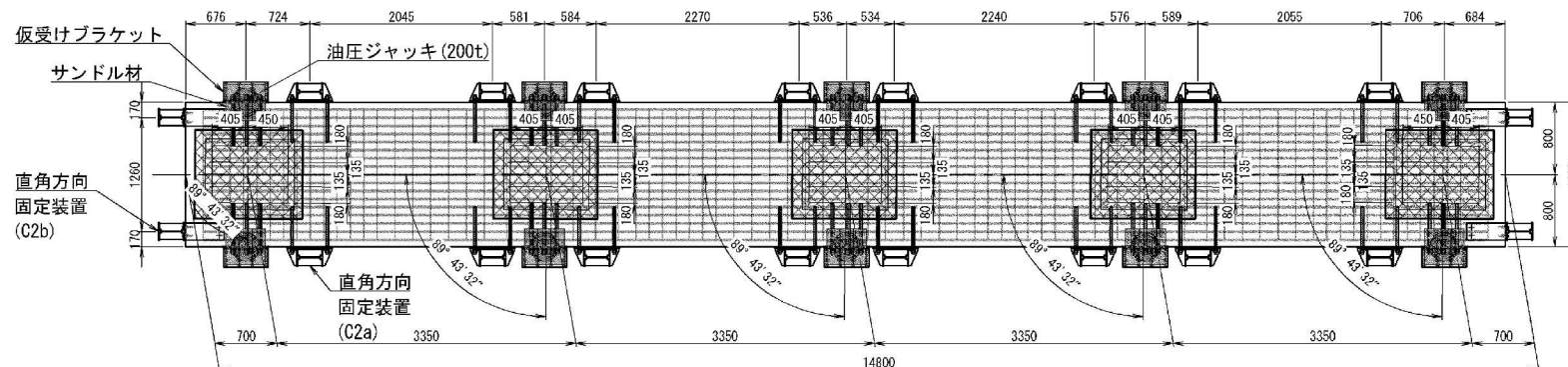
側面図



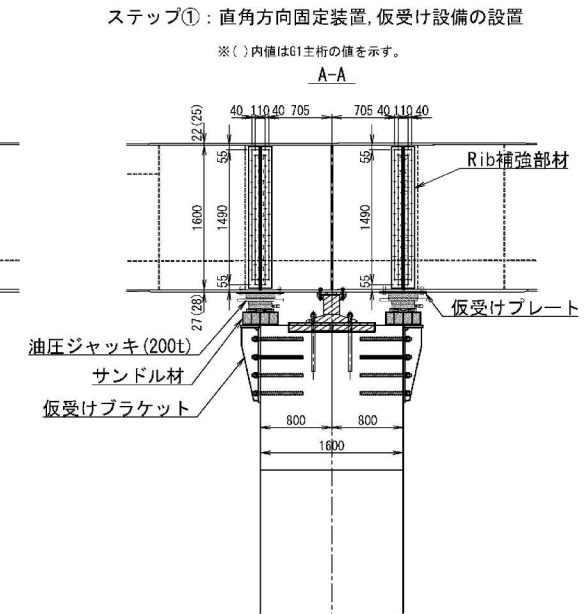
平面図(主桁部)



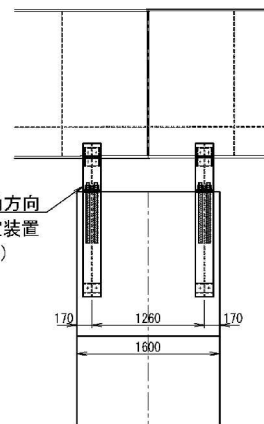
平面図(橋座面)



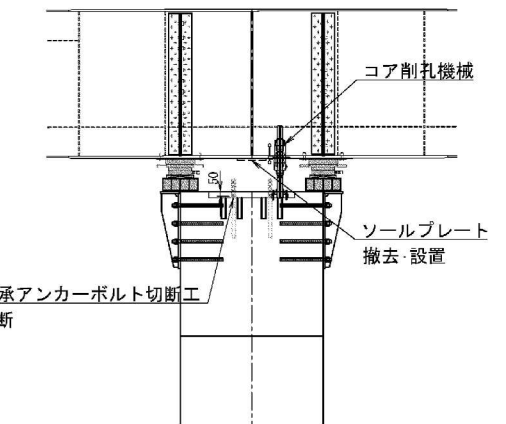
C-C



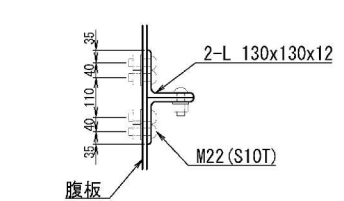
ステップ②: 既設支承撤去工



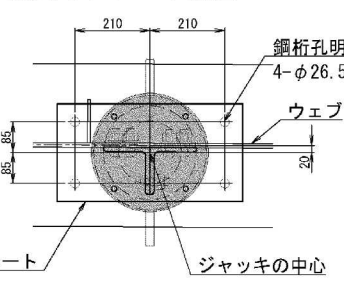
Rib補強部材断面図 S=1:20



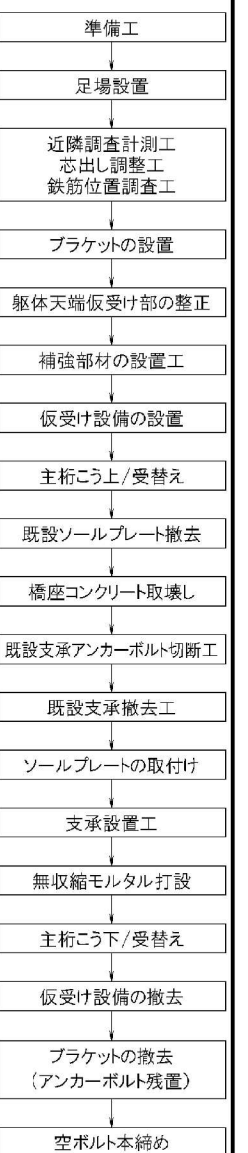
ステップ③: 支承設置工



仮受けプレート細図 S=1:20



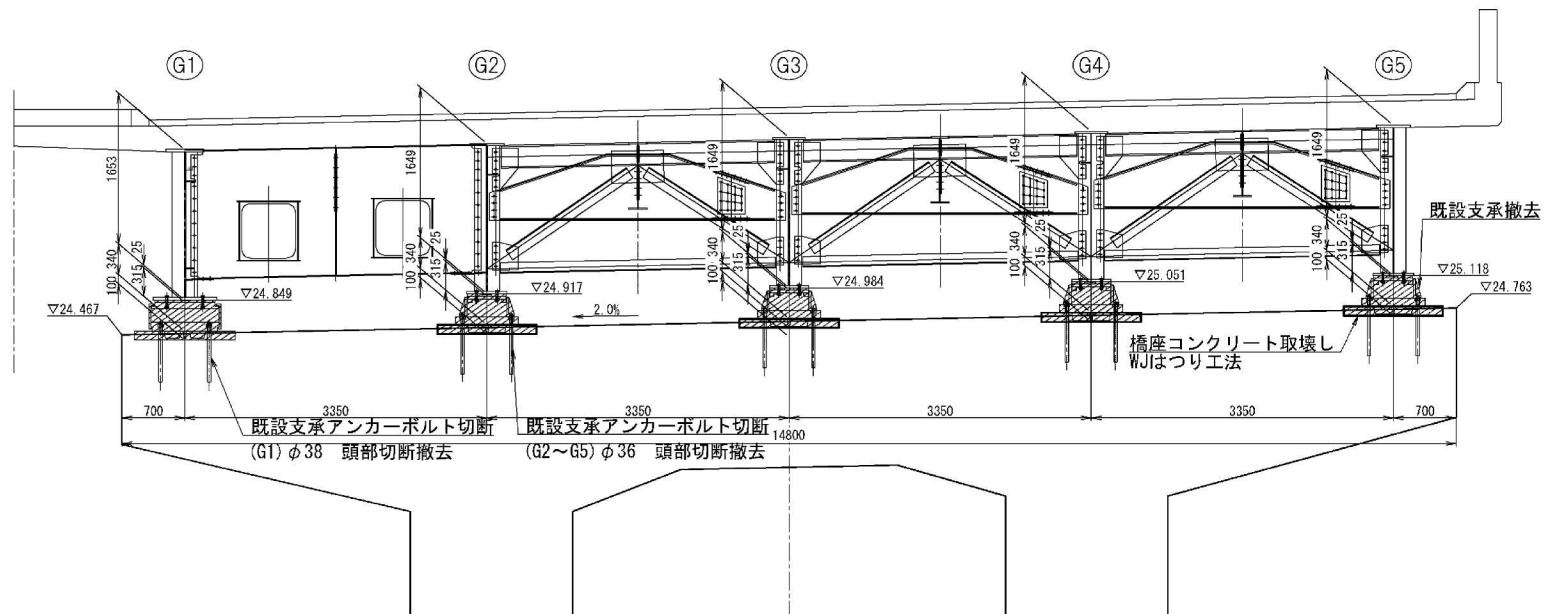
施工フロー



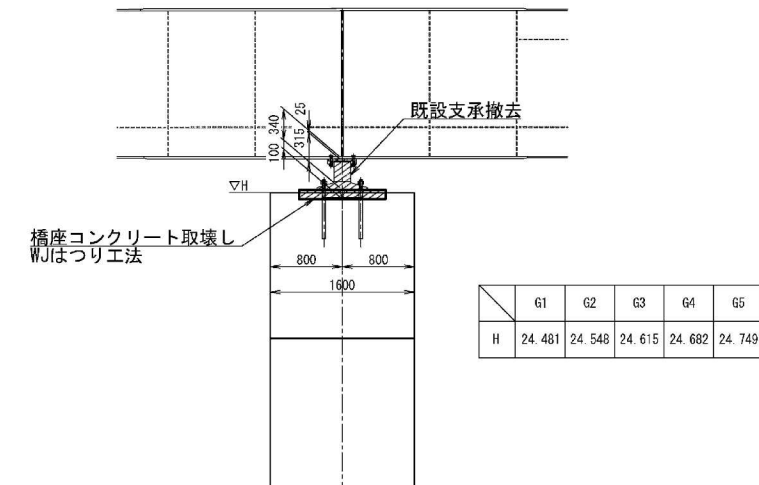
- 注記)
1. 施工・製作に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。
 2. アンカー用削孔にあたっては、鉄筋探索を行う等して既設鉄筋を切断しないよう留意すること。
 3. 既設桁への補強部材の取付面は、素地調整を行うこと。
 4. 既設桁の高力ボルト用削孔径はφ24.5mmとする。
 5. 主桁本体のボルト孔位置の詳細は各部材の詳細図を参照のこと。
 6. ボルト位置及び取付位置の変更がある場合は再度検討を行うこと。
 7. 仮受け設備とは、直角方向固定装置、仮受けプレート、Rib補強部材のことをいう。

東 関 東 自 動 車 道 吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン P2橋脚支承取替工詳細図(3)		
縮 尺	図 示	図面番号	42/232
設計会社名	大 日 咨 詢 有 限 公 司		
施工会社名	東 日 本 高 速 道 路 有 限 公 司 関 東 支 社		
事務所名	千 葉 管 理 事 務 所		

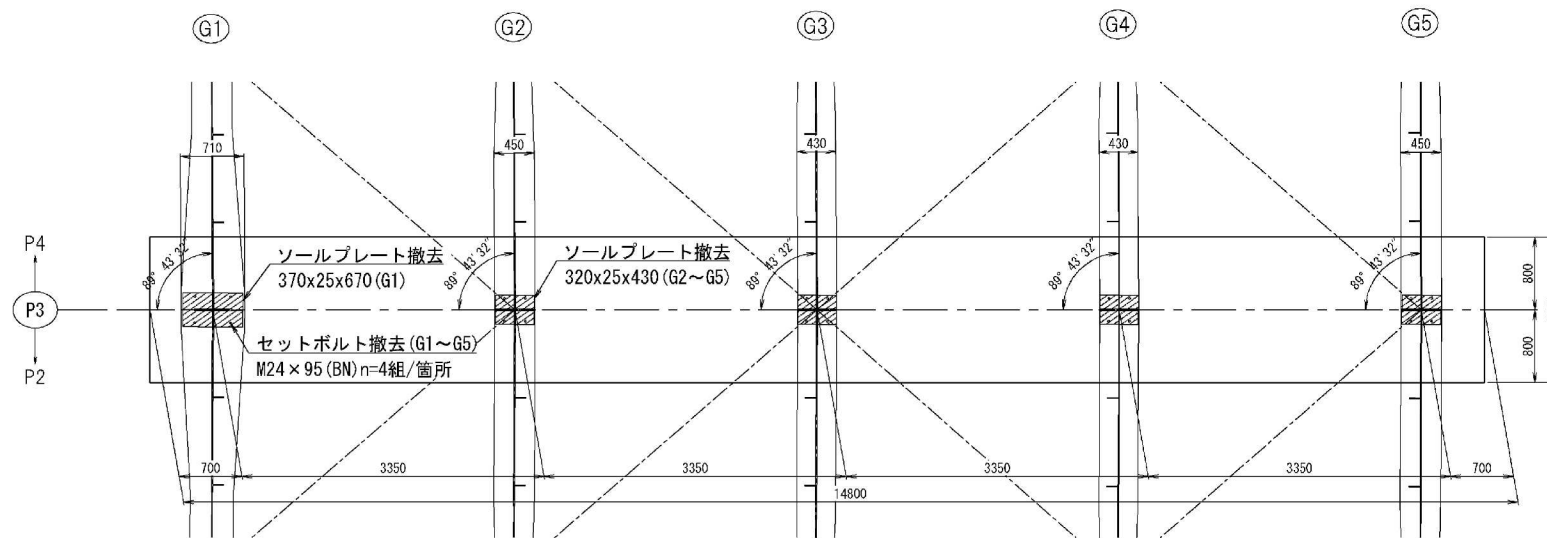
断面図



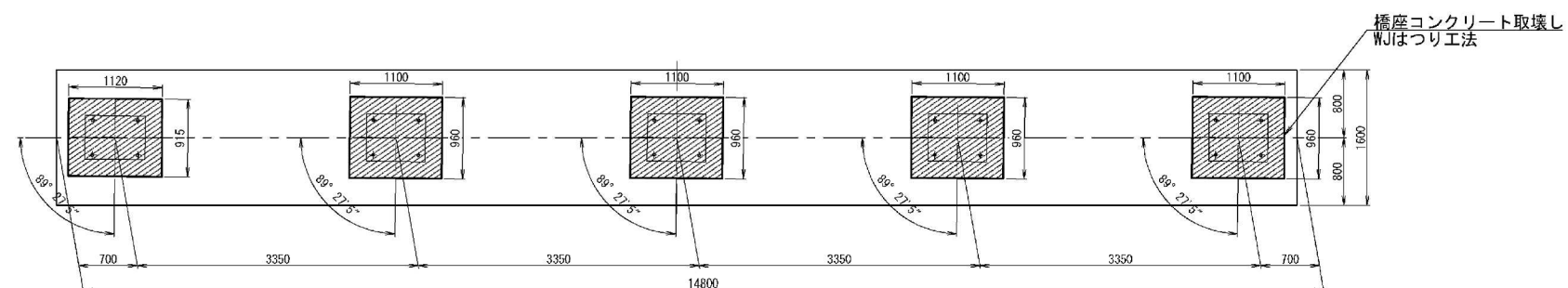
側面図



平面図(主桁部)



平面図(橋脚天端)



注記)
1. 施工に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。

 :撤去箇所

東 関 東 自 動 車 道			
吉 倉 高 架 橋 剛 梁 複 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 アライン P3 橋梁支承替工詳細図 (1)		
縮 尺	図 示	図面番号	43/232
設計会社名	大 日 コ ン サ ル タ ン ト 株 式 会 社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所		

吉倉高架橋 Aライン P3橋脚支承取替工詳細図(2)

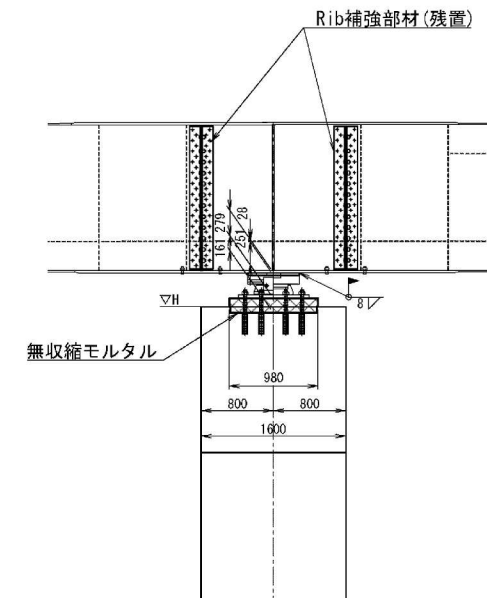
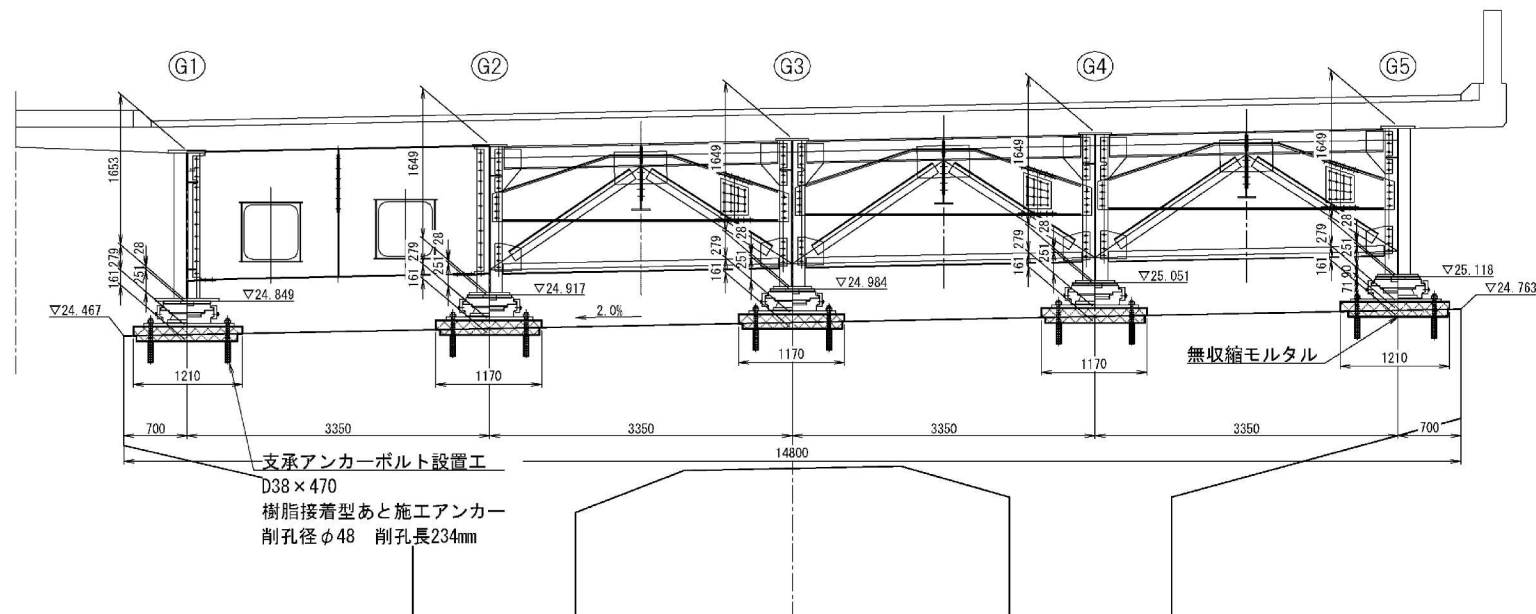
S=1:80

支承取替工 B P・B-6

[支承及び補強部材設置工]

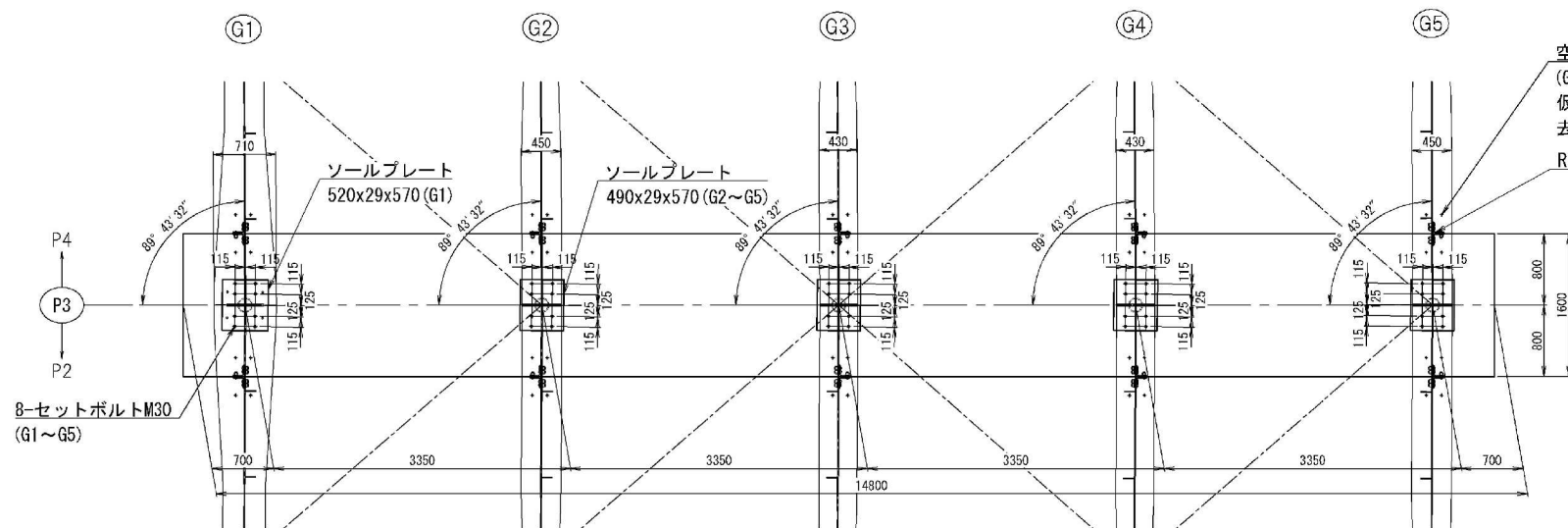
断面図

側面図

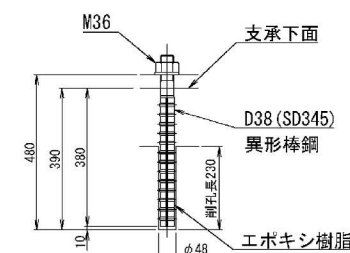


	G1	G2	G3	G4	G5
H	24.481	24.548	24.615	24.682	24.749

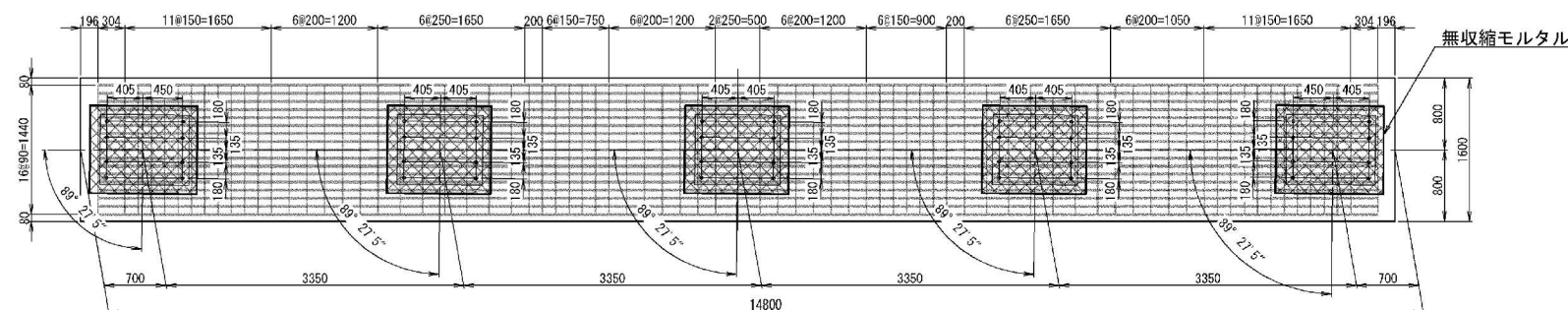
平面図(主桁部)



支アンカーボルト部詳細図 S=1:20



平面図(橋脚天端)



無収縮モルタル

- 注記)
1. 施工・製作に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。
 2. アンカー用削孔にあたっては、鉄筋探索を行う等して既設鉄筋を切断しないよう留意すること。
 3. ボルト位置及び取付位置等の変更がある場合は、再度検討を行うこと。
 4. 特記無きRib補強部材ボルトは全てH型高力ボルト(M22)を使用する。
 5. G1桁の既設セットボルト孔は溶接で埋戻し、グラインダ仕上げを行う。

東 関 東 自 動 車 道 吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事				
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン P3橋脚支承取替工詳細図（2）			
縮 尺	図 示	図面番号	44/232	
設計会社名	大 日 コ ン サ ル タ ン ト 株 式 会 社			
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社			
事務所名	千葉管理事務所			

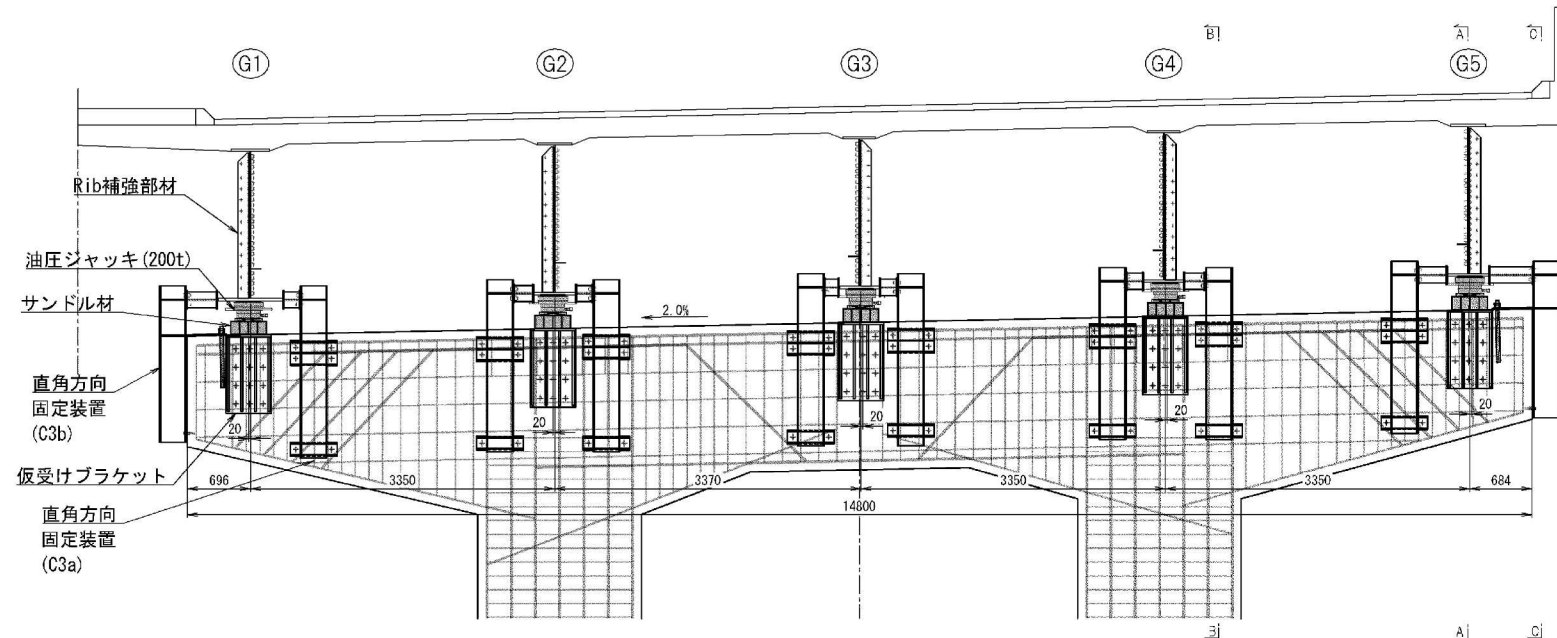
吉倉高架橋 Aライン P3橋脚支承取替工詳細図(3)

S=1:80

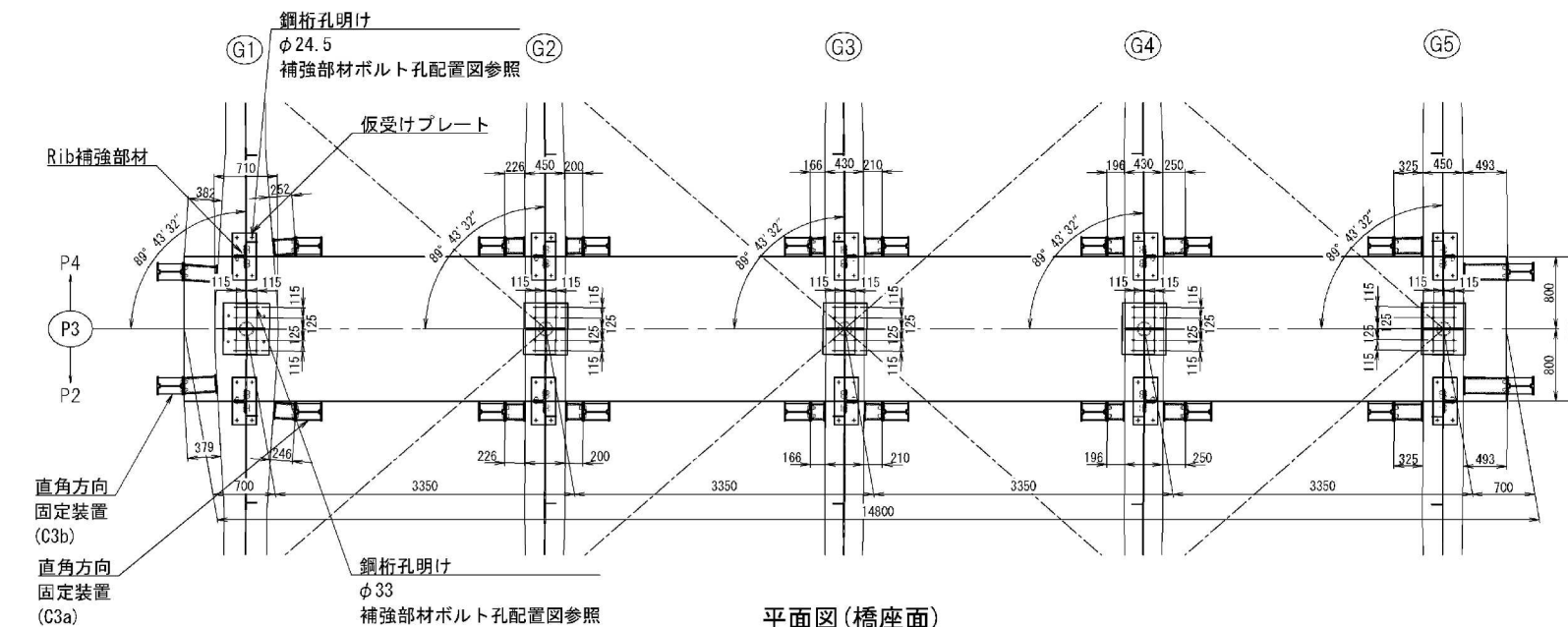
支承取替工 BP・B-6

[直角方向固定装置設置工]

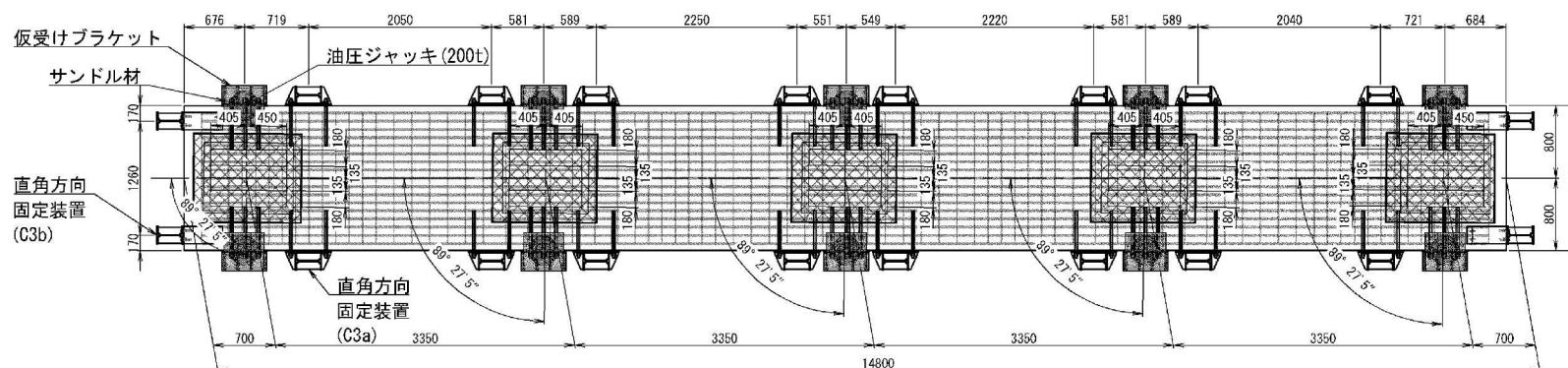
断面図



平面図(主桁部)



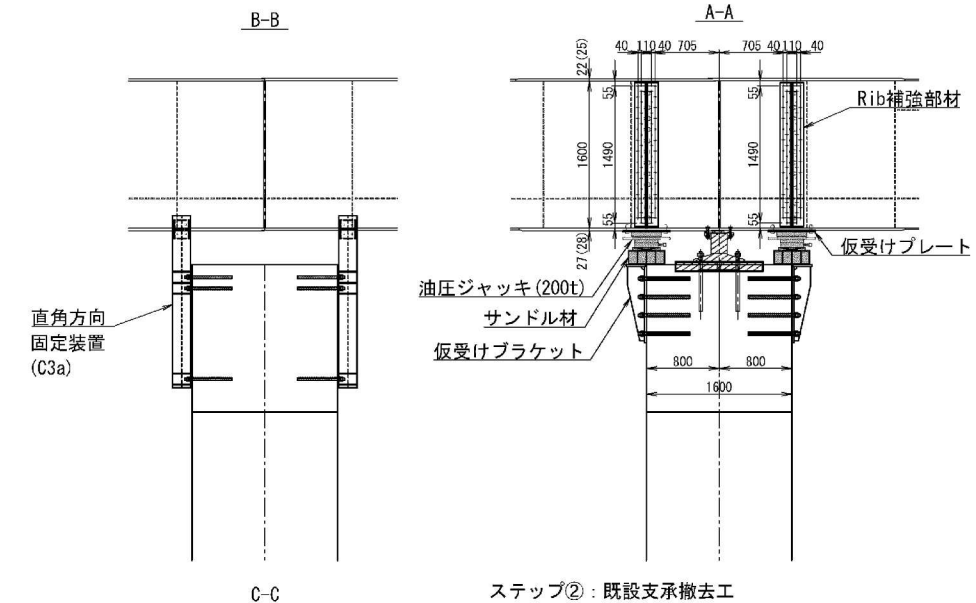
平面図(橋座面)



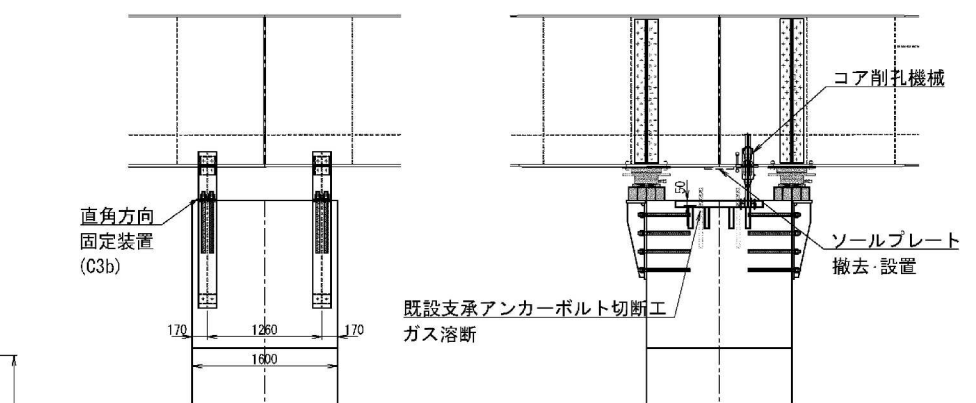
側面図

ステップ①: 直角方向固定装置, 仮受け設備の設置

※()内値はG1主桁の値を示す。

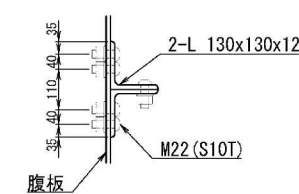


ステップ②: 既設支承撤去工

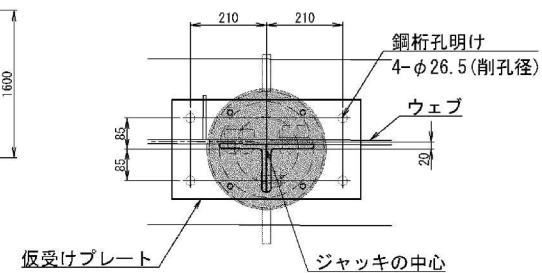


Rib補強部材断面図

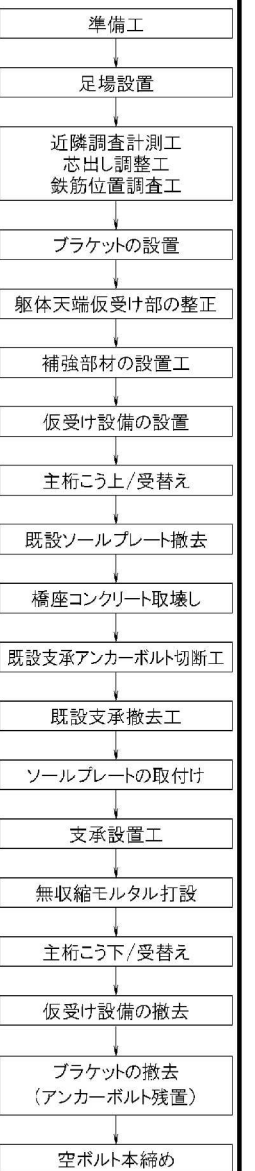
S=1:20



仮受けプレート細図 S=1:20



施工フロー



- 注記)
1. 施工・製作に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。
 2. アンカー用削孔にあたっては、鉄筋探索を行う等して既設鉄筋を切断しないよう留意すること。
 3. 既設桁への補強部材の取付面は、素地調整を行うこと。
 4. 既設桁の高力ボルト用削孔径はφ24.5mmとする。
 5. 主桁本体のボルト孔位置の詳細は各部材の詳細図を参照のこと。
 6. ボルト位置及び取付位置の変更がある場合は再度検討を行うこと。
 7. 仮受け設備とは、直角方向固定装置、仮受けプレート、Rib補強部材のことをいう。

東 関 東 自 動 車 道			
吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン P3橋脚支承取替工詳細図(3)		
縮 尺	図 示	図面番号	45/232
設計会社名	大 日 康 商 事 株 式 有 限 公 司		
施工会社名	東 日 本 高 速 道 路 株 式 有 限 公 司		
事務所名	千 葉 管 理 事 務 所		

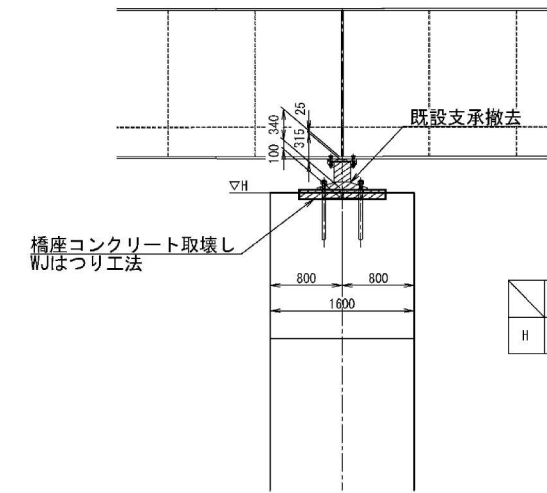
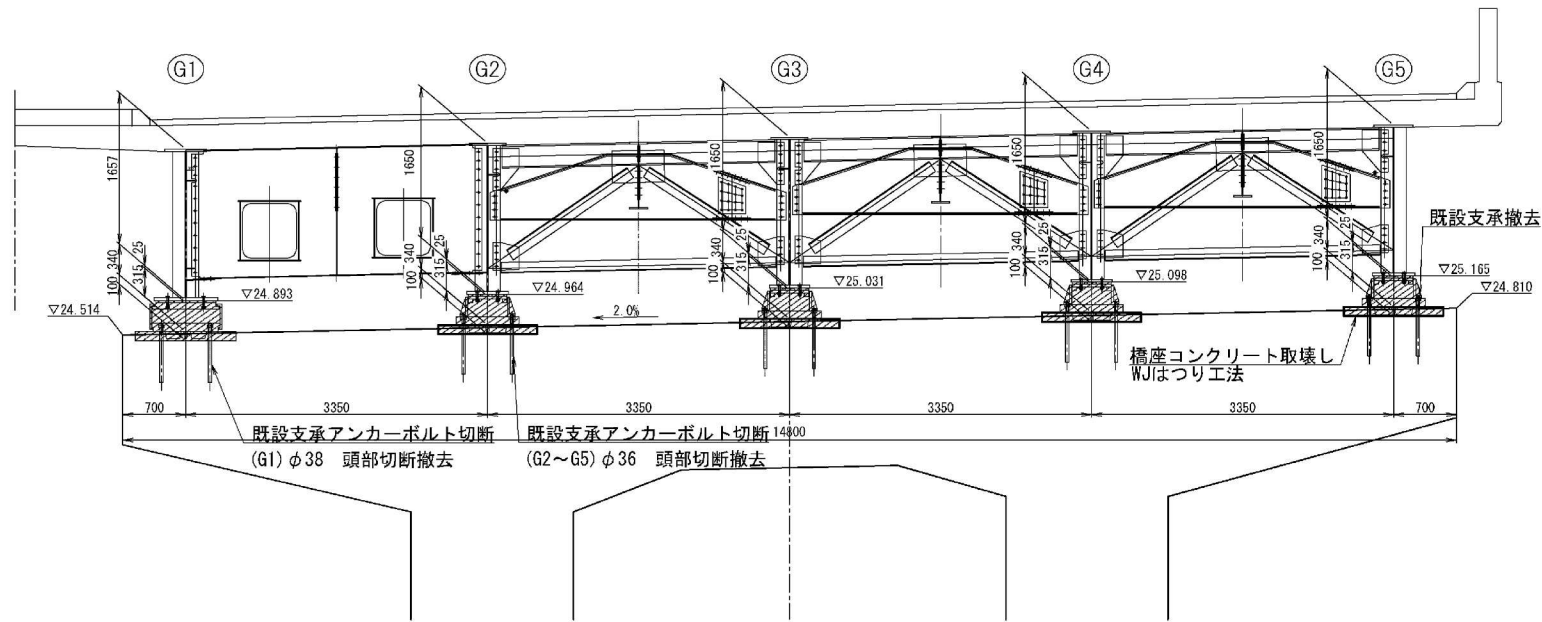
吉倉高架橋 Aライン P5橋脚支承取替工詳細図(1)
支承取替工 B P・B-7

S=1:80

断面図

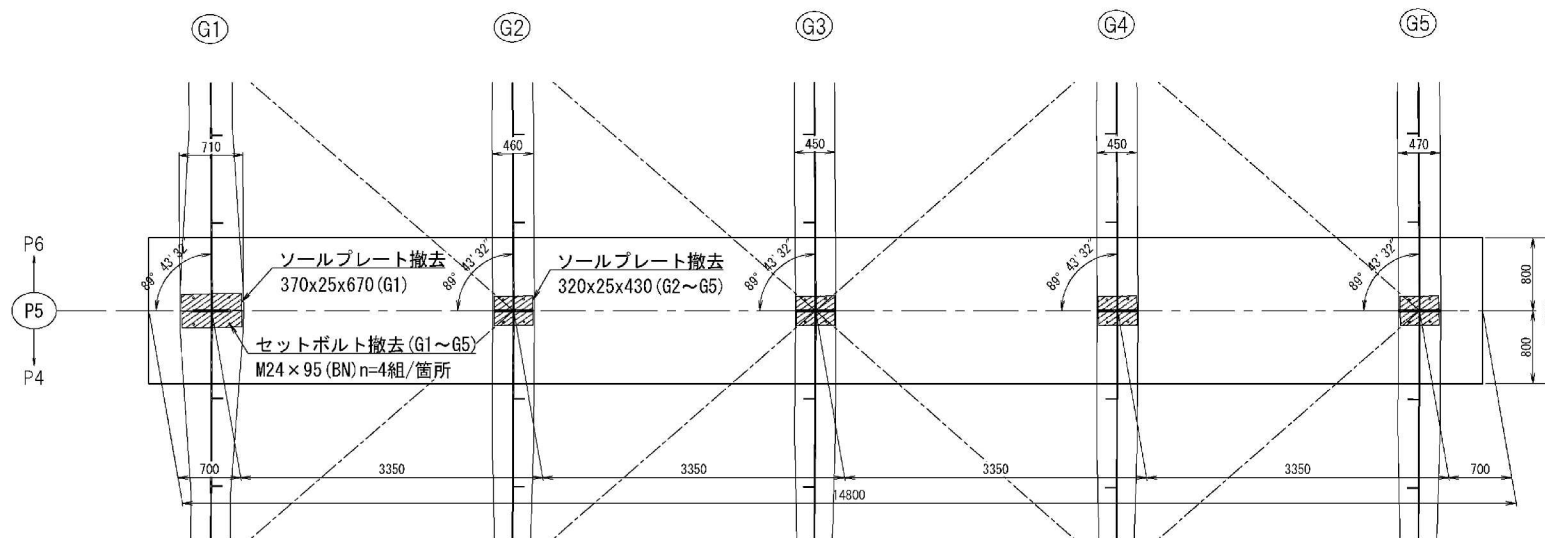
[既設部材撤去図]

側面図

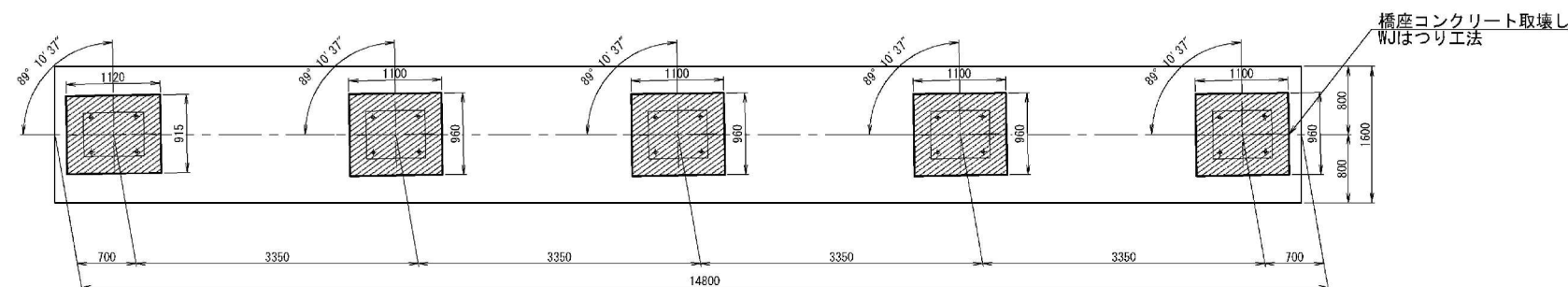


	G1	G2	G3	G4	G5
H	24.528	24.595	24.662	24.729	24.796

平面図(主桁部)



平面図(橋脚天端)



注記)
1. 施工に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。

撤去箇所

東 関 東 自 動 車 道 吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン P5橋脚支承取替工詳細図(1)		
縮 尺	図 示	図面番号	46/232
設計会社名	大 日 咨 詢 社 有 限 公 司		
施工会社名	東 日 本 高 速 道 路 株 式 有 限 公 司		
事務所名	平 塚 支 店		

吉倉高架橋 Aライン P5橋脚支承取替工詳細図(2)

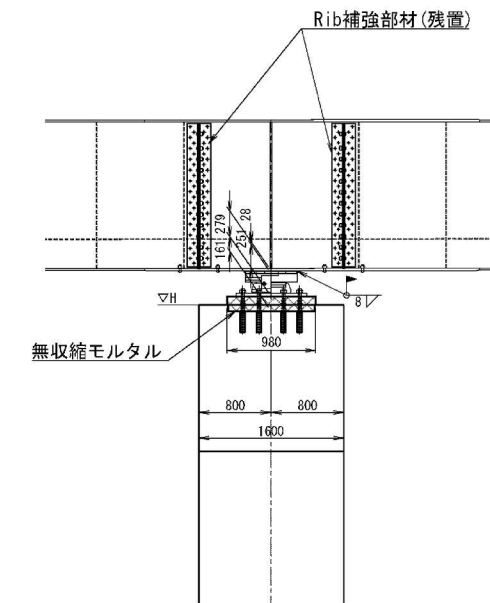
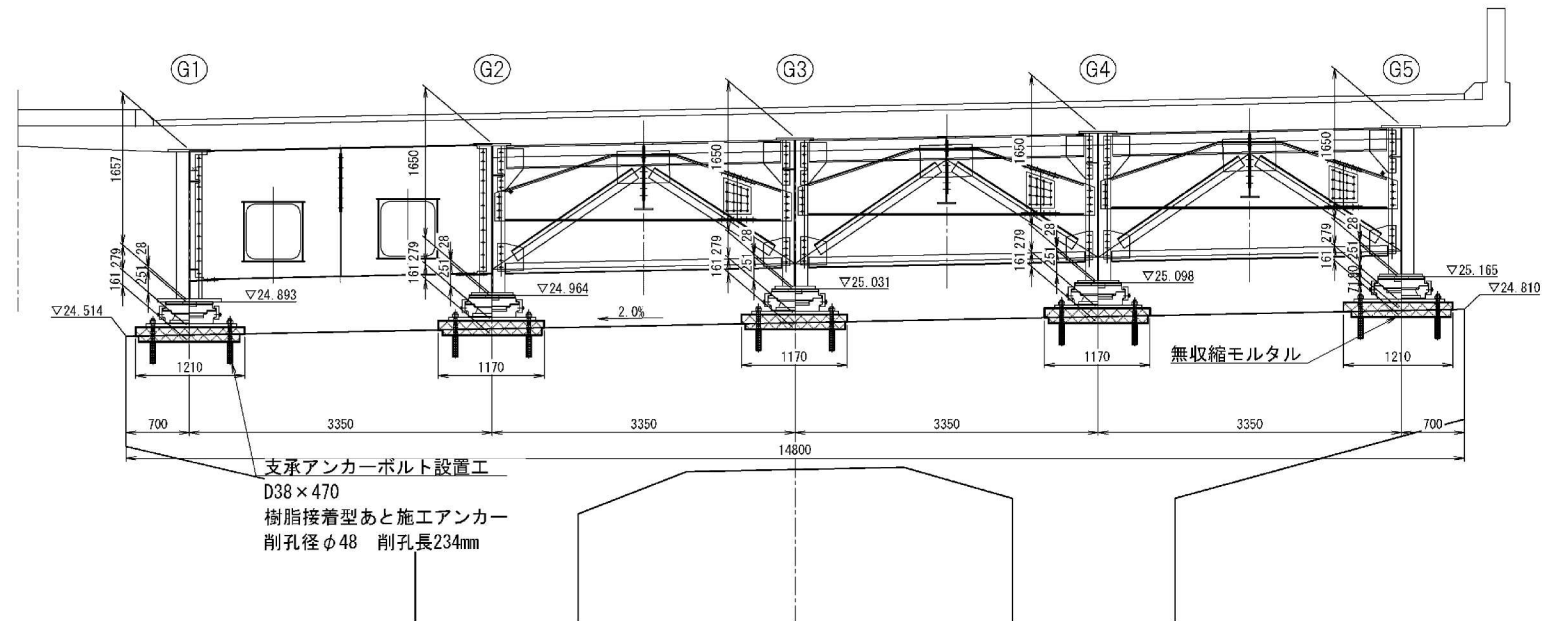
S=1:80

支承取替工 B P・B-7

[支承及び補強部材設置工]

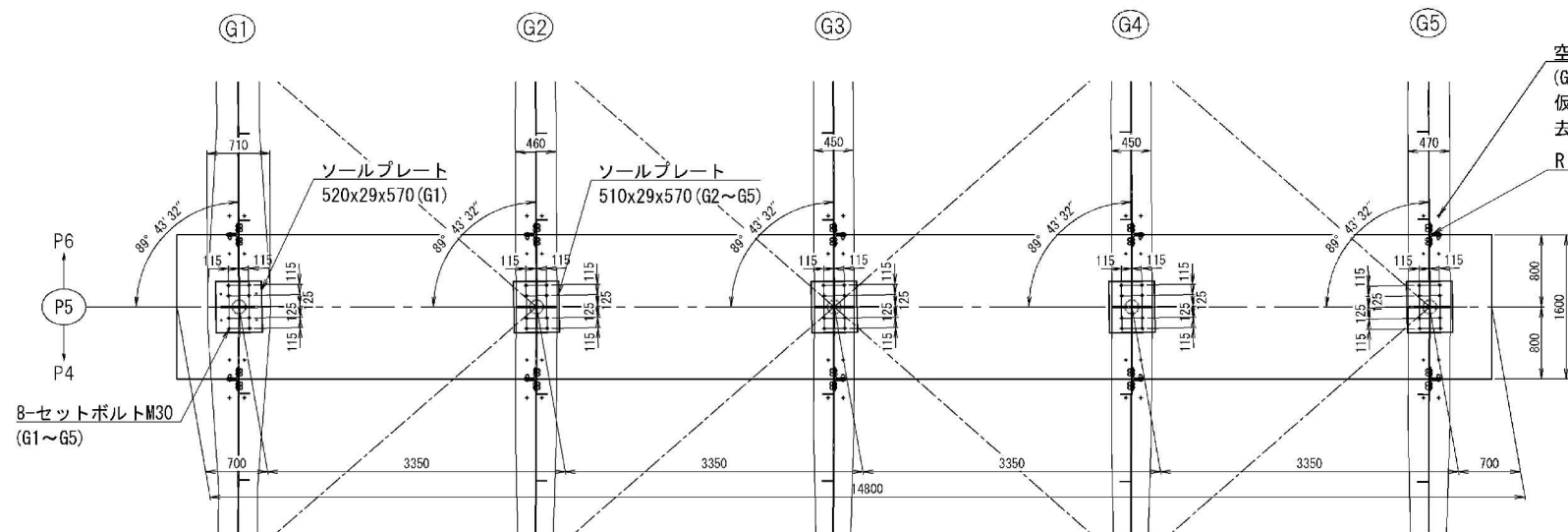
断面図

側面図

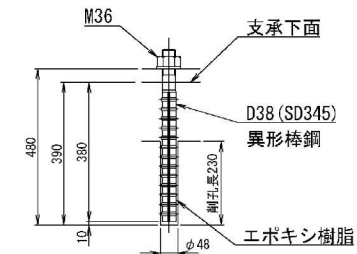


	G1	G2	G3	G4	G5
H	24.528	24.595	24.662	24.729	24.796

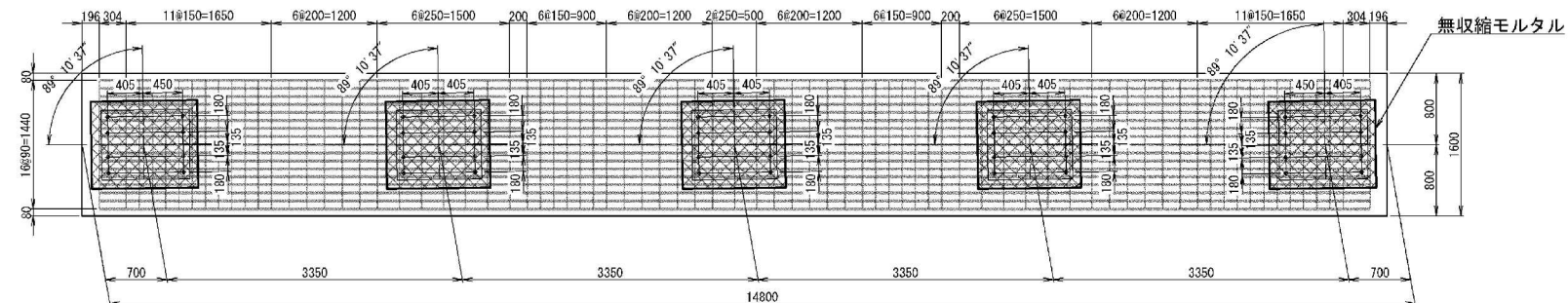
平面図(主桁部)



支承アンカーボルト部詳細図 S=1:20



平面図(橋脚天端)



無収縮モルタル

- 注記)
1. 施工・製作に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。
 2. アンカー用削孔にあたっては、鉄筋探索を行う等して既設鉄筋を切断しないよう留意すること。
 3. ボルト位置及び取付位置等の変更がある場合は、再度検討を行うこと。
 4. 特記無きRib補強部材ボルトは全てM27型高力ボルト(M22)を使用する。
 5. G1桁の既設セットボルト孔は溶接で埋戻し、グラインダ仕上げる。

東 関 東 自 動 車 道				
吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事				
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン P5橋脚支承取替工詳細図(2)			
縮 尺	図 示	図面番号	47/232	
設計会社名	大 日 コ ン サ ル タ ン ト 株 式 会 社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所			

吉倉高架橋 Aライン P5橋脚支承取替工詳細図(3)

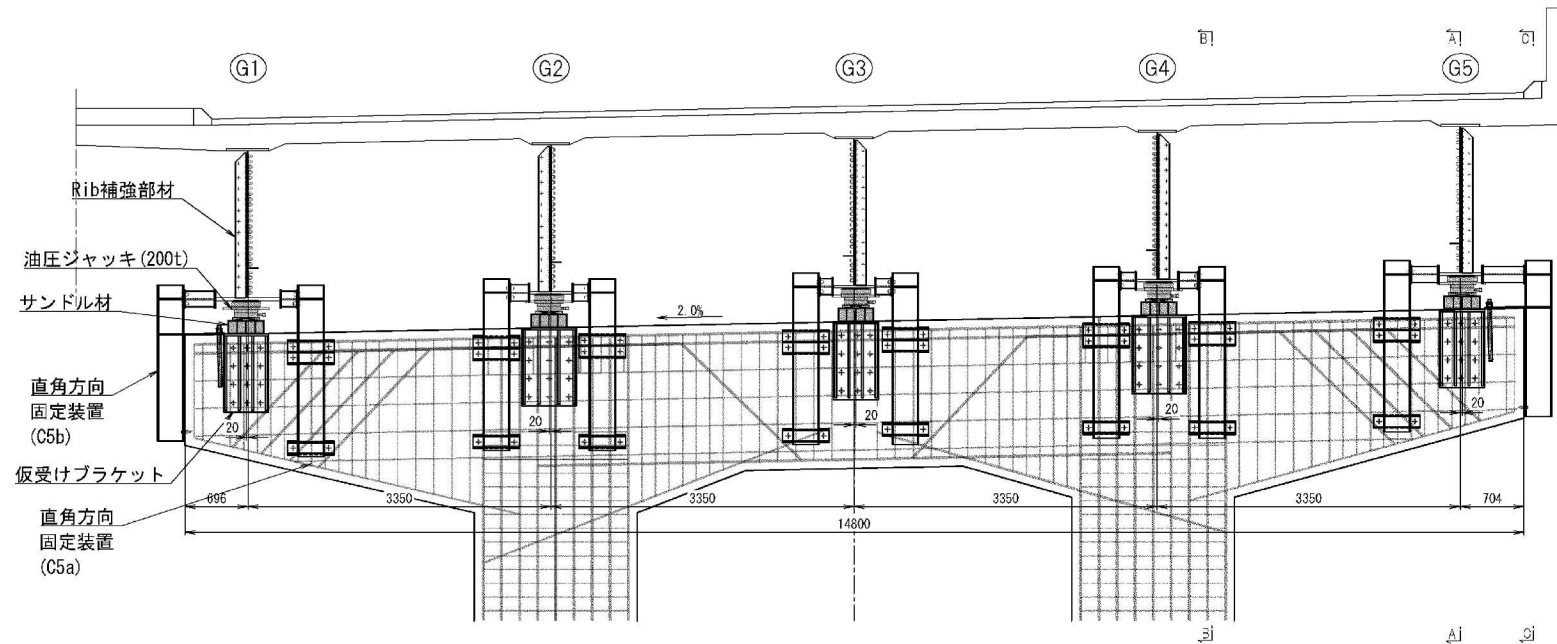
S=1:80

支承取替工 B-P・B-7

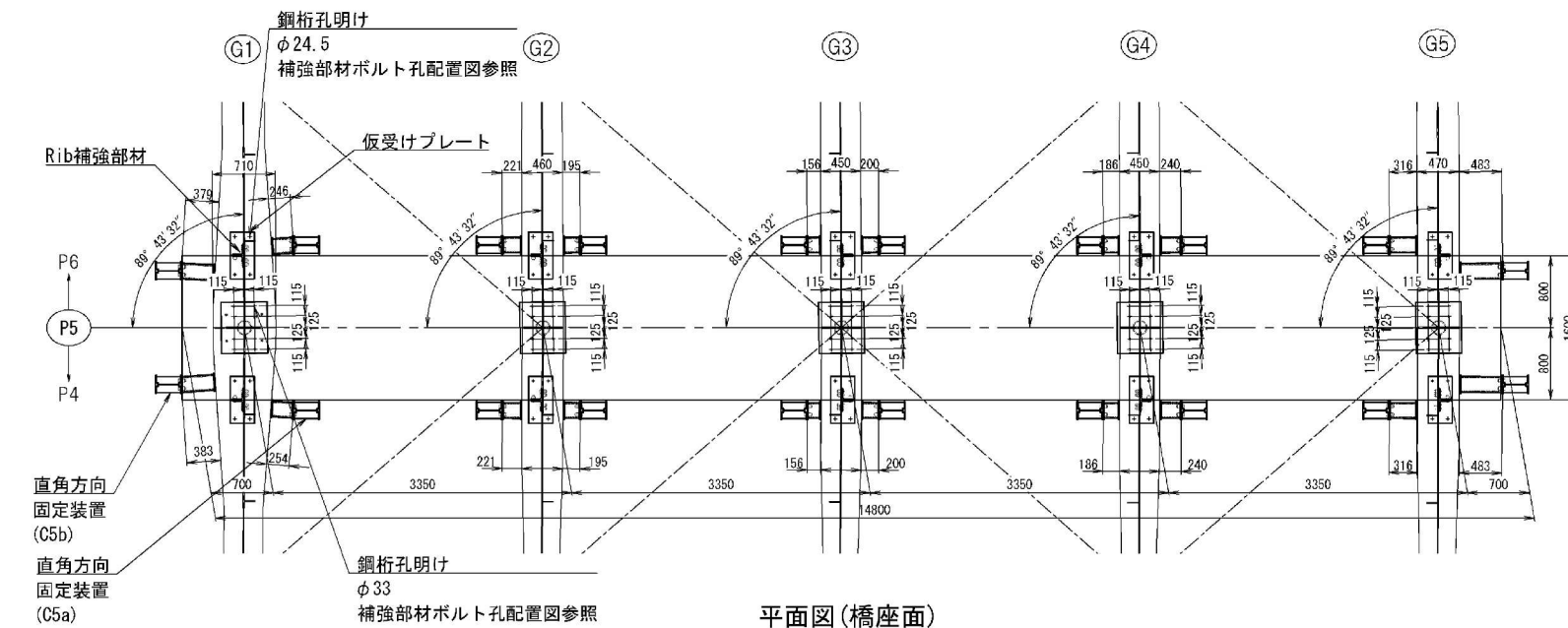
[直角方向固定装置設置工]

断面図

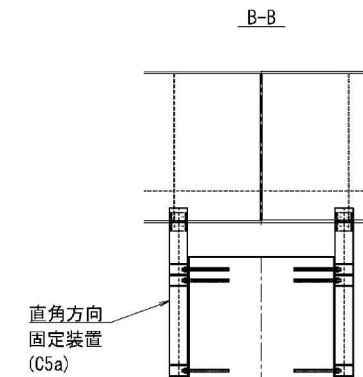
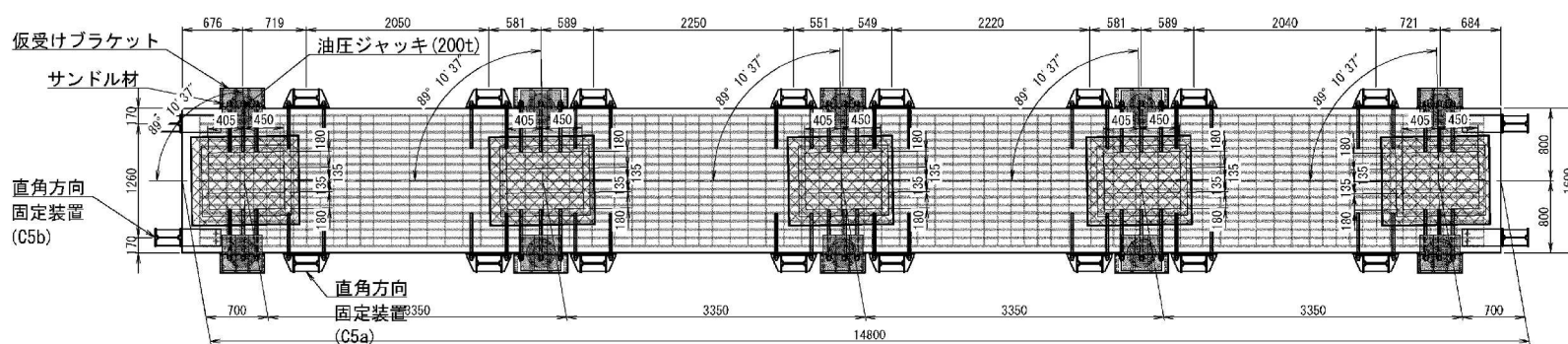
側面図



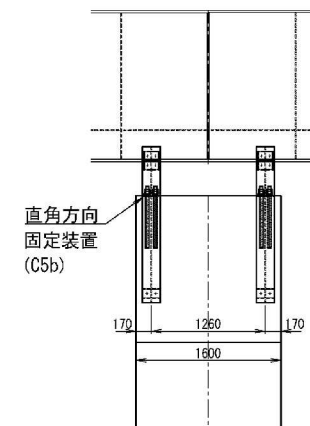
平面図(主桁部)



平面図(橋座面)

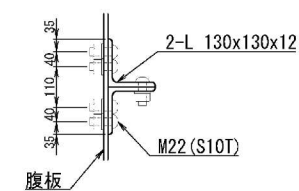


C-C

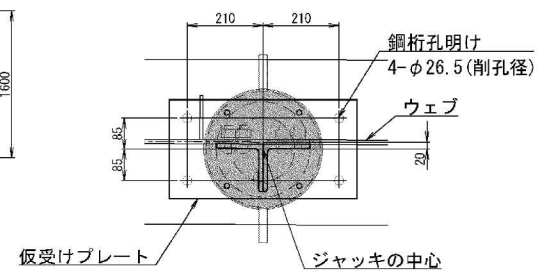


Rib補強部材断面図

S=1:20

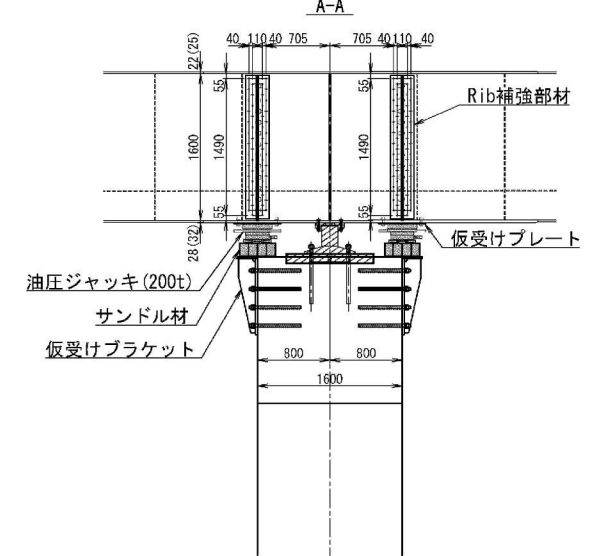


仮受けプレート細図 S=1:20

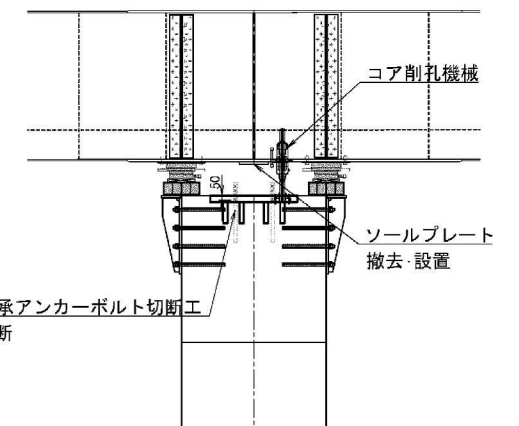


ステップ①: 直角方向固定装置, 仮受け設備の設置

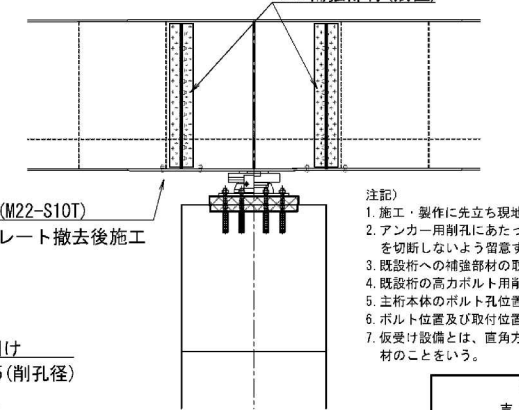
※()内値はG1主桁の値を示す。



ステップ②: 既設支承撤去工



ステップ③: 支承設置工



- 注記)
1. 施工・製作に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。
 2. アンカー用削孔にあたっては、鉄筋探索を行う等して既設鉄筋を切断しないよう留意すること。
 3. 既設桁への補強部材の取付面は、素地調整を行うこと。
 4. 既設桁の高力ボルト用削孔径はφ24.5mmとする。
 5. 主桁本体のボルト孔位置の詳細は各部材の詳細図を参照のこと。
 6. ボルト位置及び取付位置の変更がある場合は再度検討を行うこと。
 7. 仮受け設備とは、直角方向固定装置、仮受けプレート、Rib補強部材のことをいう。

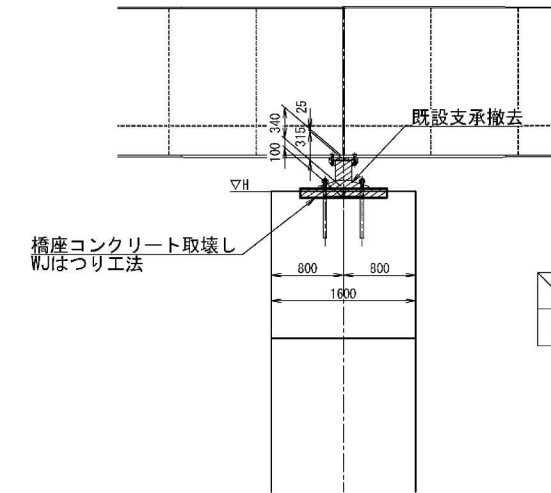
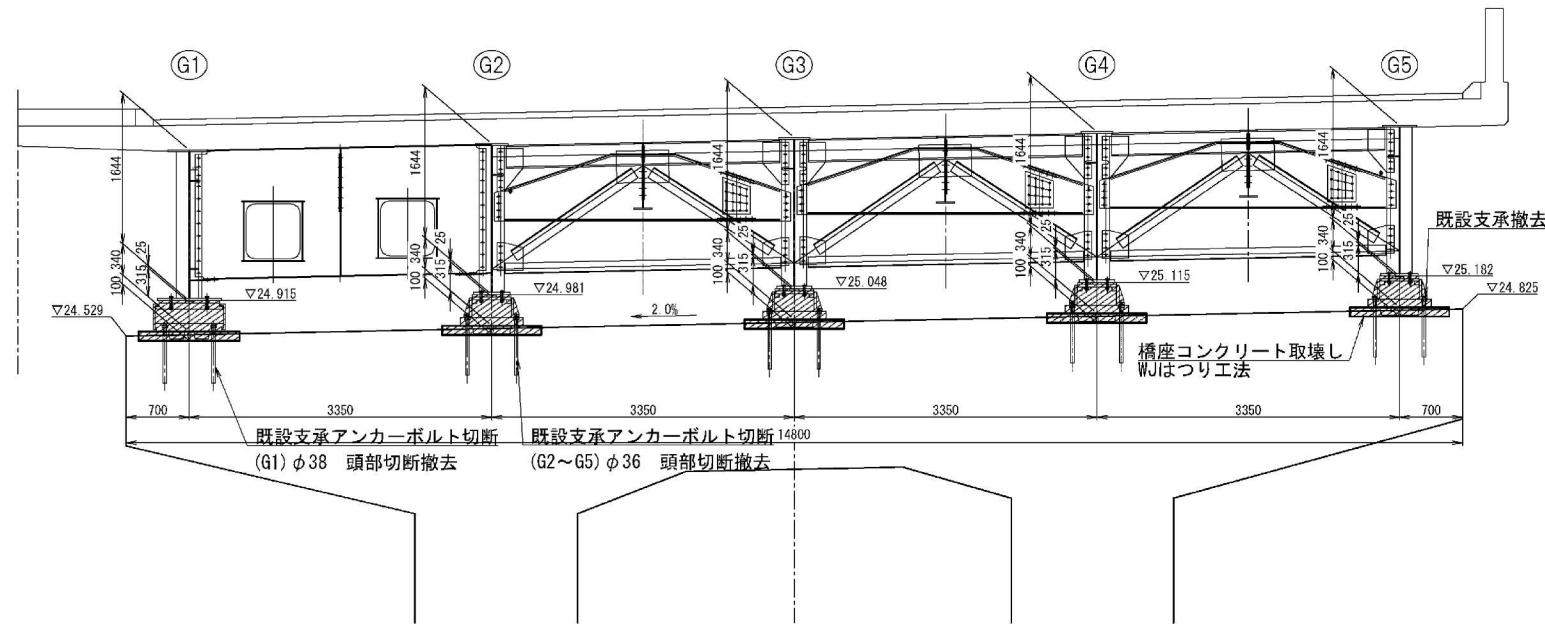
東 関 東 自 動 車 道			
吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン P5橋脚支承取替工詳細図(3)		
縮 尺	図 示	図面番号	48/232
設計会社名	大 日 康 サ ル タ ン ト 株 式 会 社		
施工会社名	東 日 本 高 速 道 路 株 式 会 社 関 東 支 社		
事務所名	千 葉 管 理 事 務 所		

吉倉高架橋 Aライン P6橋脚支承取替工詳細図(1)
支承取替工 B・B-8
[既設部材撤去図]

S=1:80

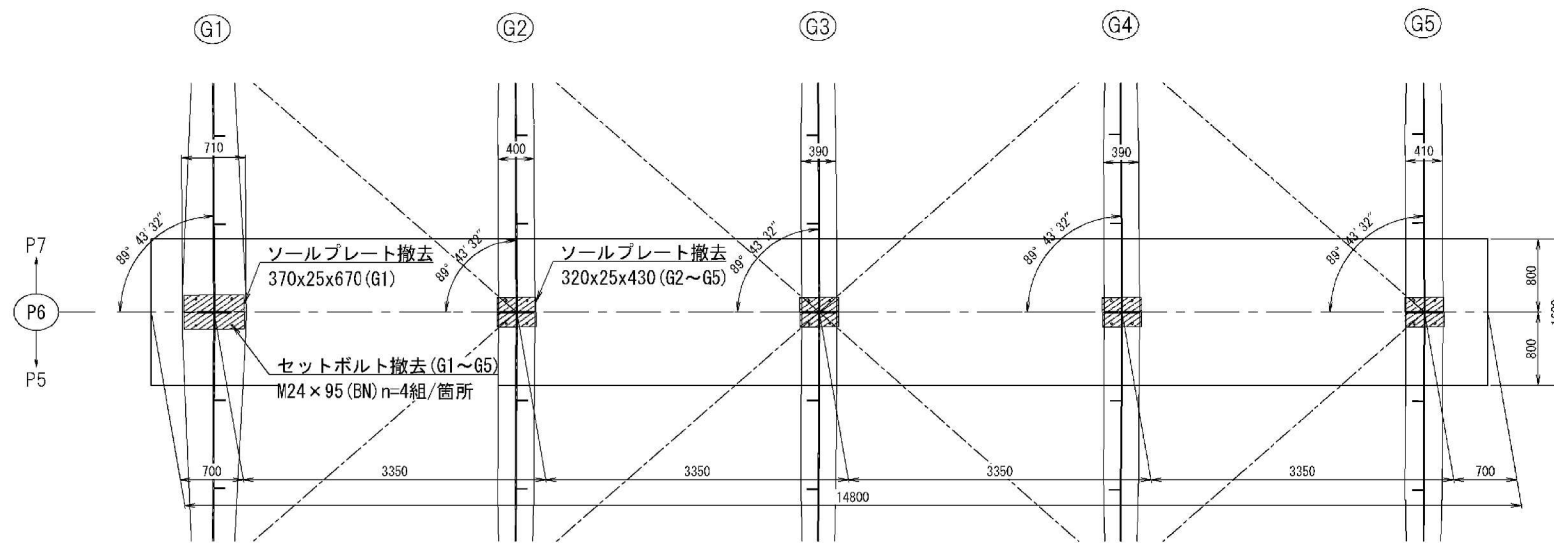
断面図

側面図

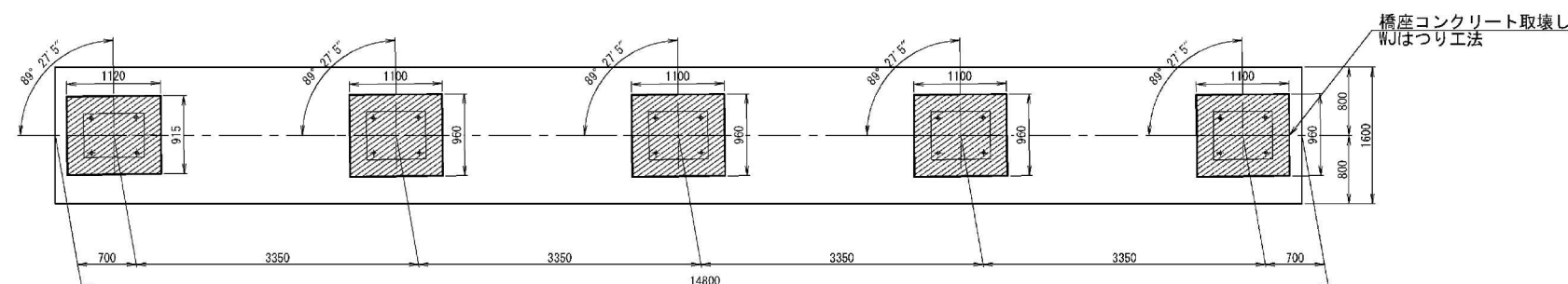


	G1	G2	G3	G4	G5
H	24.543	24.610	24.677	24.744	24.811

平面図(主桁部)



平面図(橋脚天端)



注記)
1. 施工に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。

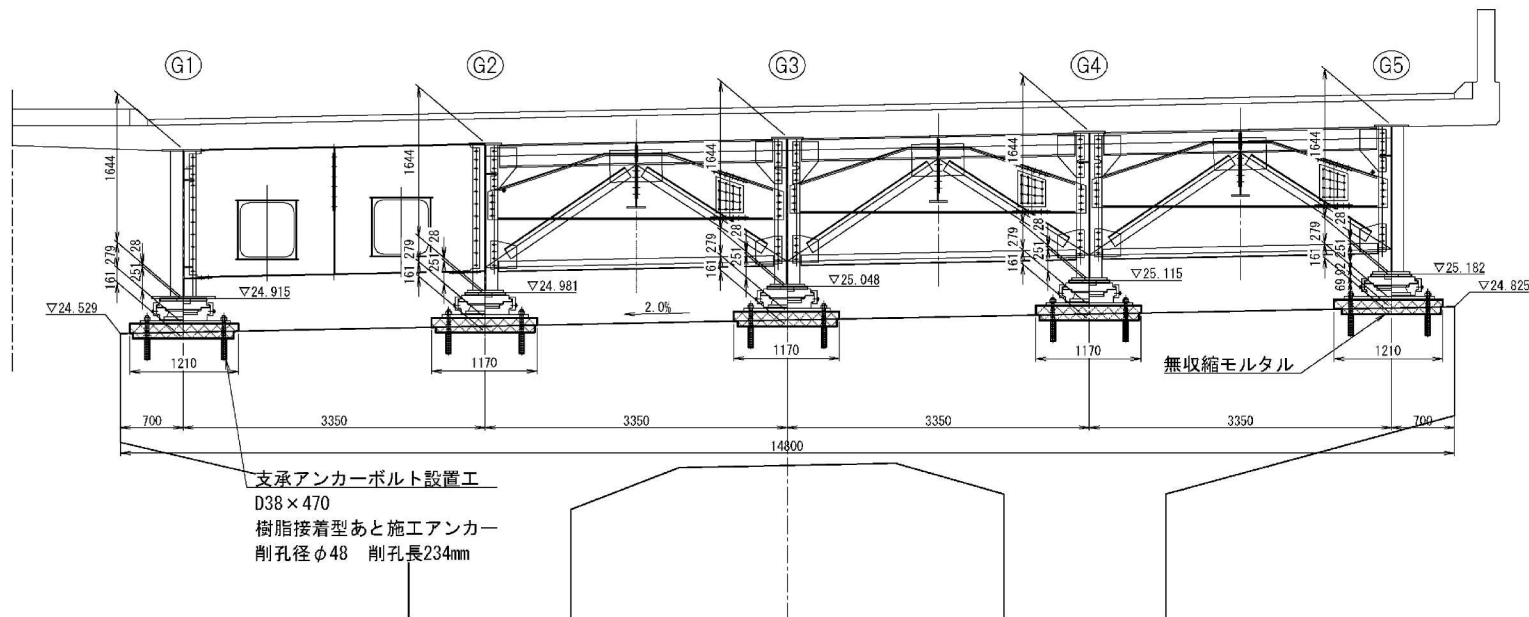
撤去箇所

東 関 東 自 動 車 道 吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン P6橋脚支承取替工詳細図(1)		
縮 尺	図 示	図面番号	49/232
設計会社名	大 日 咨 詢 サ ル タ ン ト 株 式 会 社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所		

支承取替工 BP・B-8

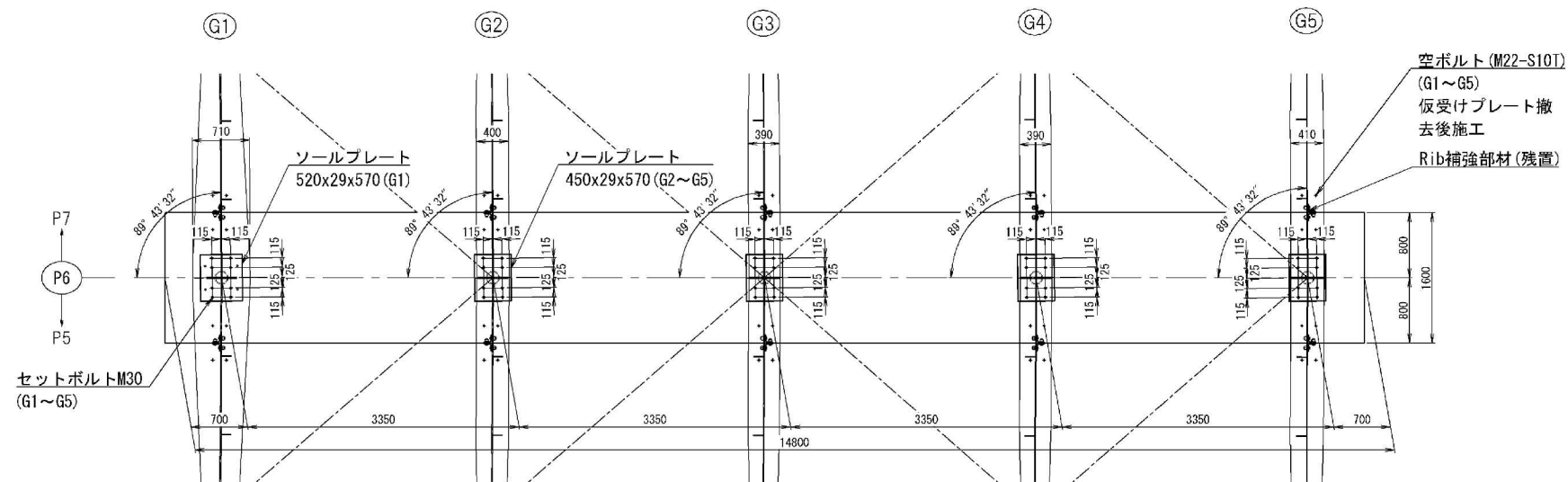
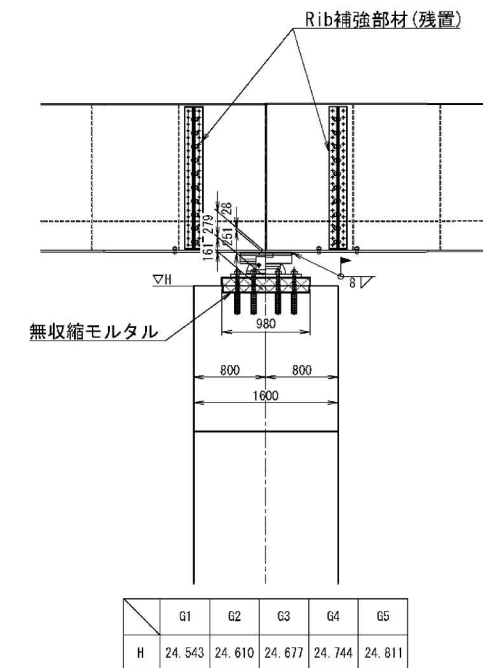
[支承及び補強部材設置工]

断面図



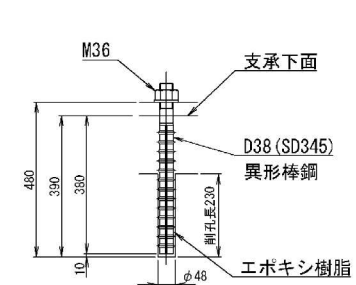
平面図(主桁部)

側面図



平面図(橋脚天端)

支承アンカーボルト部詳細図 S=1:20



 : 無収縮モルタル

- 注記)
1. 施工・製作に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。
 2. アンカー用剛孔にあたっては、鉄筋探査を行う等して既設鉄筋を切断しないよう留意すること。
 3. ポルト位置及び取付位置等の変更がある場合は、再度検討を行うこと。
 4. 再度無圧引強部材ポルトは全てM7型高力ボルト(M22)を使用する。
 5. 61mφ既設セッポルト孔は溶接で埋填し、グラインダ仕上げを行う。

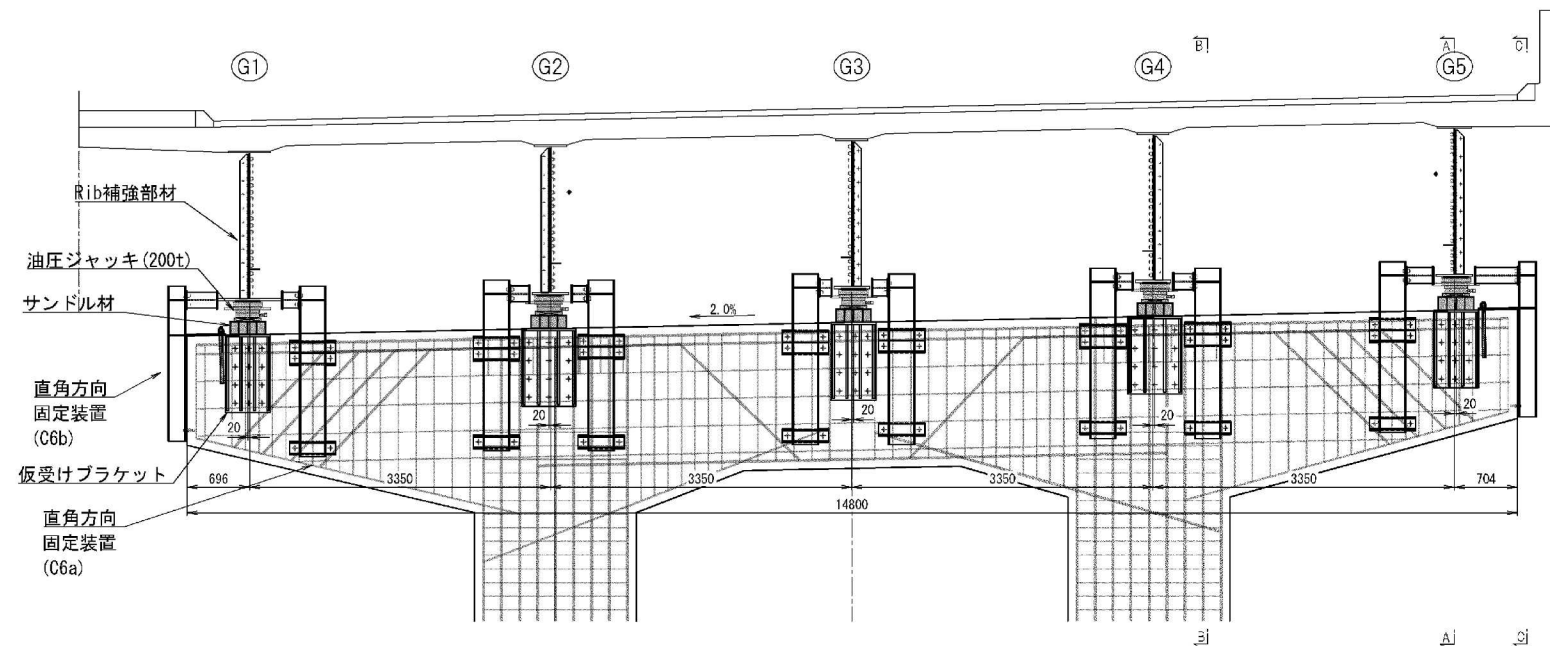
東 関 東 自 動 車 道			
吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 アライン P6橋脚支床取付詳細図(2)		
縮 尺	図 示	図面番号	50/232
設計会社名	大 日 コ ン サ ル タ ン ト 株 式 会 社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所		

吉倉高架橋 Aライン P6橋脚支承取替工詳細図(3)
支承取替工 B P・B-8
[直角方向固定装置設置工]

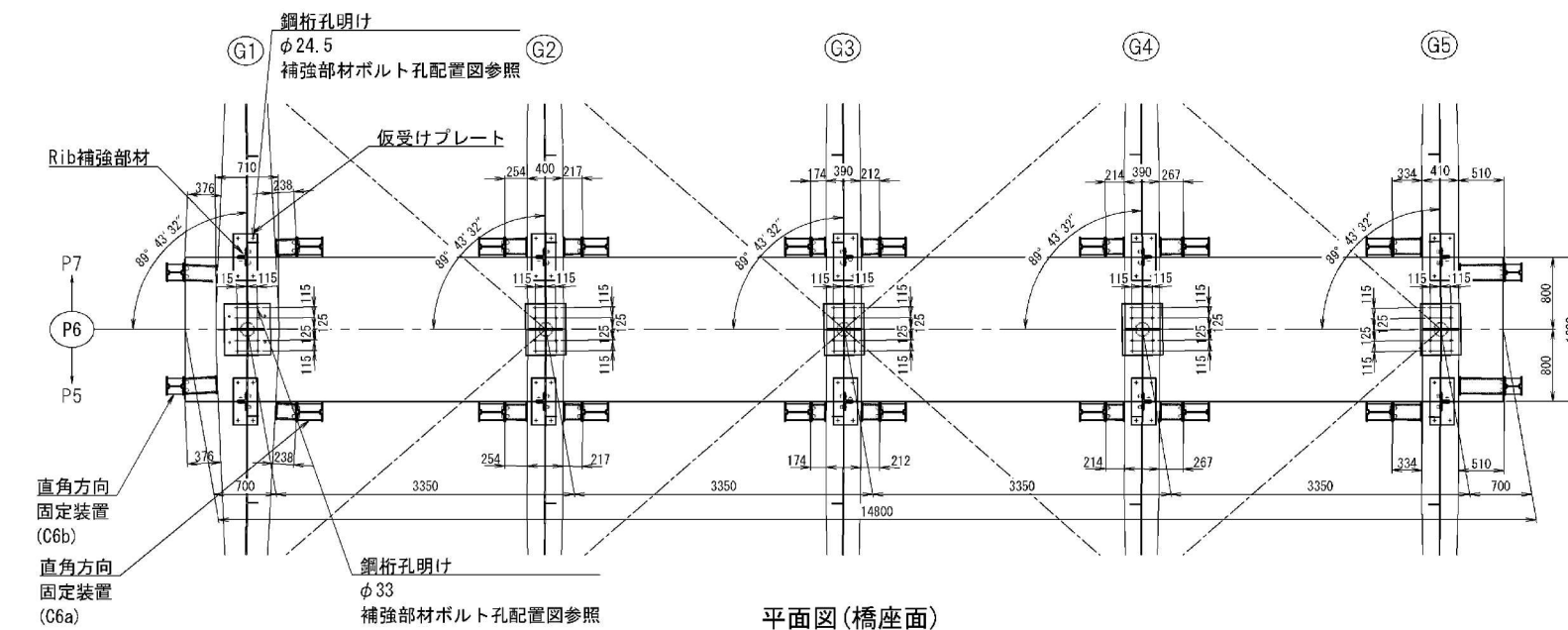
S=1:80

断面図

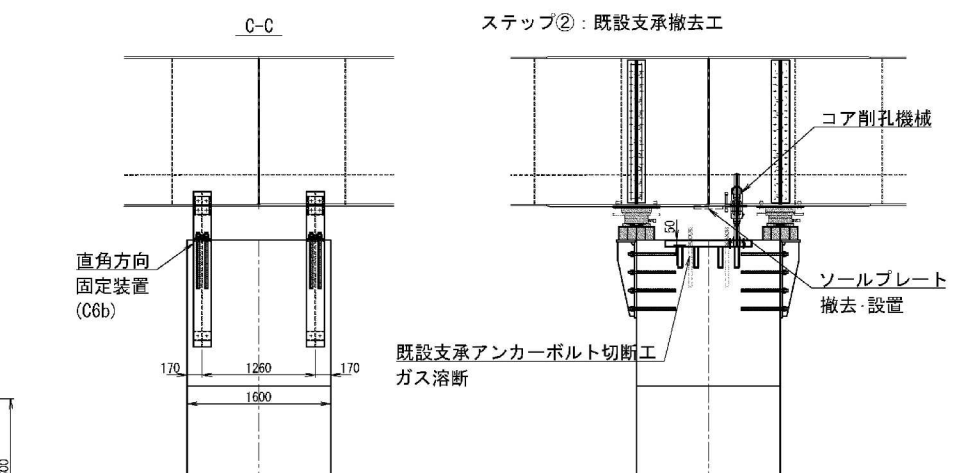
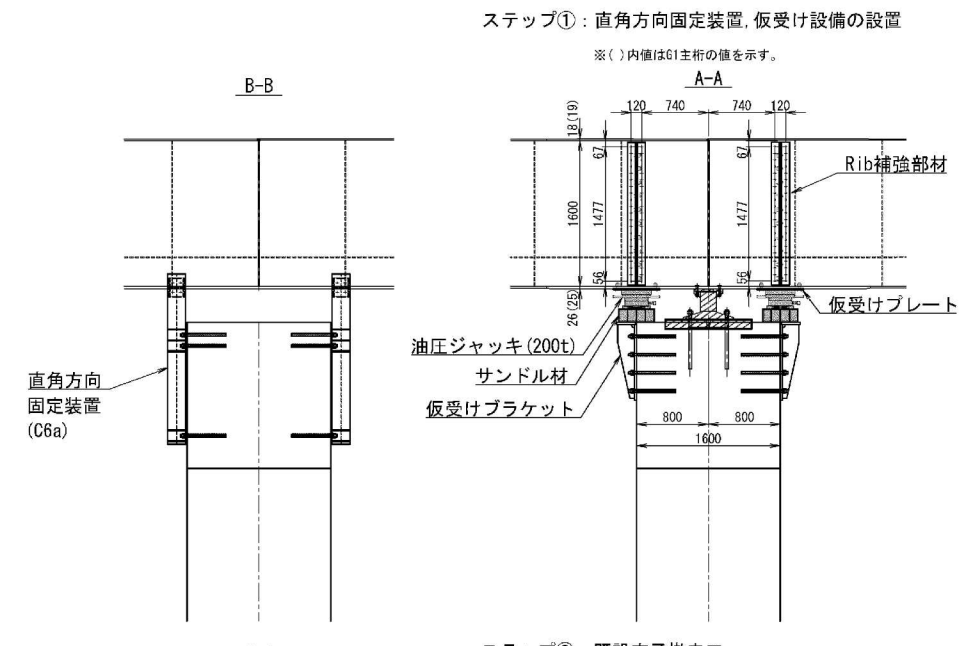
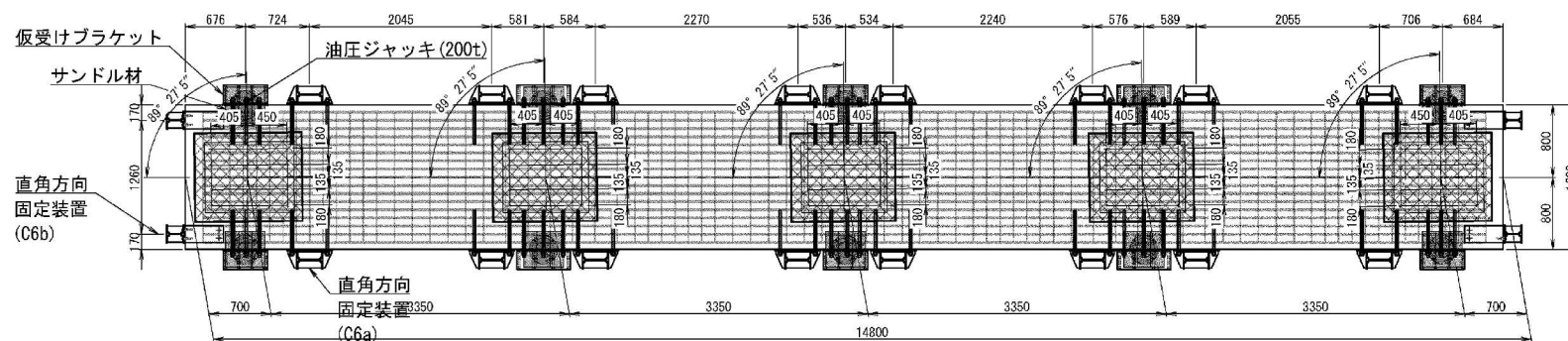
側面図



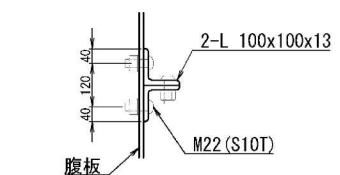
平面図(主桁部)



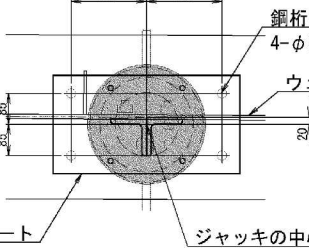
平面図(橋座面)



Rib補強部材断面図 S=1:20

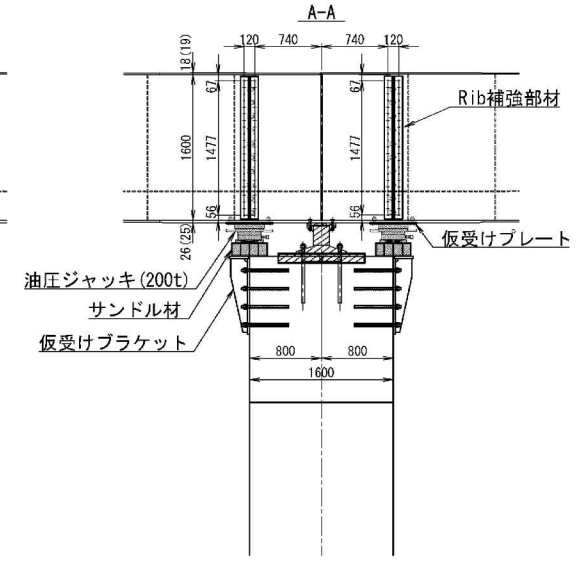


仮受けプレート細図 S=1:20

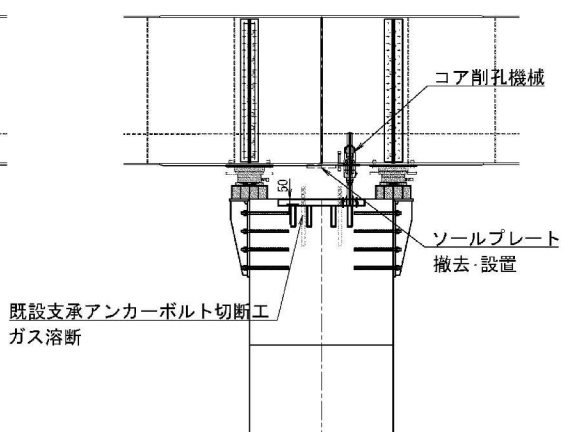


ステップ①: 直角方向固定装置, 仮受け設備の設置

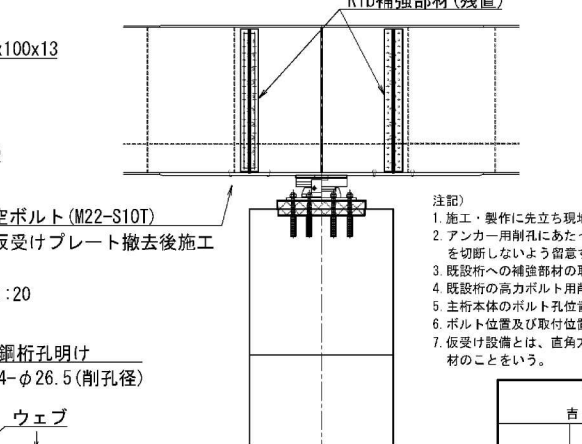
※()内値はG1主桁の値を示す。



ステップ②: 既設支承撤去工



ステップ③: 支承設置工



- 注記)
1. 施工・製作に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。
 2. アンカー用削孔にあたっては、鉄筋探索を行う等して既設鉄筋を切断しないよう留意すること。
 3. 既設桁への補強部材の取付面は、素地調整を行うこと。
 4. 既設桁の高力ボルト用削孔径はφ24.5mmとする。
 5. 主桁本体のボルト孔位置の詳細は各部材の詳細図を参照のこと。
 6. ボルト位置及び取付位置の変更がある場合は再度検討を行うこと。
 7. 仮受け設備とは、直角方向固定装置、仮受けプレート、Rib補強部材のことをいう。

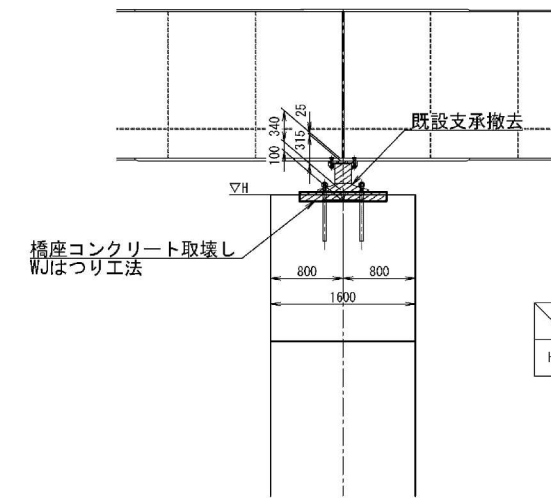
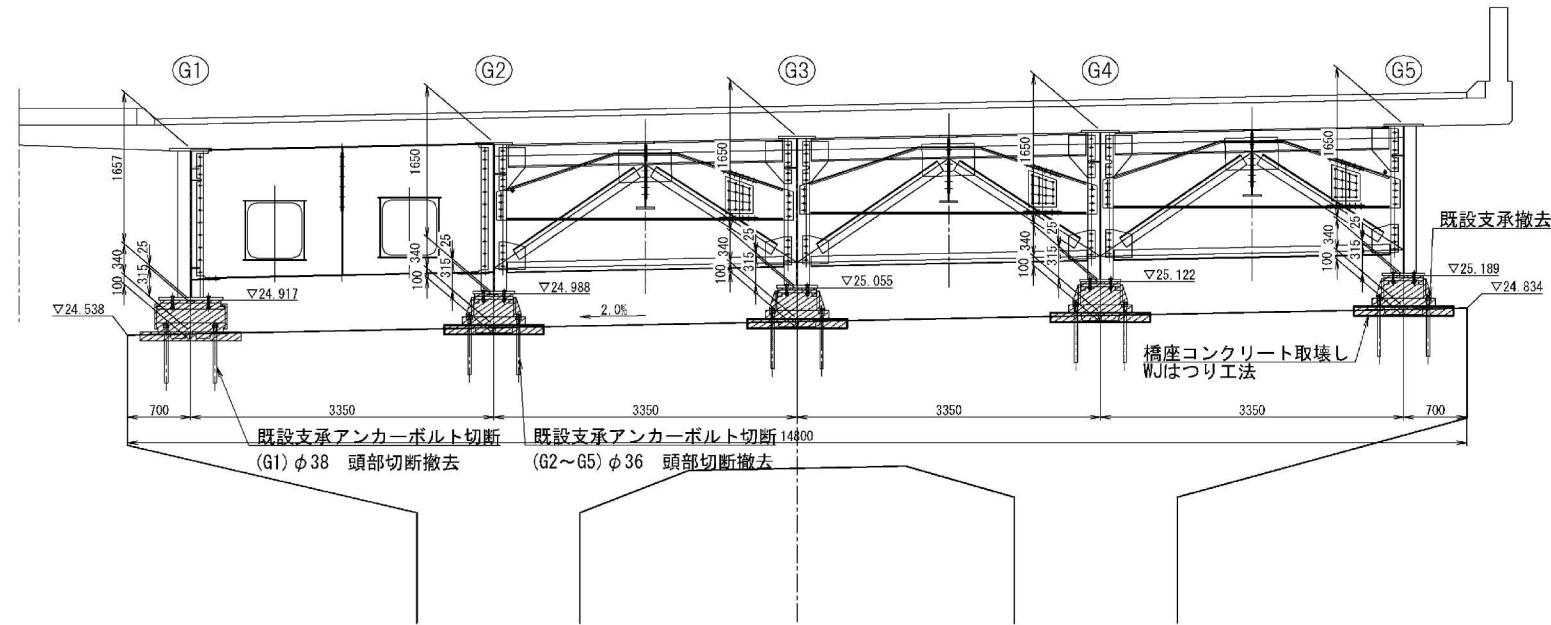
東 関 東 自 動 車 道			
吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン P6橋脚支承取替工詳細図(3)		
縮 尺	図 示	図面番号	51/232
設計会社名	大 日 咨 詢 有 限 公 司		
施工会社名	東 日 本 高 速 道 路 株 式 有 限 公 司		
事務所名	東 日 本 高 速 道 路 株 式 有 限 公 司 東 関 東 支 社		

吉倉高架橋 Aライン P7橋脚支承取替工詳細図(1)
支承取替工 B・P・B-9
[既設部材撤去図]

S=1:80

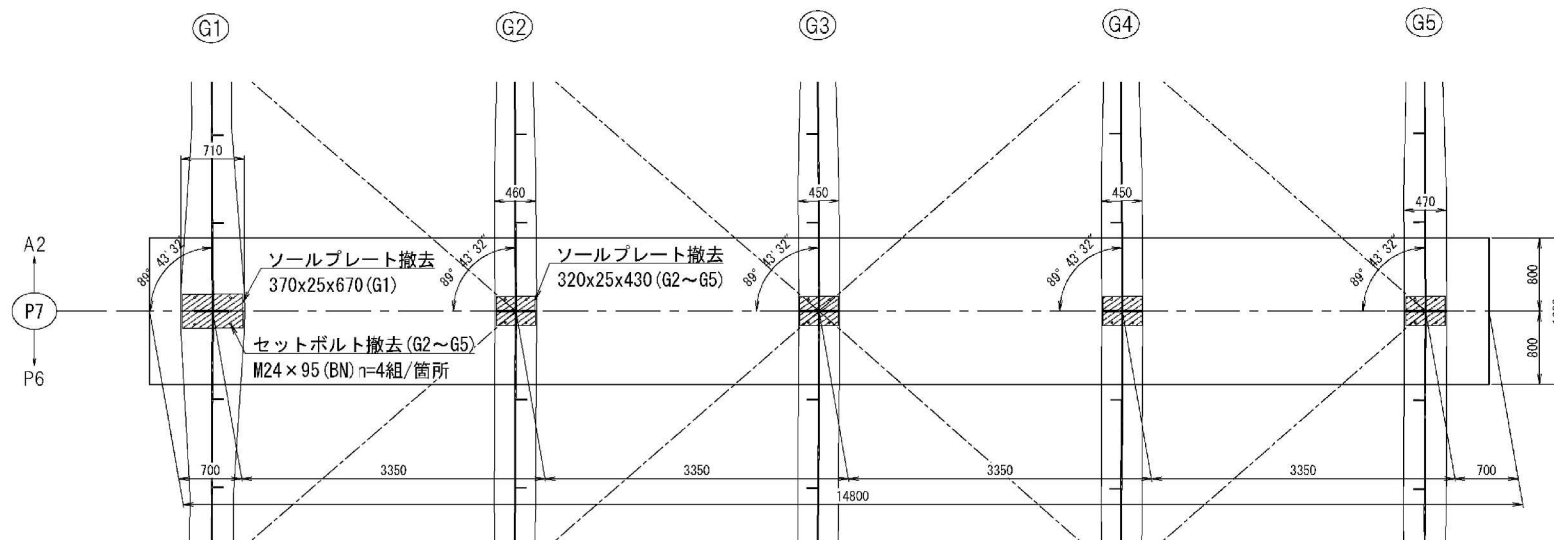
断面図

側面図

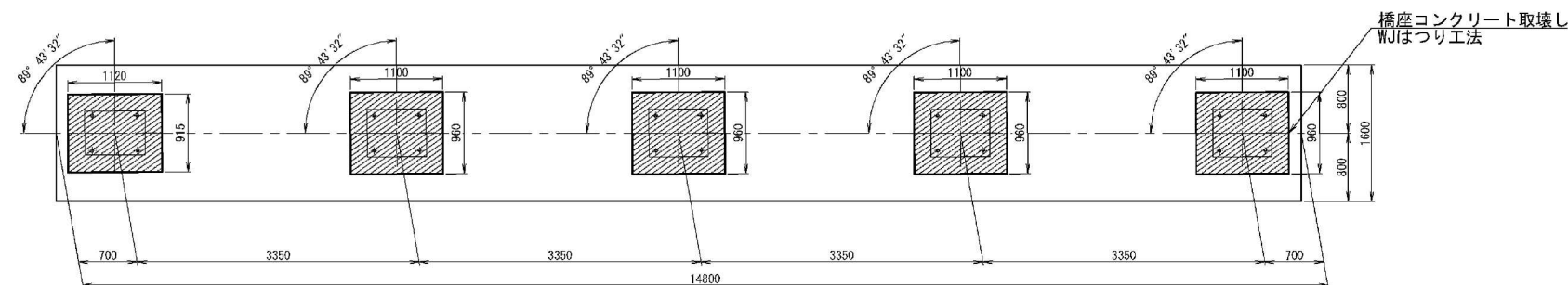


	G1	G2	G3	G4	G5
H	24.552	24.619	24.686	24.753	24.820

平面図(主桁部)



平面図(橋脚天端)



注記)
1. 施工に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。

撤去箇所

東 関 東 自 動 車 道 吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン P7橋脚支承取替工詳細図(1)		
縮 尺	図 示	図面番号	52/232
設計会社名	大 日 コ ン サ ル タ ン ト 株 式 会 社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	千葉 管 理 事 務 所		

吉倉高架橋 Aライン P7橋脚支承取替工詳細図（2）

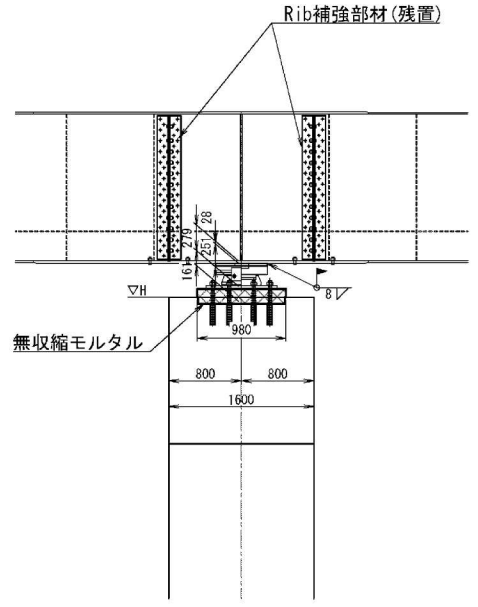
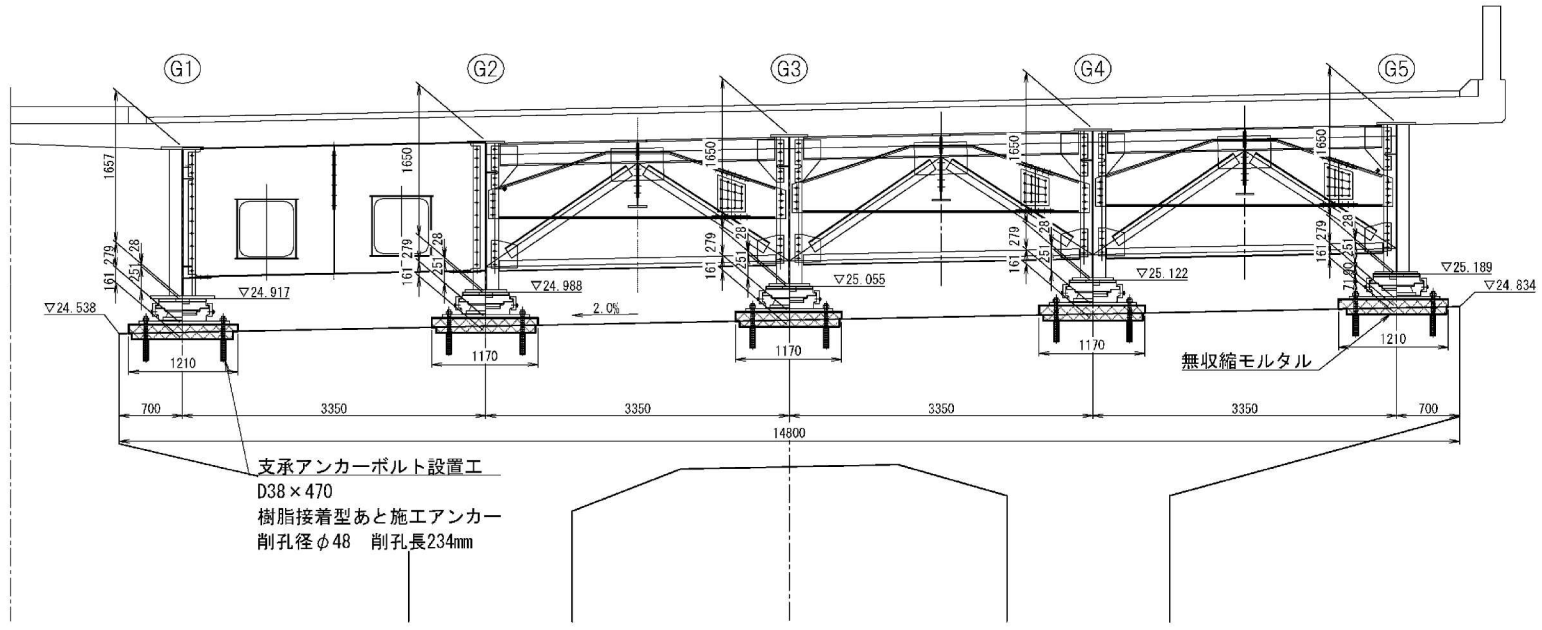
S=1:80

支承取替工 BP・B-9

[支承及び補強部材設置工]

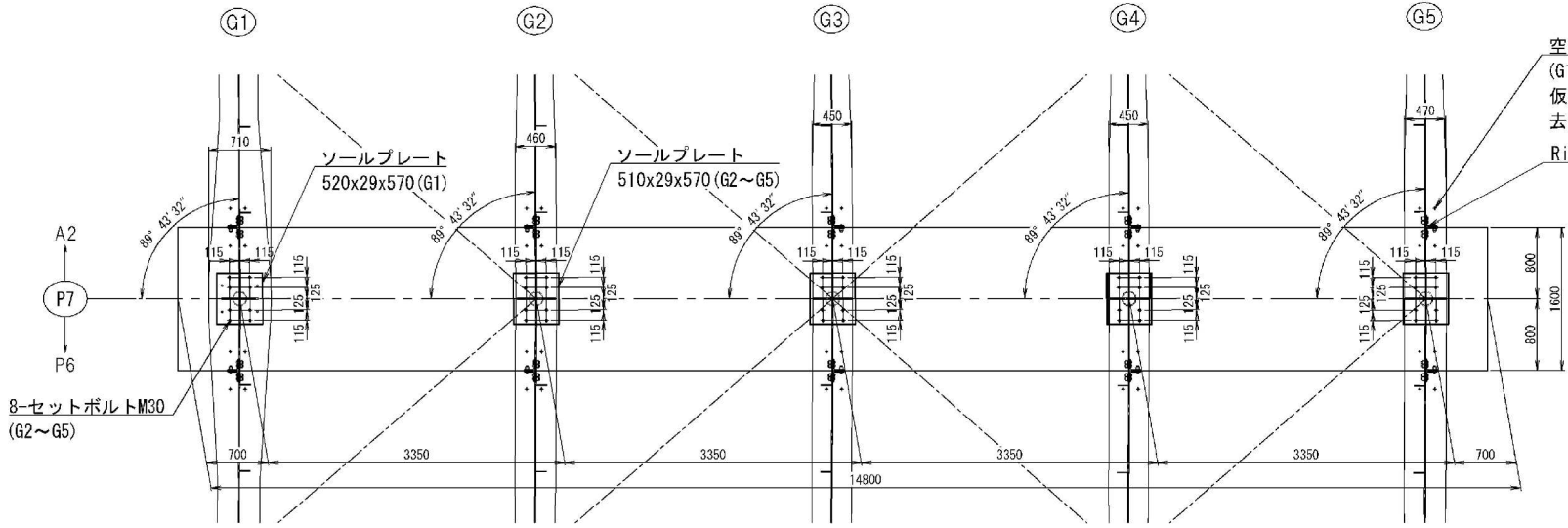
断面図

側面図

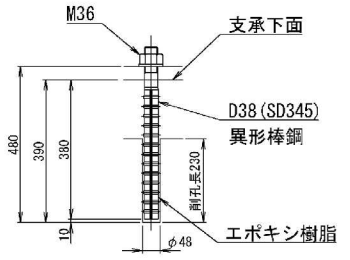


	G1	G2	G3	G4	G5
H	24.552	24.619	24.686	24.753	24.820

平面図(主桁部)

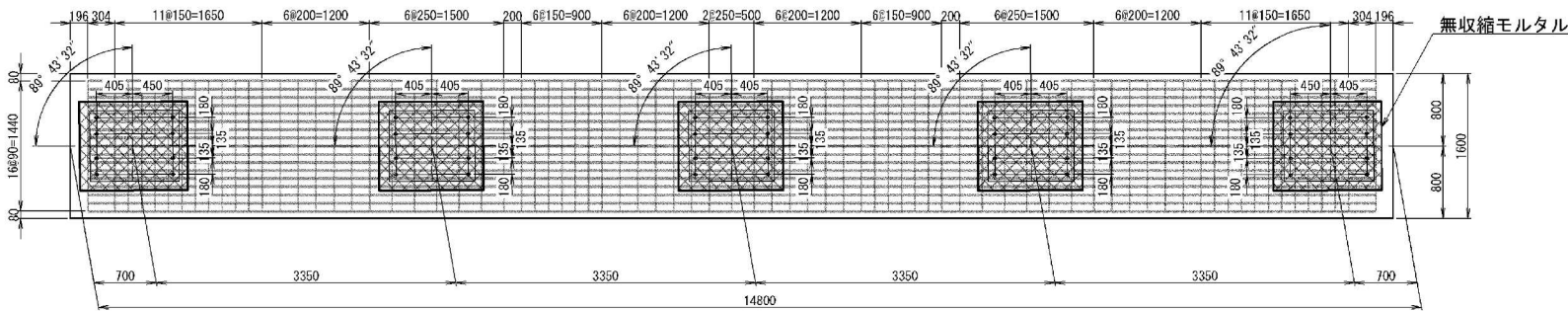


支承アンカーボルト部詳細図 S=1:20



平面図(橋脚天端)

無収縮モルタル



- 注記)
1. 施工・製作に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。
 2. アンカー用削孔にあたっては、鉄筋探索を行う等して既設鉄筋を切断しないよう留意すること。
 3. ボルト位置及び取付位置等の変更がある場合は、再度検討を行うこと。
 4. 特記無きRib補強部材ボルトは全てM27型高力ボルト(M22)を使用する。
 5. G1桁の既設セットボルト孔は溶接で埋戻し、グラインダ仕上げを行う。

東 関 東 自 動 車 道	吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン P7橋脚支承取替工詳細図(2)
縮 尺	図 示
図面番号	53/232
設計会社名	大 日 咨 詢 有 限 公 司
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社
事務所名	千葉管理事務所

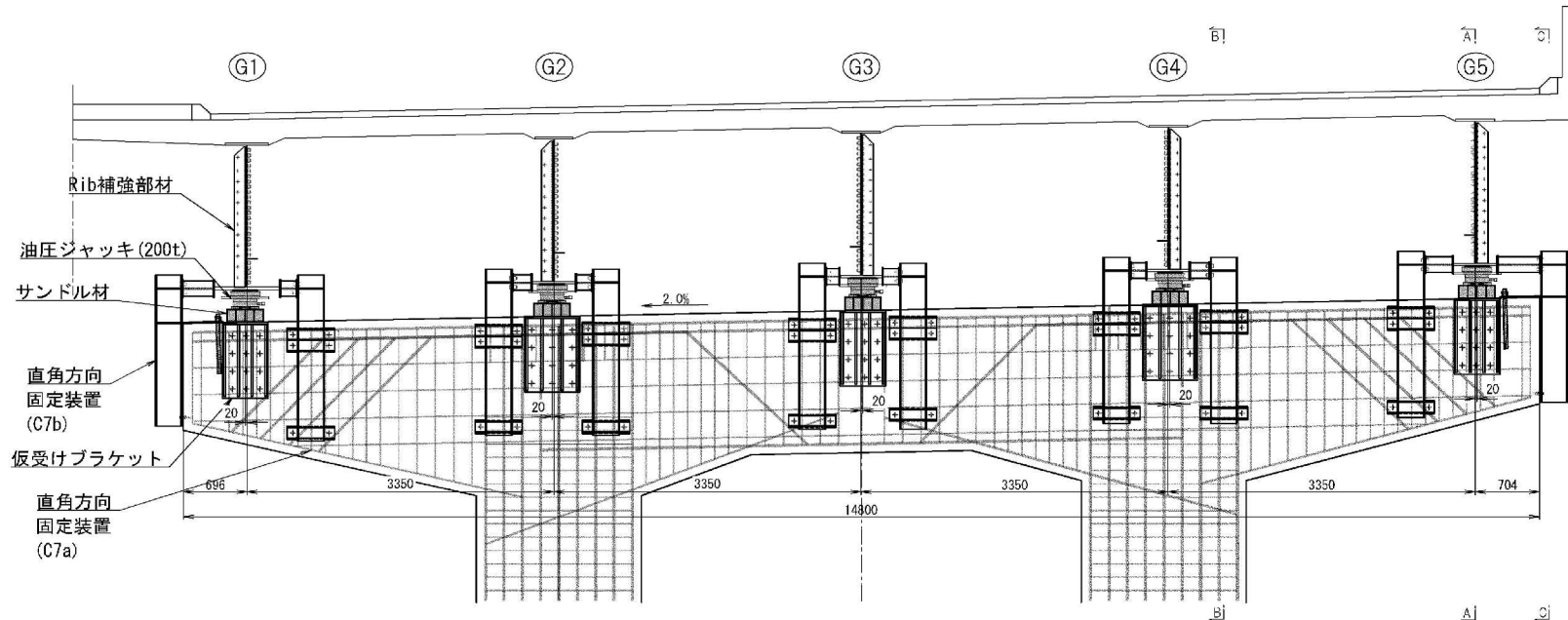
吉倉高架橋 Aライン P7橋脚支承取替工詳細図 (3)

S=1:80

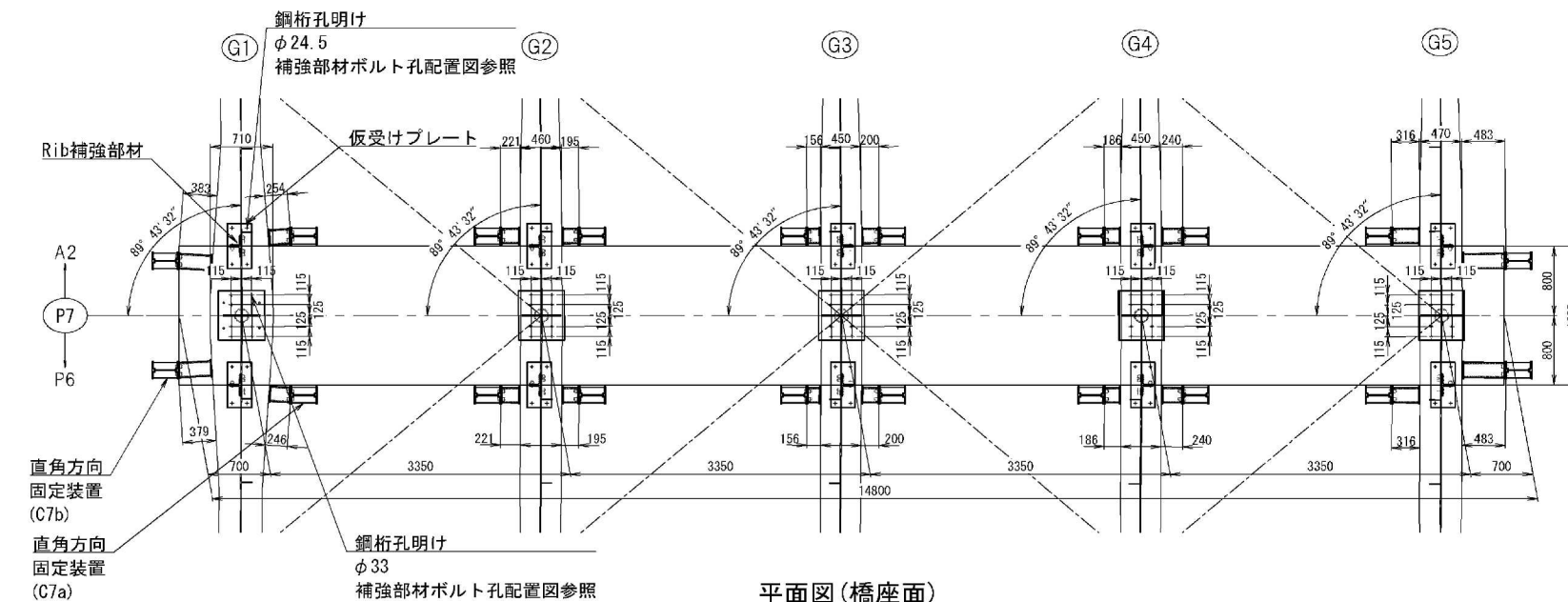
支承取替工 B P・B-9

[直角方向固定装置設置工]

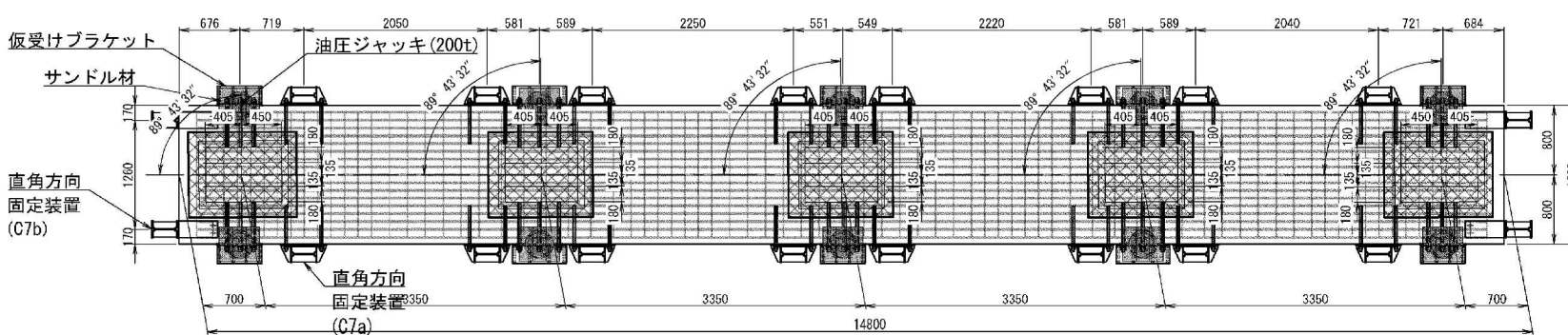
断面図



平面図 (主桁部)



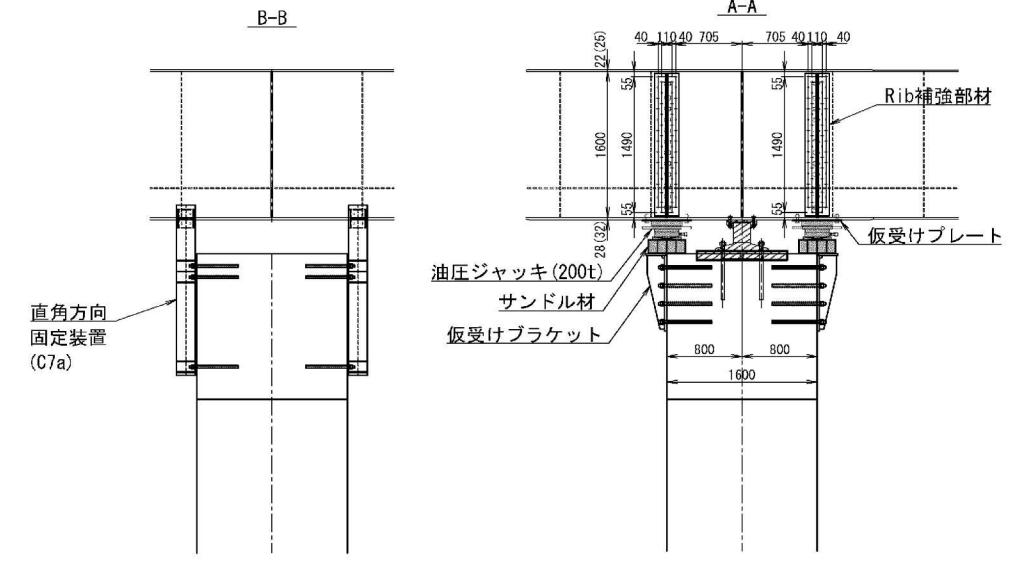
平面図 (橋座面)



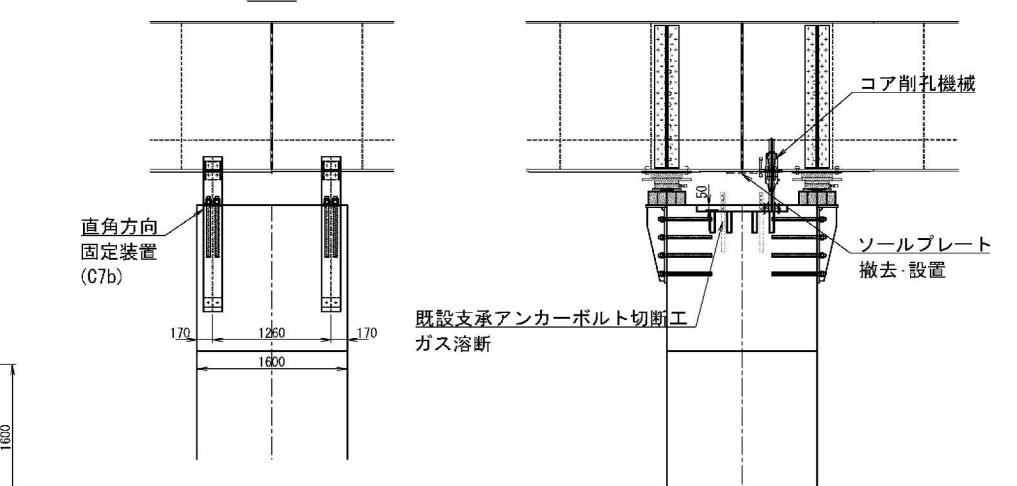
側面図

ステップ①: 直角方向固定装置, 仮受け設備の設置

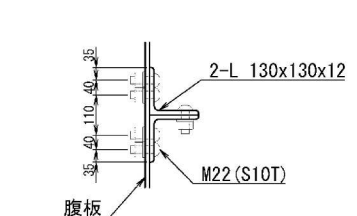
※()内値はG1主桁の値を示す。



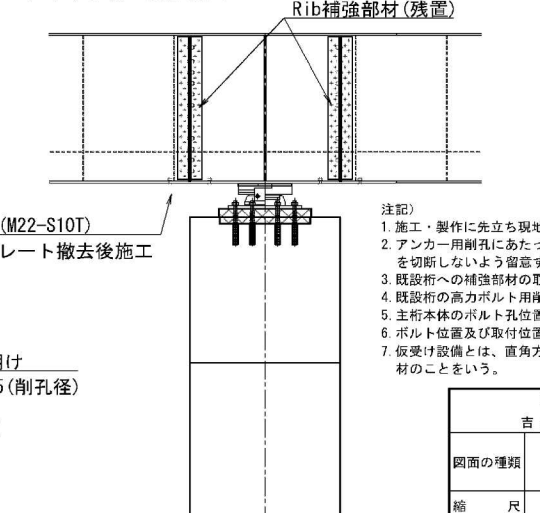
ステップ②: 既設支承撤去工



Rib補強部材断面図 S=1:20



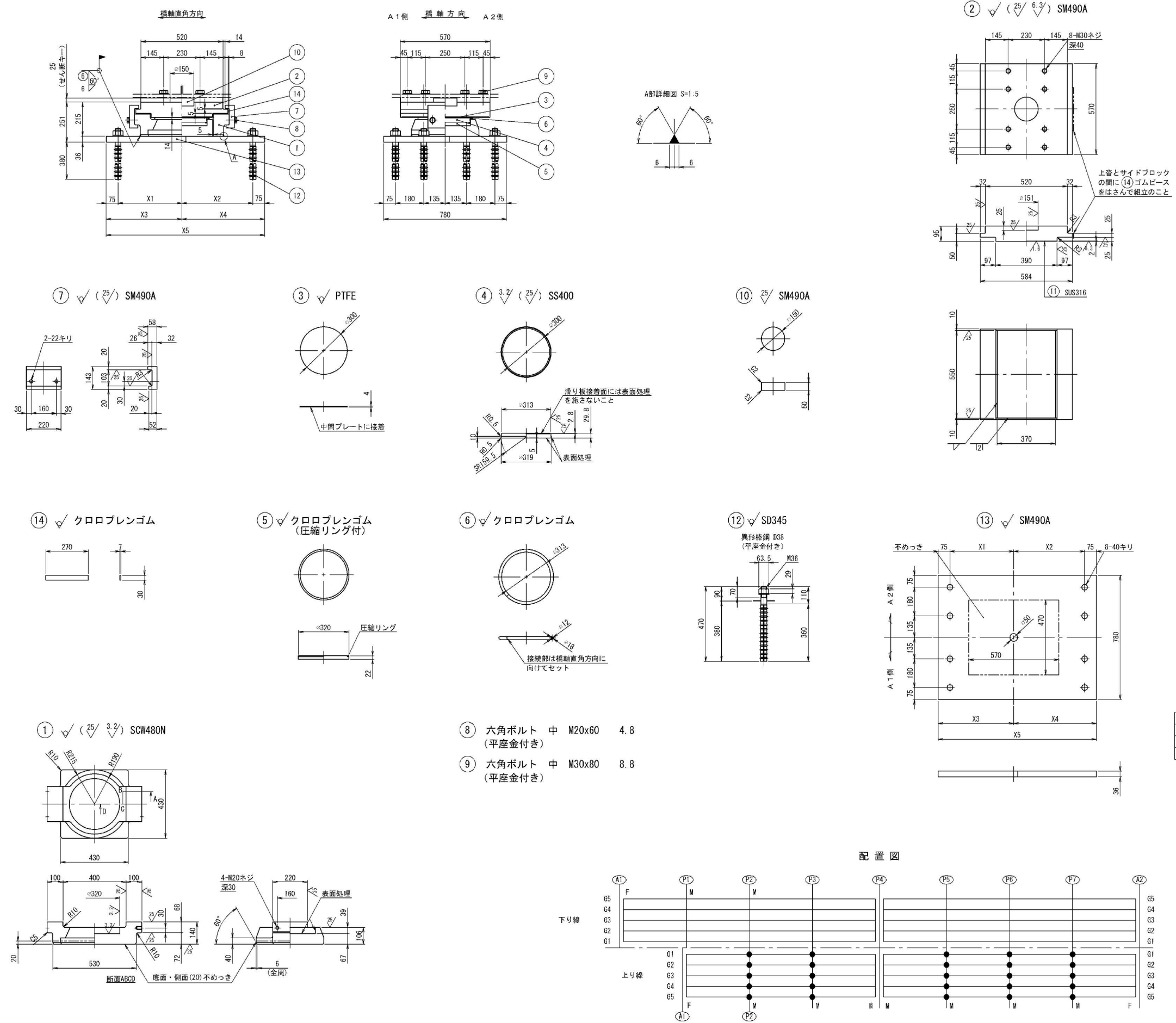
ステップ③: 支承設置工



- 注記)
1. 施工・製作に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。
 2. アンカー用削孔にあたっては、鉄筋探索を行う等して既設鉄筋を切断しないよう留意すること。
 3. 既設桁への補強部材の取付面は、素地調整を行うこと。
 4. 既設桁の高力ボルト用削孔径はφ24.5mmとする。
 5. 主桁本体のボルト孔位置の詳細は各部分の詳細図を参照のこと。
 6. ボルト位置及び取付位置の変更がある場合は再度検討を行うこと。
 7. 仮受け設備とは、直角方向固定装置、仮受けプレート、Rib補強部材のことをいう。

東 関 東 自 動 車 道			
吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン P7橋脚支承取替工詳細図 (3)		
縮 尺	図 示	図面番号	54/232
設計会社名	大 日 コ ン サ ル タ ン ト 株 式 会 社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所		

吉倉高架橋 Aライン P2、P3、P5～P7橋脚支承詳細図 S=1:25
支承取替工 BP・B-5～9



設計条件		
反力		力
設計反力	R	1940 kN
死荷重反力	Rd	1140 kN
橋軸方向水平力 (移動時)	RHf	194 kN
橋軸直角方向水平力 (地震時)	RHe	1070 kN
上揚力 (地震時)	V	342 kN
移動量		
全移動可能量	e	± 75 mm
摩擦係数	f	0.10
支承部支持条件		
橋軸方向: 可動		橋軸直角方向: 固定

材料表					
部番	部品名称	材質	個数	重量(kg)	備考
①	下	SCW480N	1	139.4	
②	上	SM490A	1	205.0	
3	滑り板	PTFE	1	0.6	
4	中間プレート	SS400	1	16.7	
5	ゴムプレート	クロロブレンゴム	1	2.3	圧縮リング付
6	シールリング	クロロブレンゴム	1	0.2	
⑦	サイドブロック	SM490A	2	18.6	
⑧	六角ボルト・座金		4	0.9	JIS B 1180 JIS B 1256
⑨	六角ボルト・座金		8	5.8	JIS B 1180 JIS B 1256
⑩	せん断キー	SM490A	1	6.9	
11	ステンレス板	SUS316	1	3.2	370x2548
⑫	アンカーボルト・ナット・垫金	SD345	8	37.5	JIS B 1181 JIS B 1256
⑬	ベースプレート	SM490A	1	212.2	(平均値)
14	ゴムビース	クロロブレンゴム	2		製造材料
全重量				649.3	(kg)
一般外面の防食処理					
溶融亜鉛めっき 付着量550g/m ² 以上、350g/m ² 以上 (ボルト類)					

- 注記) 1. ゴムビース(⑭)は、架設完了後、撤去のこと。
2. 材料表部番○印は、溶融亜鉛めっき仕様の場合のめっき施工部材を示す。
3. 部番⑧⑨の六角ボルト・座金の重量は参考重量とする。
4. 不めっき部は架設前防錆剤塗布のこと。現場溶接後、高濃度亜鉛末塗装のこと。
5. ベースプレートは現場実測を行い、アンカーボルト位置確定の後に寸法決定のこと。
6. 必要に応じて強度に問題ない箇所に吊り用のネジ穴を設けてもよい。

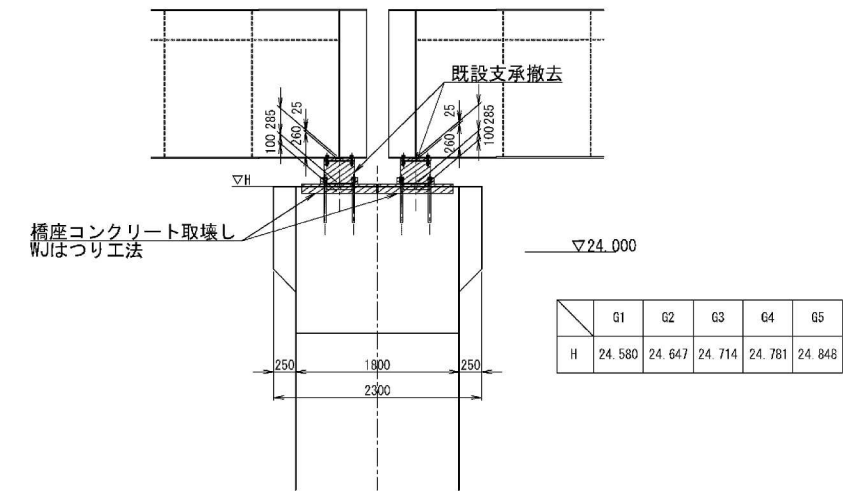
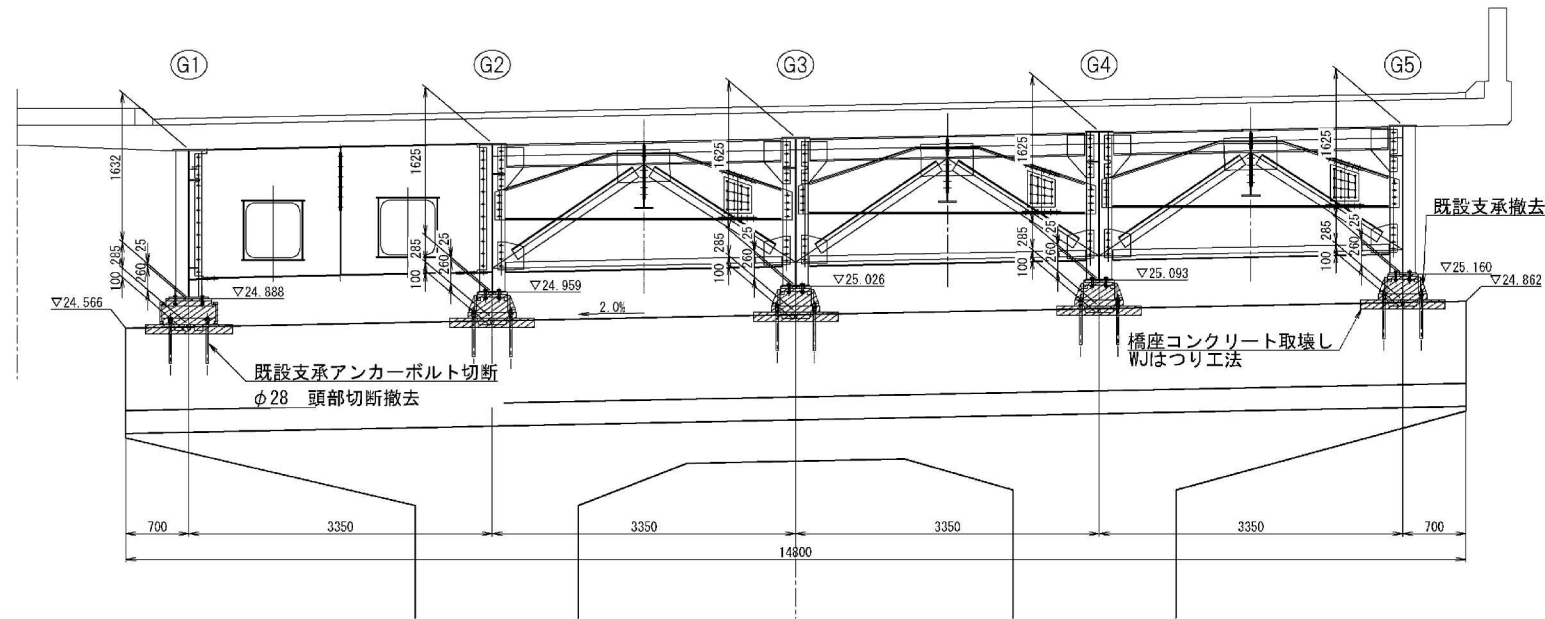
吉倉高架橋 Aライン P4 橋脚支承取替工詳細図 (1)
支承取替工 B P・B-2

S=1:80

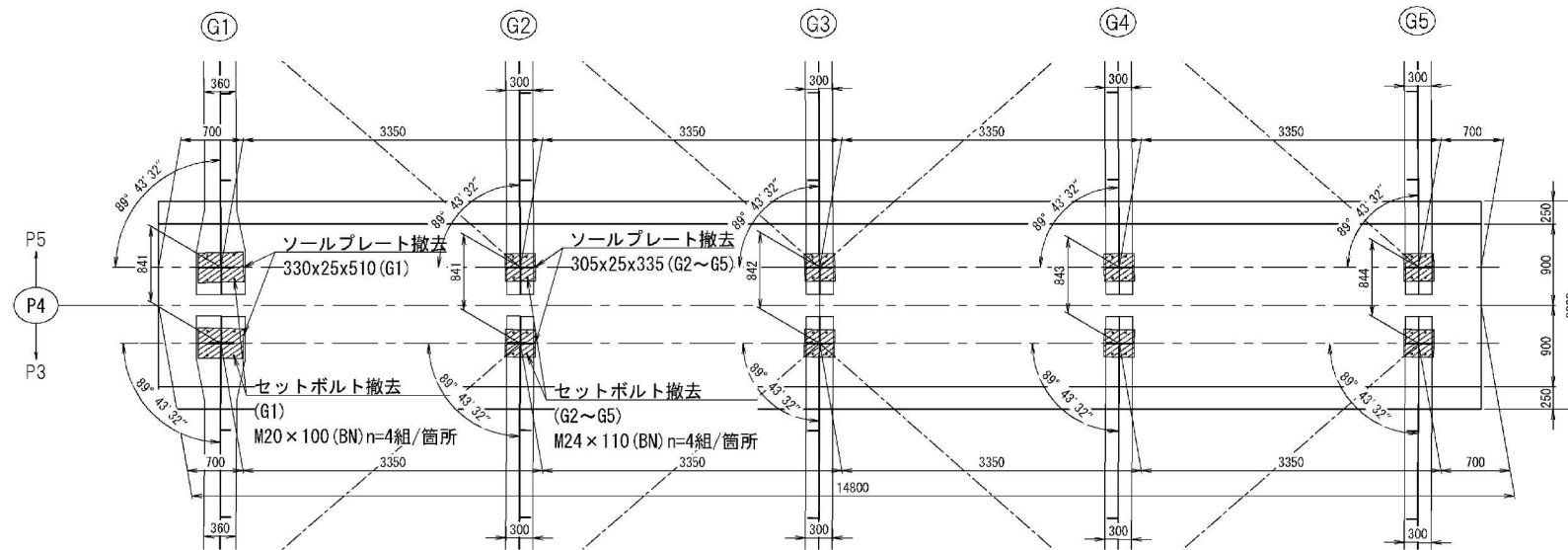
断面図

[既設部材撤去図]

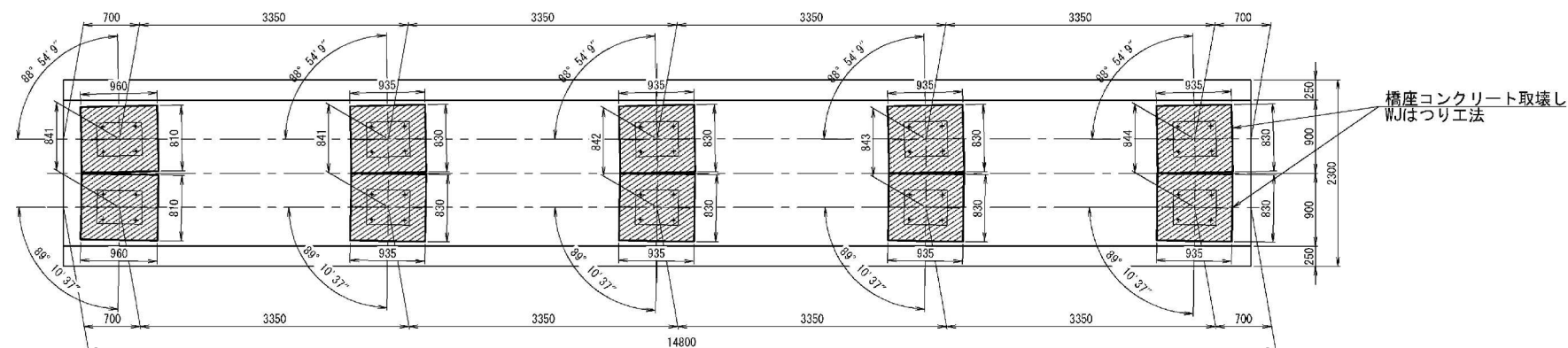
側面図



平面図 (主桁部)



平面図 (橋脚天端)



注記)
1. 施工に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。

撤去箇所

東 関 東 自 動 車 道 吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事				
図面の種類		吉倉高架橋 Aライン P4橋脚支承取替工詳細図(1)		
縮 尺	図 示	図面番号	56/232	
設計会社名	大 日 コ ン サ ル タ ン ト 株 式 会 社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所			

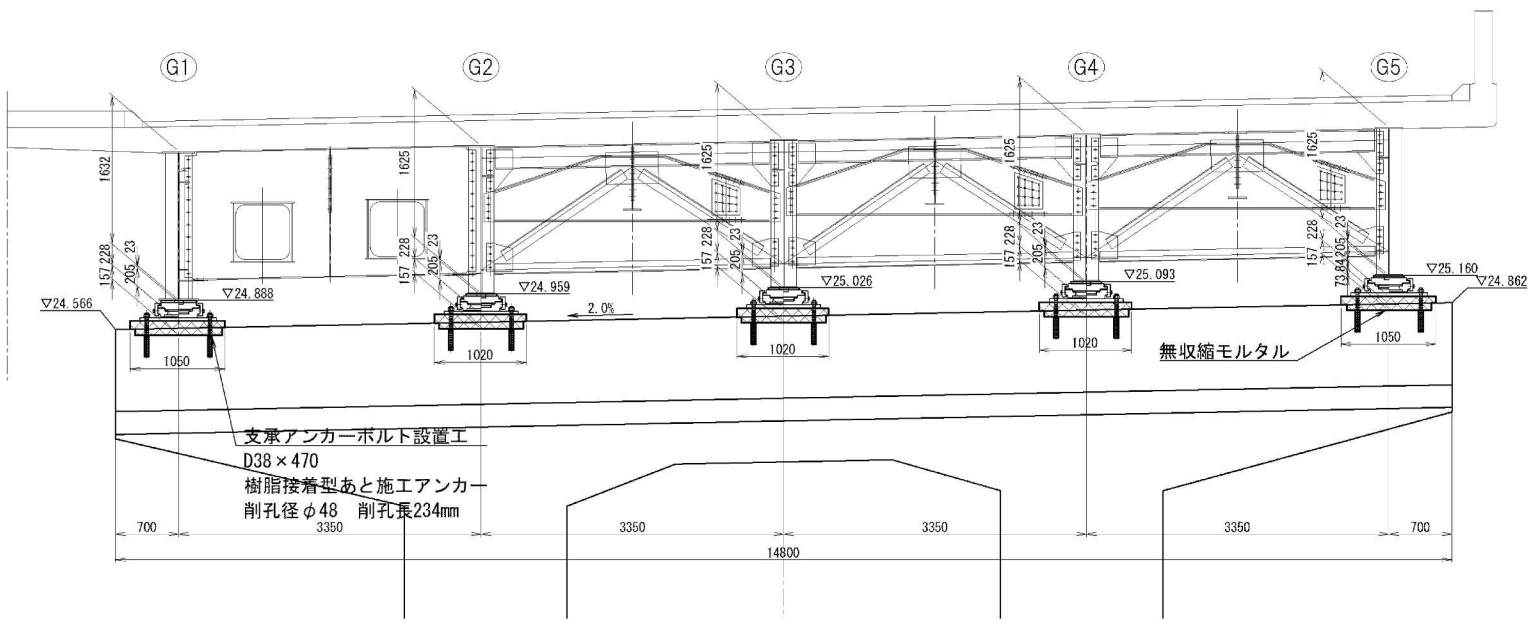
吉倉高架橋 Aライン P4橋脚支承取替工詳細図（2）

S=1:80

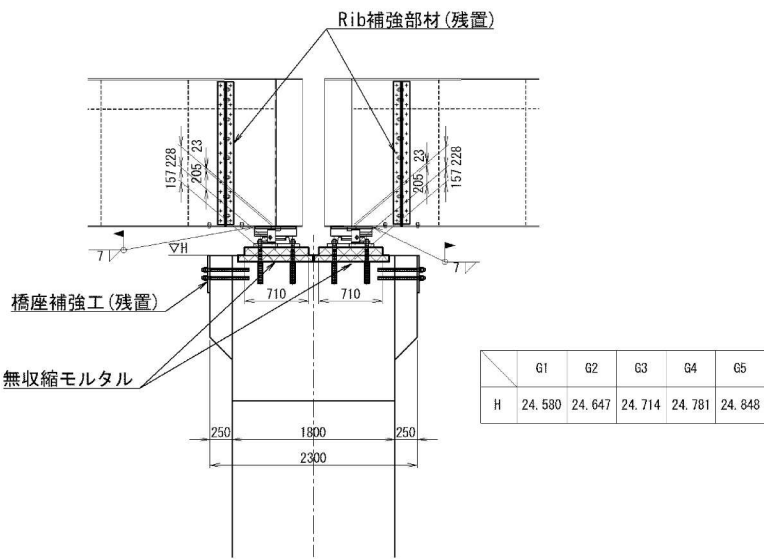
支承取替工 BP・B-2

[支承及び補強部材設置工]

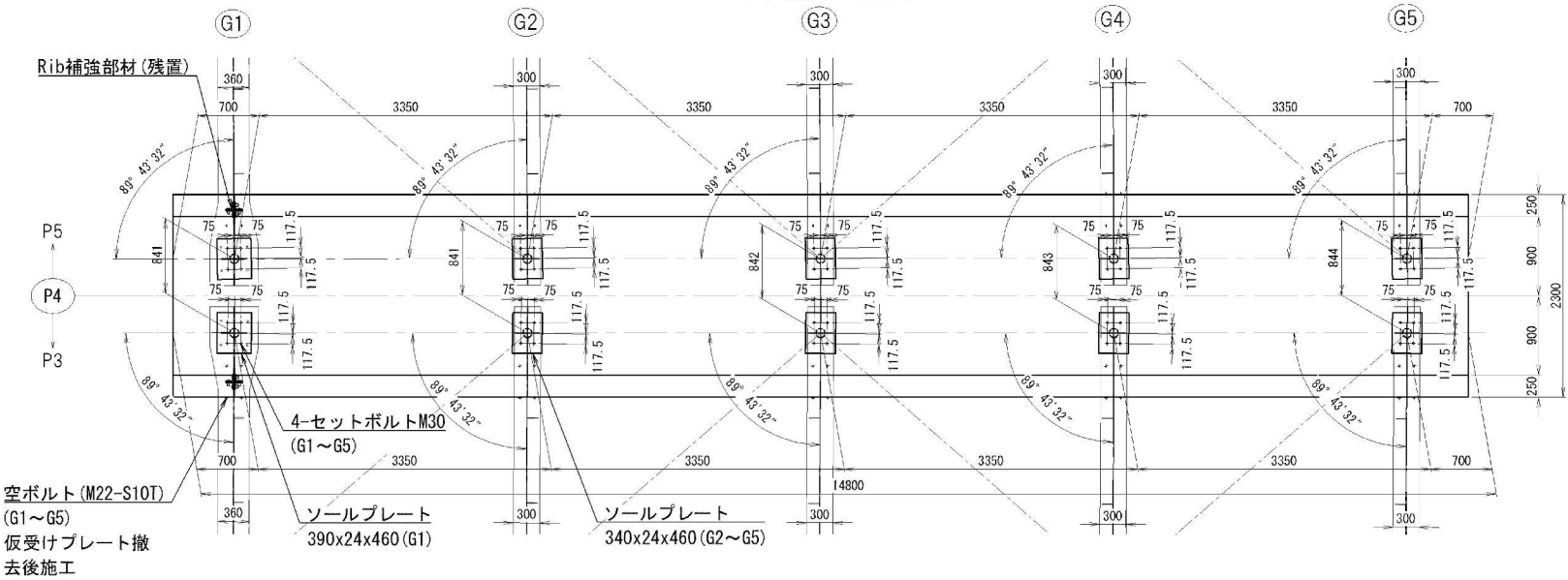
断面図



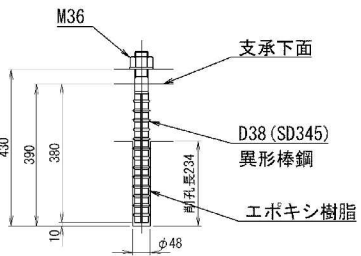
側面図



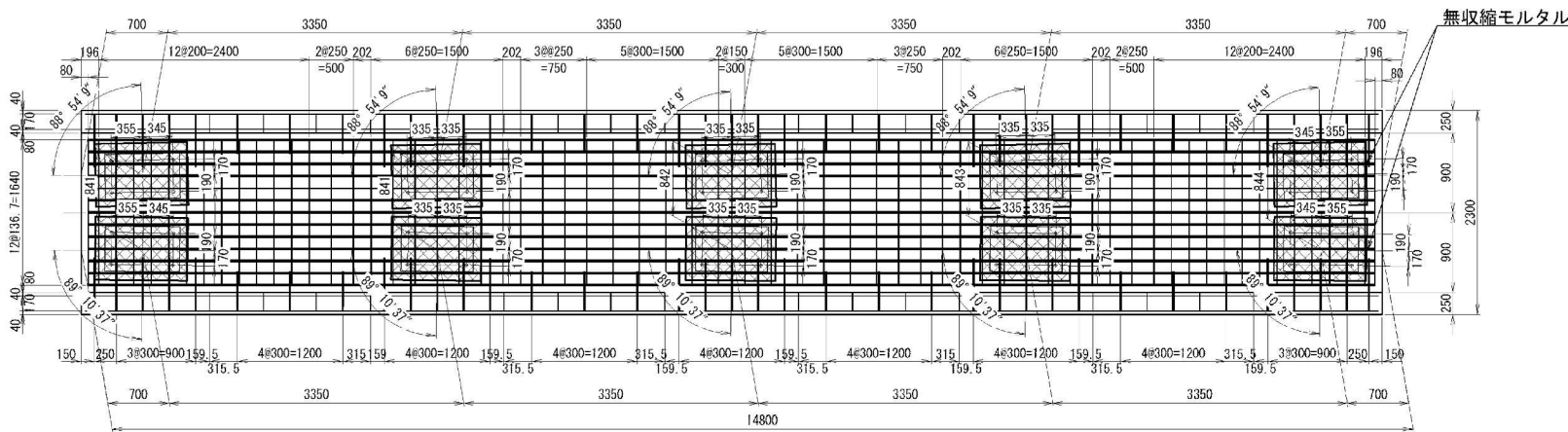
平面図(主桁部)



支承アンカーボルト部詳細図 S=1:20



平面図(橋脚天端)



無収縮モルタル

- 注記
1. 施工・製作に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。
 2. アンカー用削孔にあたっては、鉄筋探索を行う等して既設鉄筋を切断しないよう留意すること。
 3. ボルト位置及び取付位置等の変更がある場合は、再度検討を行うこと。
 4. 特記無きRib補強部材ボルトは全てH7型高力ボルト(M22)を使用する。
 5. G1桁の既設セットボルト孔は溶接で埋戻し、グラインダ仕上げを行う。

東 関 東 自 動 車 道 吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン P4橋脚支承取替工詳細図（2）		
縮 尺	図 示	図面番号	57/232
設計会社名	大 日 咨 詢 有 限 公 司		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	千 葉 管 理 事 務 所		

吉倉高架橋 Aライン P4橋脚支承取替工詳細図(3)

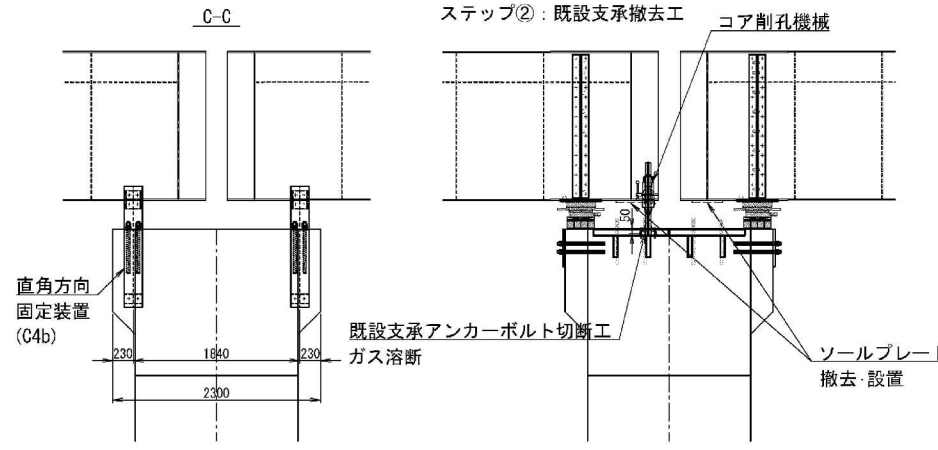
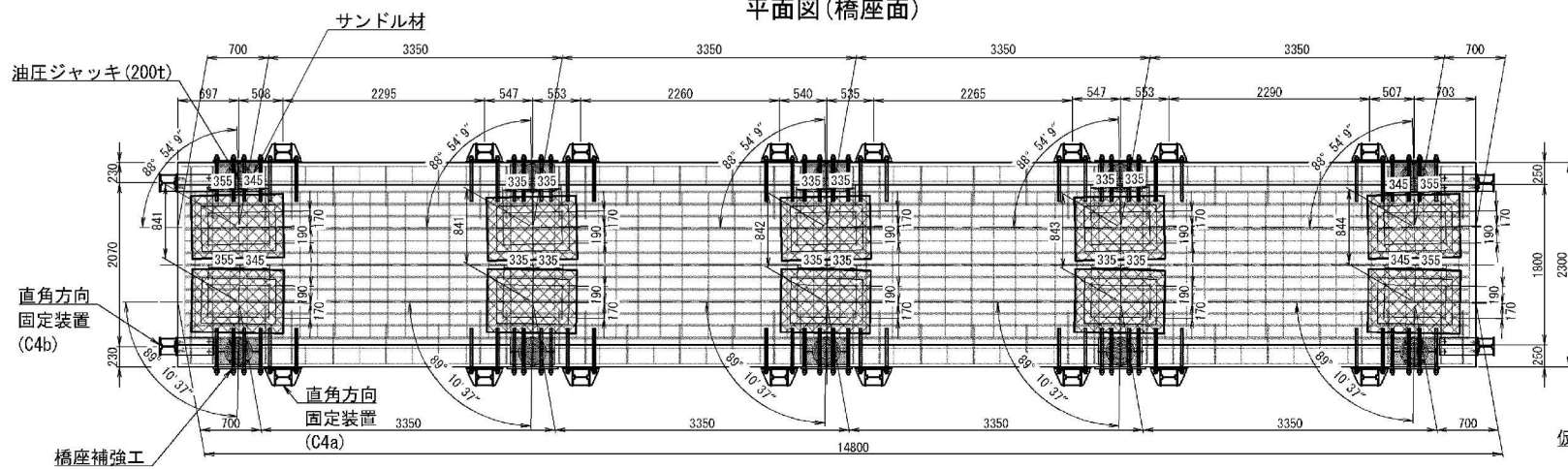
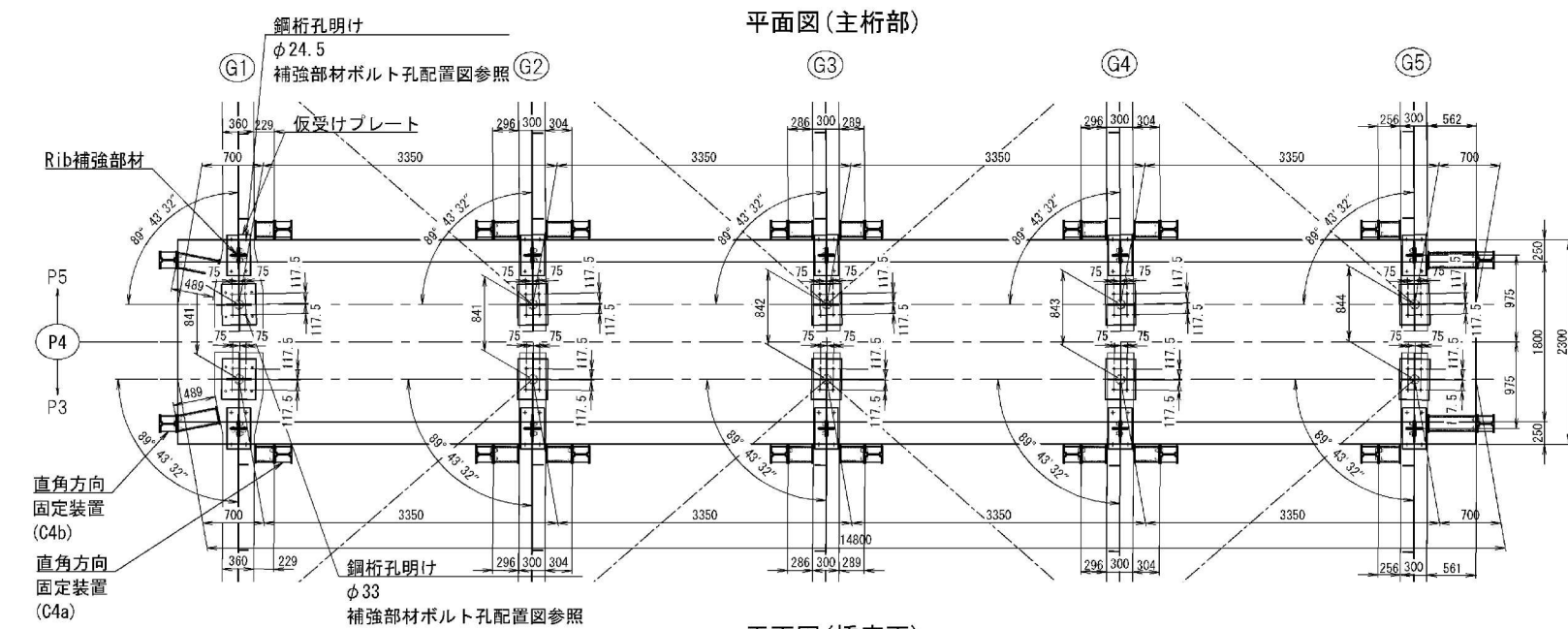
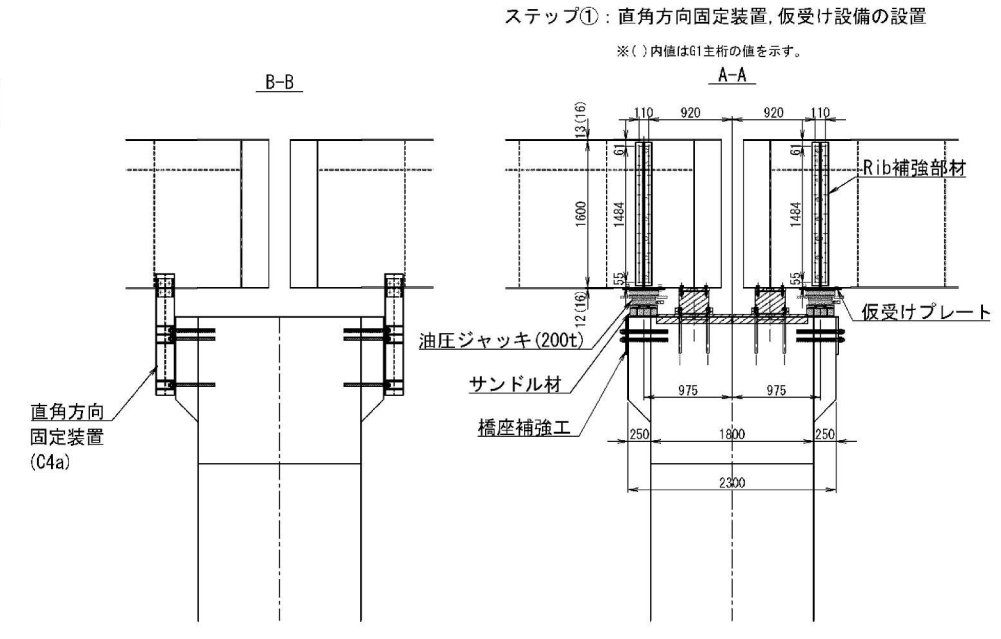
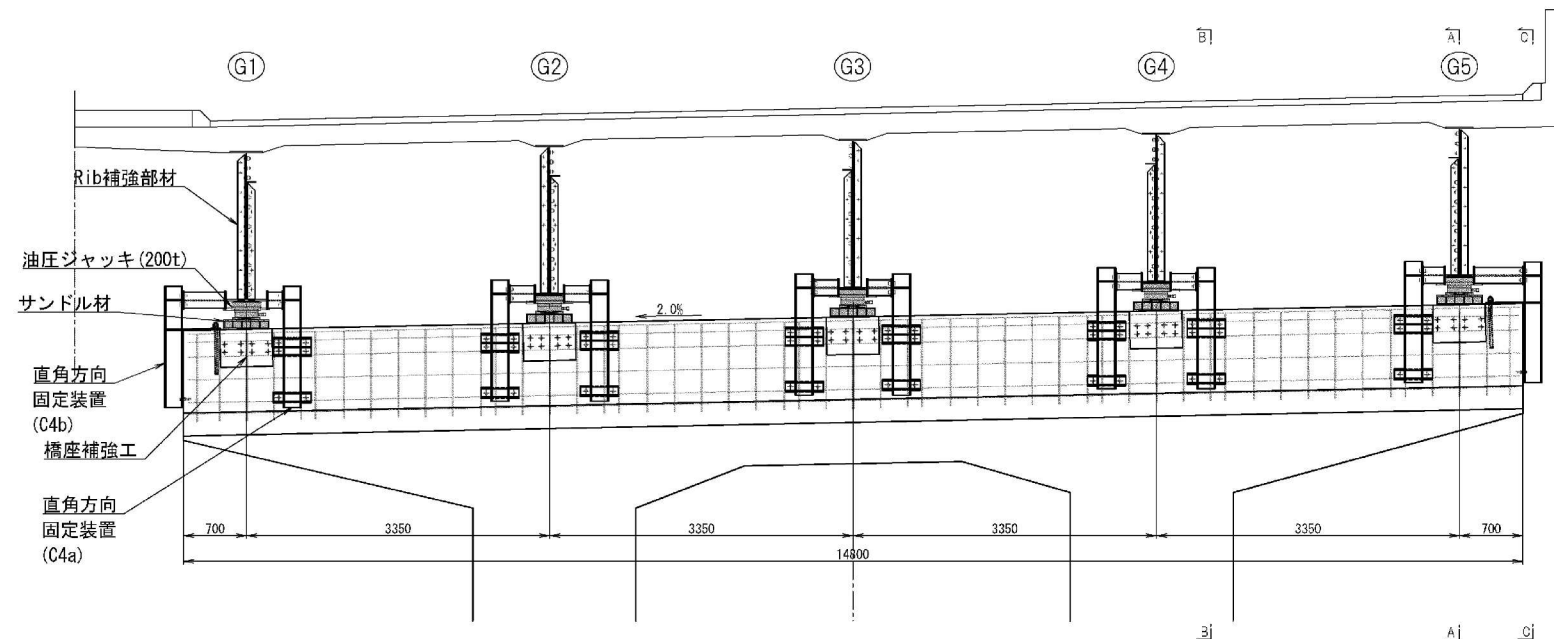
S=1:80

支承取替工 BP・B-2

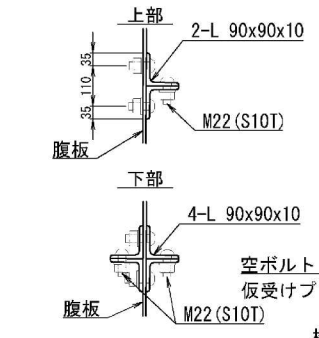
[直角方向固定装置設置工]

断面図

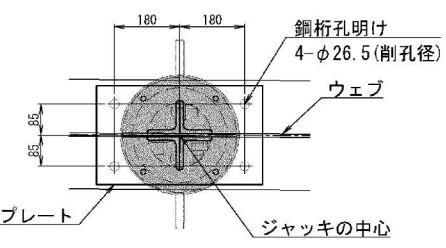
側面図



Rib補強部材断面図 S=1:20

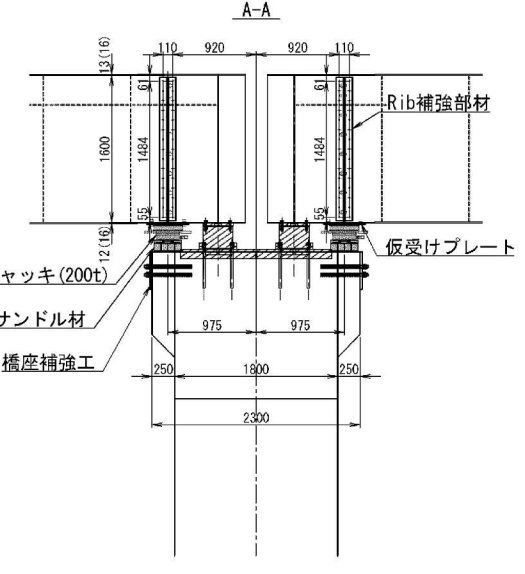


仮受けプレート細図 S=1:20

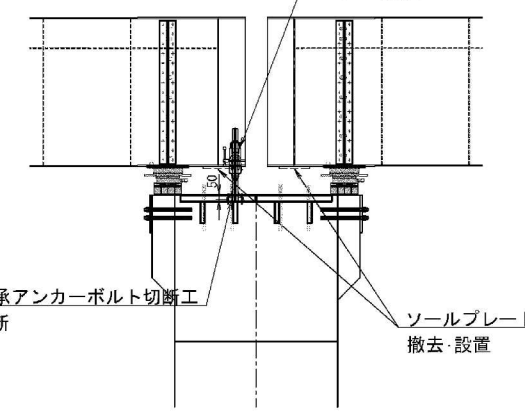


ステップ①: 直角方向固定装置, 仮受け設備の設置

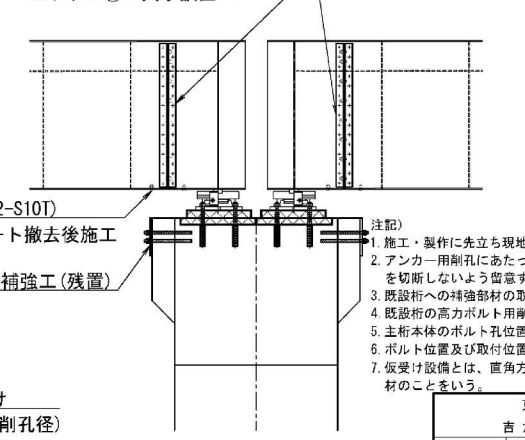
※()内値はG1主桁の値を示す。



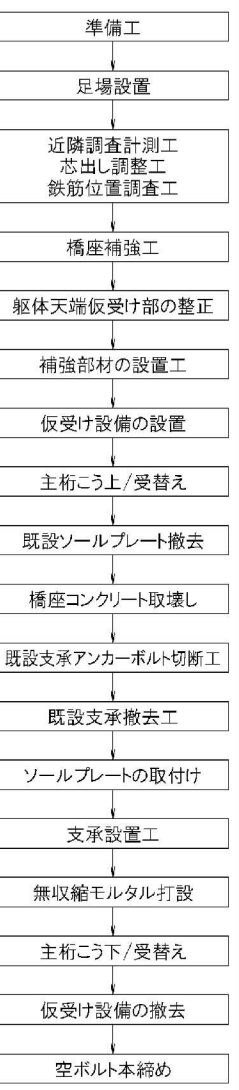
ステップ②: 既設支承撤去工



ステップ③: 支承設置工



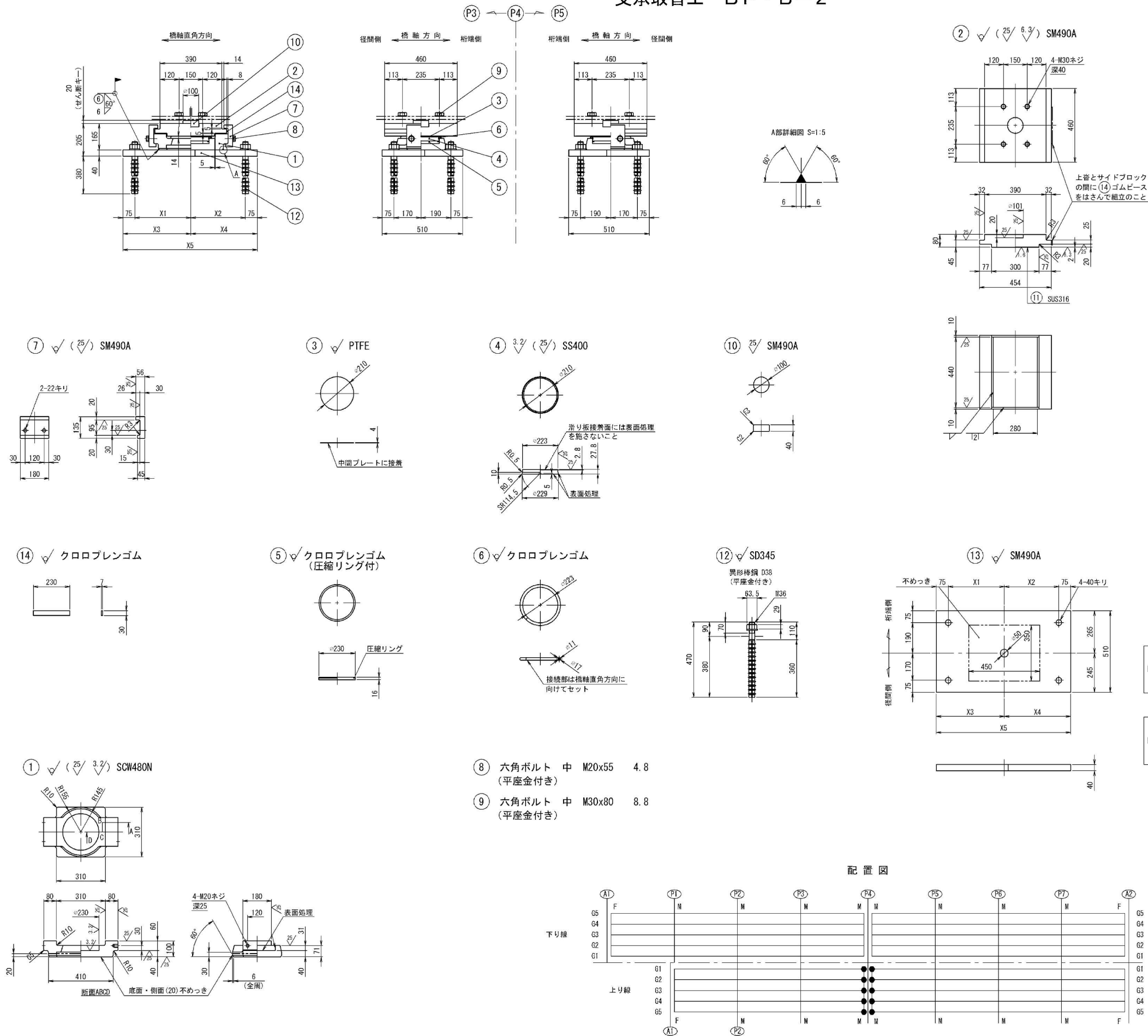
施工フロー



- 注記)
1. 施工・製作に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。
 2. アンカー用削孔にあたっては、鉄筋探査を行う等して既設鉄筋を切断しないよう留意すること。
 3. 既設桁への補強部材の取付面は、素地調整を行うこと。
 4. 既設桁の高力ボルト用削孔径はφ24.5mmとする。
 5. 主桁本体のボルト孔位置の詳細は各部材の詳細図を参照のこと。
 6. ボルト位置及び取付位置の変更がある場合は再度検討を行うこと。
 7. 仮受け設備とは、直角方向固定装置、仮受けプレート、Rib補強部材のことをいう。

東 関 東 自 動 車 道			
吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン P4橋脚支承取替工詳細図(3)		
縮 尺	図 示	図面番号	58/232
設計会社名	大 日 咨 詢 社 有 限 公 司		
施工会社名	東 日 本 高 速 道 路 株 式 有 限 公 司		
事務所名	千 葉 管 理 事 務 所		

吉倉高架橋 Aライン P4橋脚支承詳細図 S=1:25
 支承取替工 BP・B-2



設計条件

反		力	
設	計 反 力	R	860 kN
死	荷 重 反 力	Rd	390 kN
橋 軸 方 向 水 平 力 (移動時)		R H1f	86 kN
橋軸直角方向水平力 (地震時)		R H2e	630 kN
上	揚 力 (地震時)	V	117 kN
移 動 量			
全	移 動 可 能 量	e	± 75 mm
摩 擦		係 數	
設	計 摩 擦 係 數	f	0.10
支 承 部		支 持 条 件	
橋軸方向: 可動		橋軸直角方向: 固定	

材 料 表

部番	部 品 名 称	材 質	個数	重量(kg)	備 考
(1)	下 蓋	SCW480N	1	55.9	
(2)	上 蓋	SM490A	1	107.7	
3	滑 り 板	PTFE	1	0.3	
4	中 間 プ レ ー ト	SS400	1	7.9	
5	ゴ ム プ レ ー ト	クロロブレンゴム	1	0.9	圧縮リング付
6	シールリング	クロロブレンゴム	1	0.1	
(7)	サイ ド ブ ロ ッ ク	SM490A	2	15.4	
(8)	六角ボルト・産金	—	4	0.9	JIS B 1180 JIS B 1256
(9)	六角ボルト・産金	—	4	2.9	JIS B 1180 JIS B 1256
(10)	せん 断 キ ー	SM490A	1	2.5	
11	ステンレス板	SUS316	1	1.9	230×240
(12)	アンカーボルト・ナット・産金	SD345	4	18.8	JIS B 1181 JIS B 1256
(13)	ベ ー ス プ レ ー ト	SM490A	1	131.0	平接継手
14	ゴ ム ビ ー ス	クロロブレンゴム	2	—	摩擦部材
全 重 量				344.2	(kg)
一 般 外 面 の 防 食 処 理					
溶融亜鉛めっき		付着量550g/m ² 以上、350g/m ² 以上(ポルト類)			

(注記)

1. ゴムビース (14) は、架梁後段と、撤去との区別。
2. 材料表裏面 ○印は、溶融亜鉛めっき仕様の場合のめっき施工部位を示す。
3. 部番 ⑧⑨ の六角ボルト・座金の重量は参考重量とする。
4. 不めっき部は期先防錆剤塗布のこと。現場溶接後、高濃度亜鉛粉末塗装のこと。
5. ベースプレートは現場実測を行い、アンカーボルトの設置位置と後に寸法決定のこと。
6. 必要に応じて強度に問題ない箇所に吊り用のネジ穴を確定の後、

P3側	位置	X1	X2	X3	X4	X5
	G1	355	345	430	420	850
	G2~G4	335	335	410	410	820
	G5	345	355	420	430	850

P5側	位置	X1	X2	X3	X4	X5
	G1	345	355	420	430	850
	G2~G4	335	335	410	410	820
	G5	355	345	430	420	850

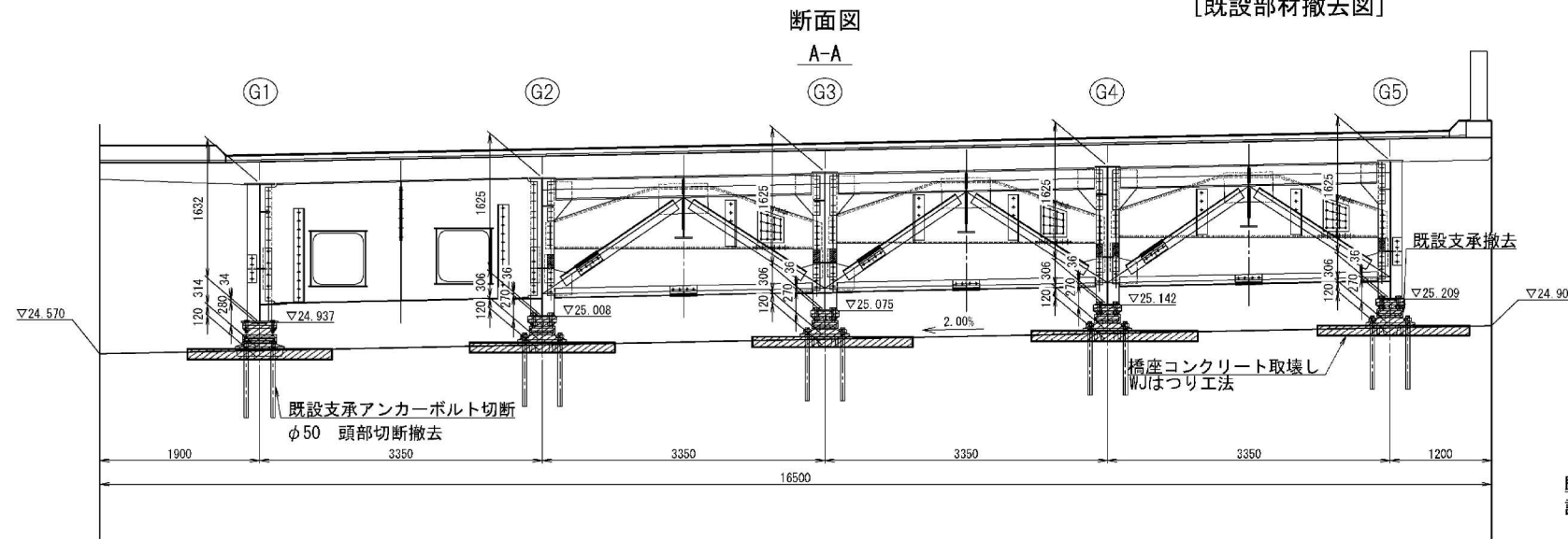
東 関 東 自 動 車 道			
吉 倉 高 梁 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高梁橋 ライン P 4 構図面支詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	59/232
設計会社名	大 日 コ ン サ ル タ ン ト 株 式 会 社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所		

吉倉高架橋 Aライン A2橋台支承取替工詳細図(1)

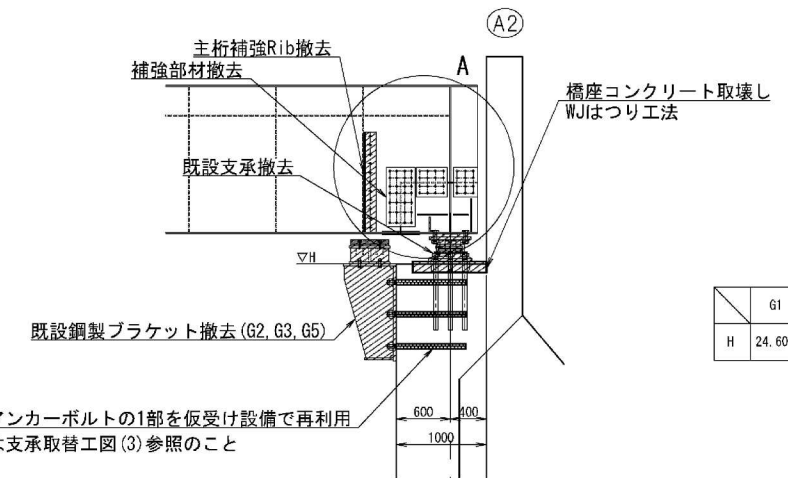
S=1:80

支承取替工 B P・B-3

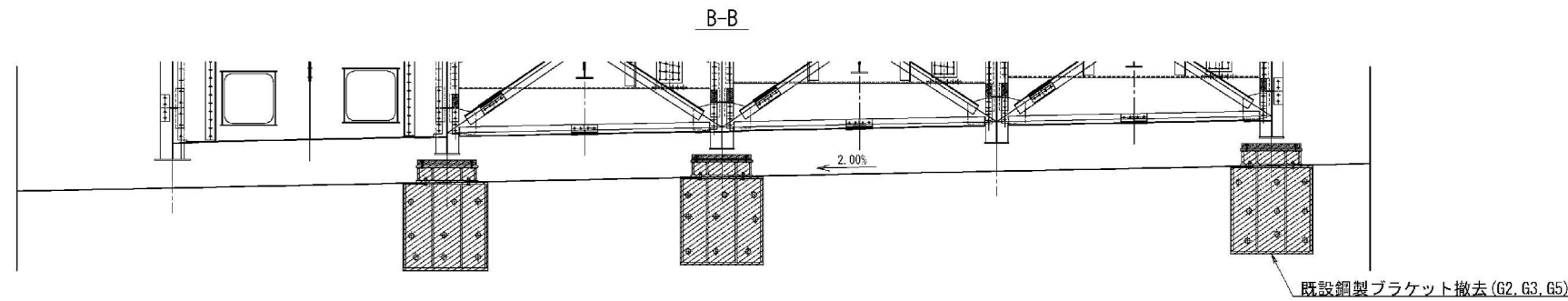
[既設部材撤去図]



側面図



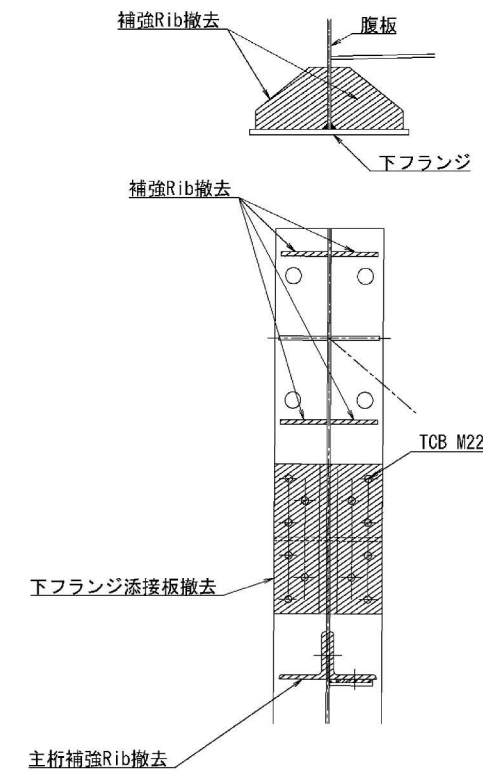
	G1	G2	G3	G4	G5
H	24.607	24.674	24.742	24.809	24.976



A部詳細図

S=1:20

G1~G5桁



補強Rib撤去

G1: 4-PL 200x12x170
G2, G3, G5: 2-PL 130x12x370
2-PL 130x12x170
G4: 4-PL 130x12x370

下フランジ添接板撤去

G1: 2-PL 155x12x410
1-PL 360x 9x410
16-TCB M22x75 (S10T)
G2~G5: 2-PL 125x12x410
1-PL 300x 9x410
12-TCB M22x70 (S10T)

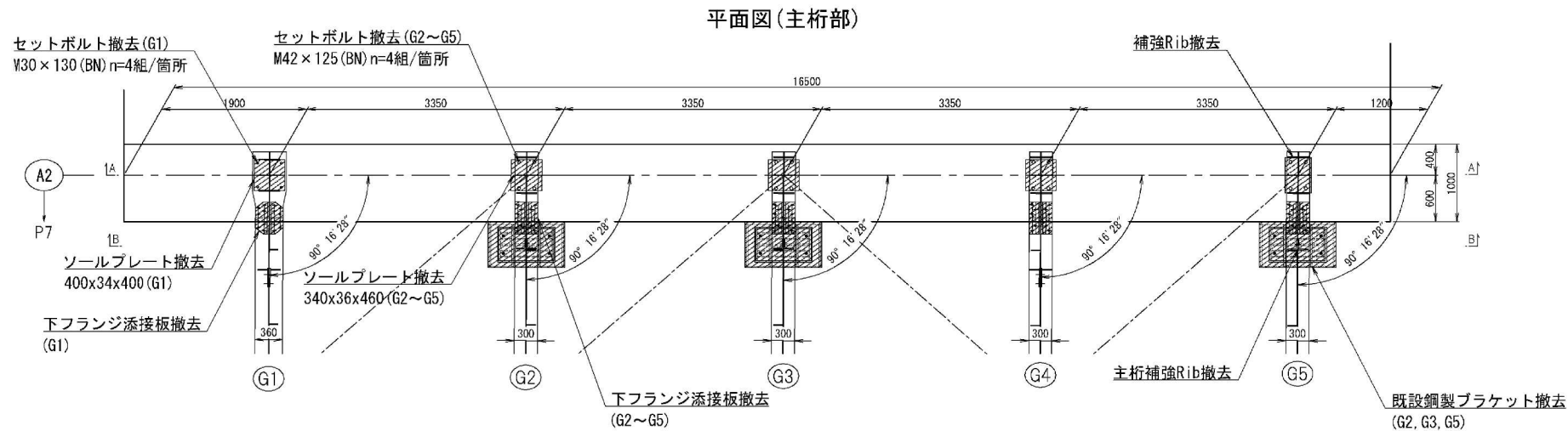
主桁補強Rib撤去

G1, G4: 2-PL 240x12x1085
2-PL 130x12x1100
22-TCB M22x70 (ST10)
G2, G3, G5: 2-L 130x12x1100
1-PL 100x 9x1090
11-TCB M22x70 (S10T)
6-TCB M22x65 (S10T)

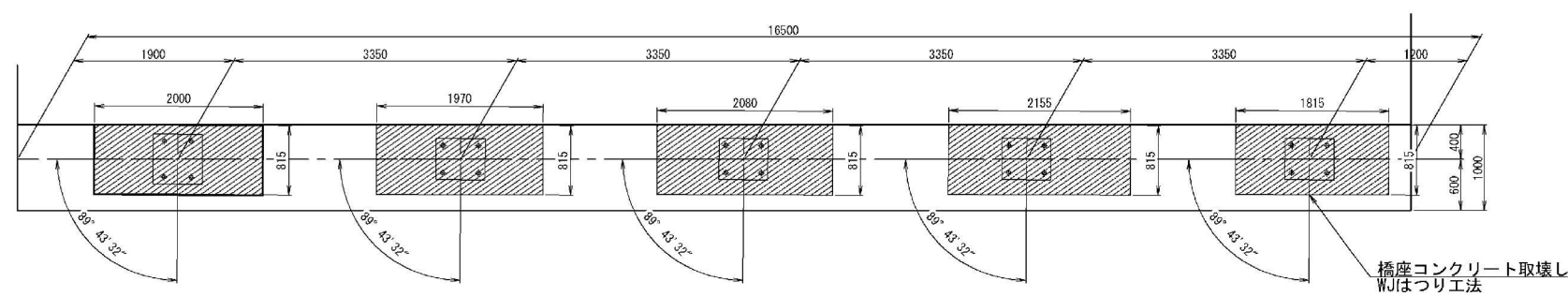
撤去箇所

注記)
1 施工に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。

東 関 東 自 動 車 道	
吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事	
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン A2橋台支承取替工詳細図(1)
縮 尺	図 示
図面番号	60/232
設計会社名	大 日 咨 詢 有 限 公 司
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 干 葉 管 理 事 務 所



平面図(橋脚天端)



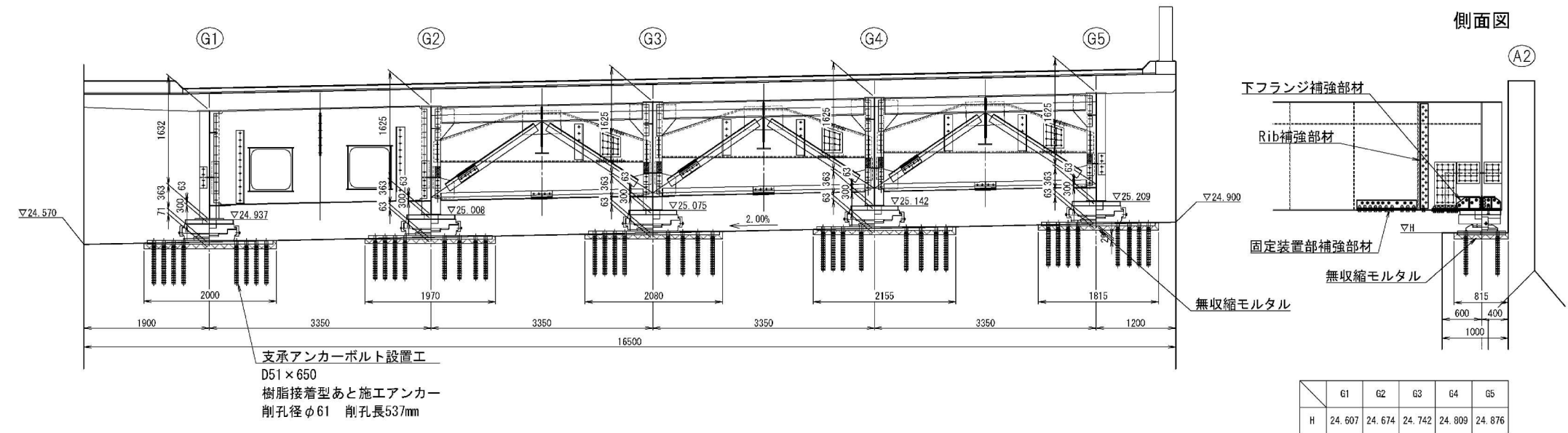
吉倉高架橋 Aライン A2橋台支承取替工詳細図(2)

S=1:80

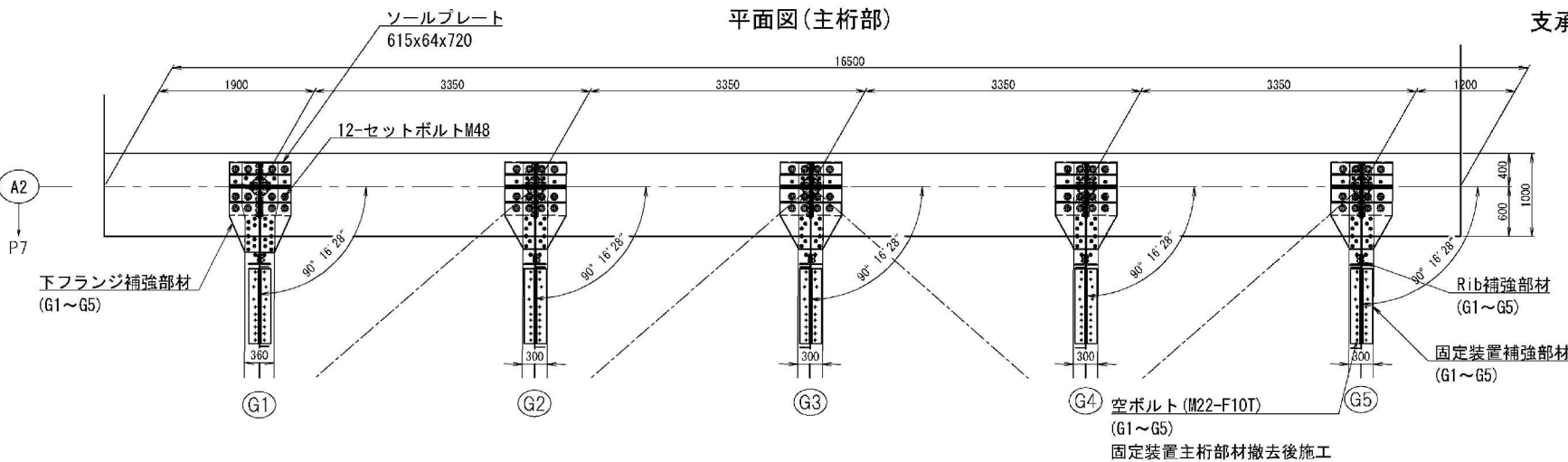
支承取替工 BP・B-3

[支承及び補強部材設置工]

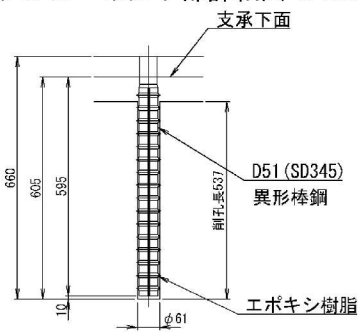
断面図



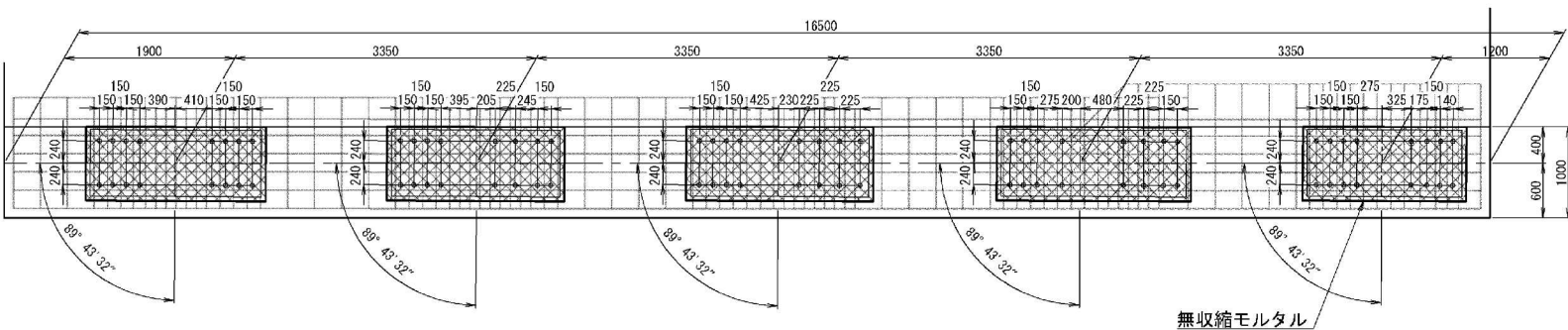
平面図(主桁部)



支承アンカーボルト部詳細図 S=1:20



平面図(橋脚天端)



無収縮モルタル

- 注記)
1. 施工・製作に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。
 2. アンカー用削孔にあたっては、鉄筋探索を行う等して既設鉄筋を切断しないよう留意すること。
 3. ボルト位置及び取付位置等の変更がある場合は、再度検討を行うこと。
 4. 特記無きRib補強部材ボルトは全て高力ボルト(M22)を使用する。
 5. 既設セットボルト孔は溶接で埋戻し、グラインダ仕上げを行う。

東 関 東 自 動 車 道			
吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン A2橋台支承取替工詳細図(2)		
縮 尺	図 示	図面番号	61/232
設計会社名	大 日 咨 詢 有 限 公 司		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所		

吉倉高架橋 Aライン A2橋台支承取替工詳細図(3)

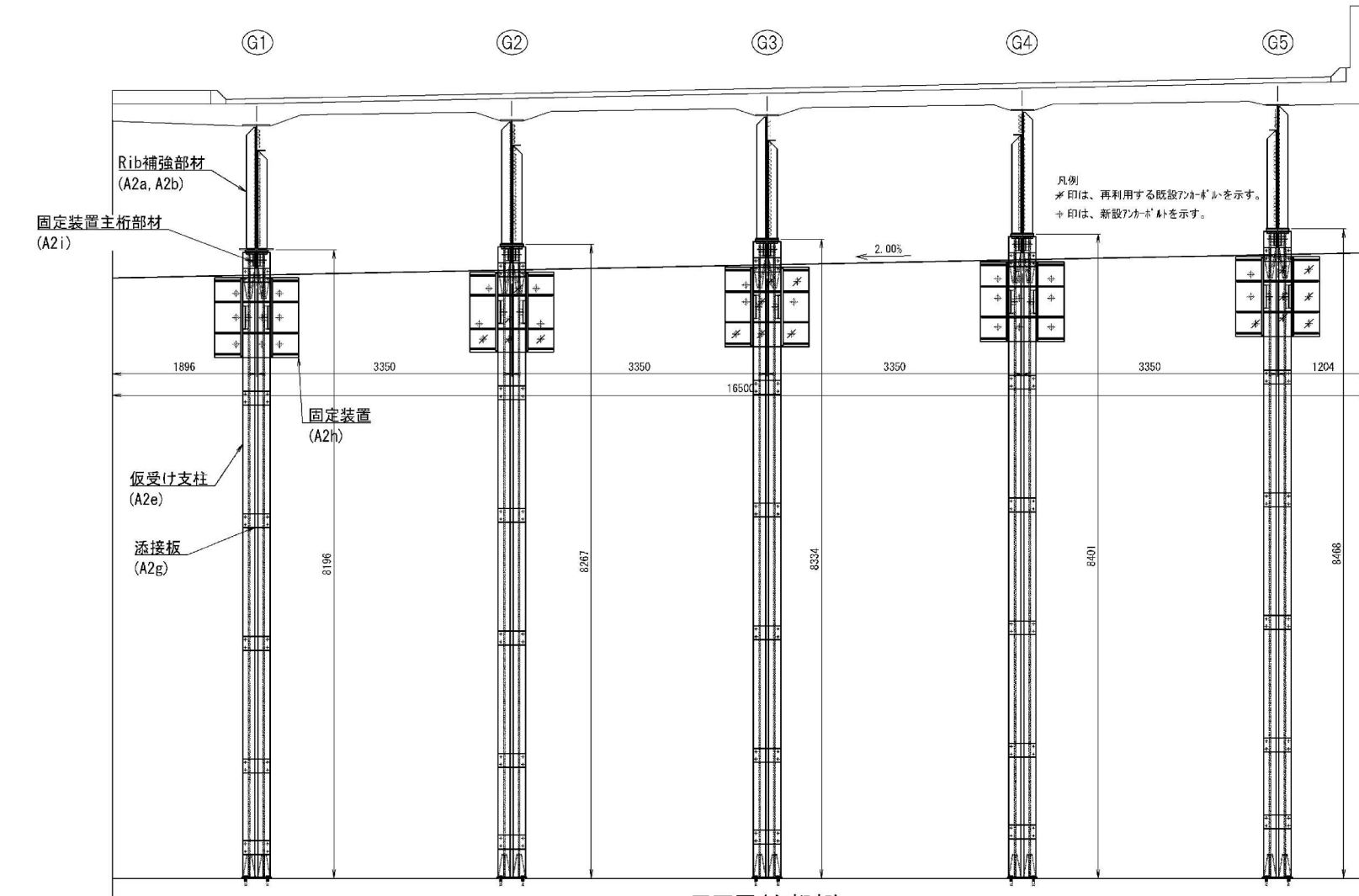
S=1:80

支承取替工 B.P・B-3

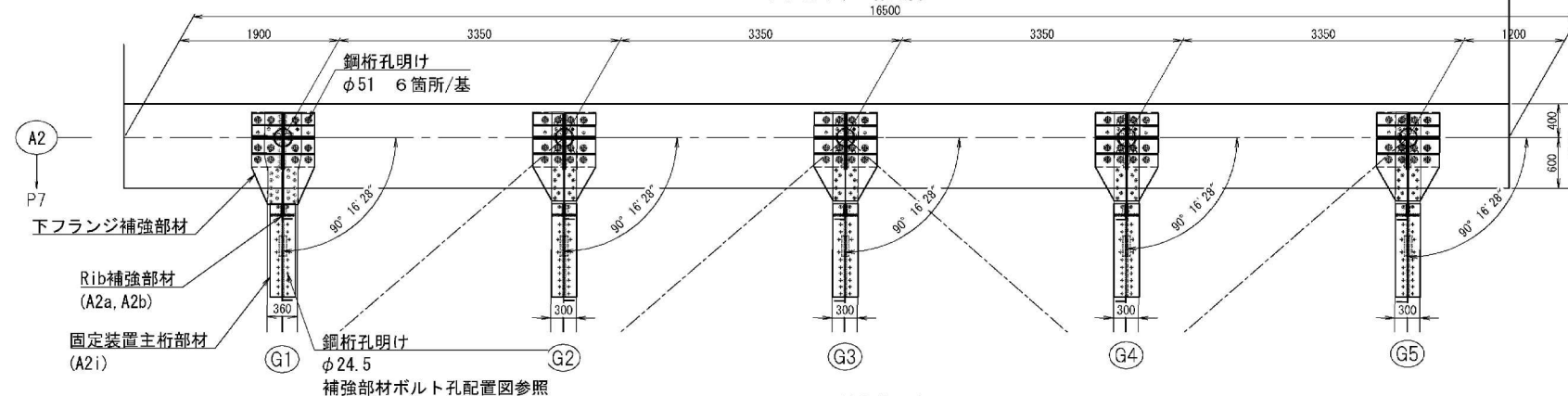
[仮受支柱及び固定装置設置工]

断面図

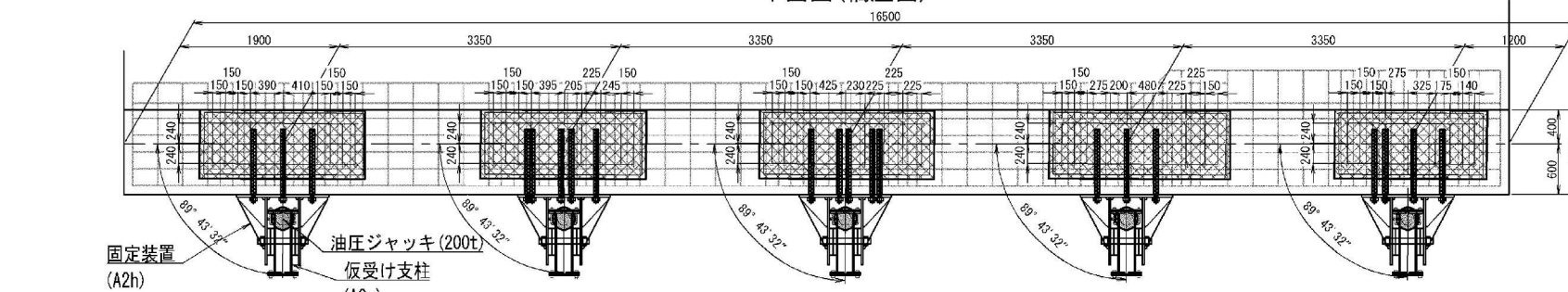
側面図



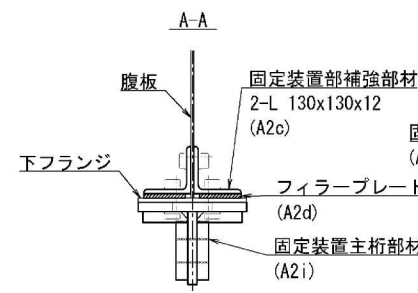
平面図(主桁部)



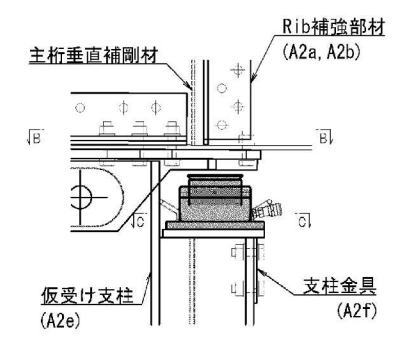
平面図(橋座面)



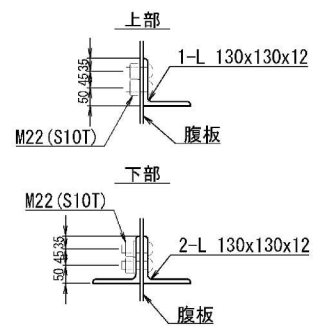
固定装置主桁部材断面図 S=1:20



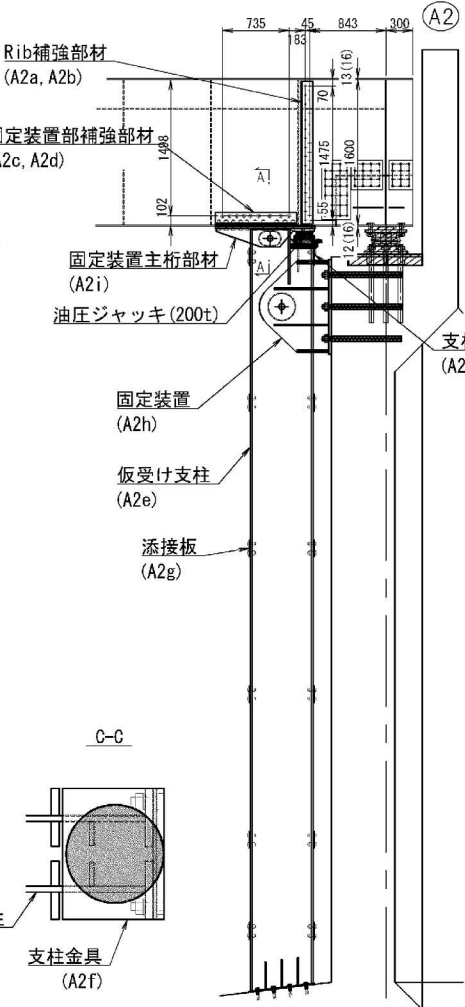
仮受けジャッキ配置細図 S=1:20



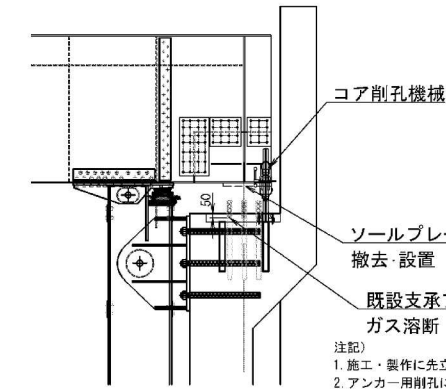
Rib補強部材断面図 S=1:20



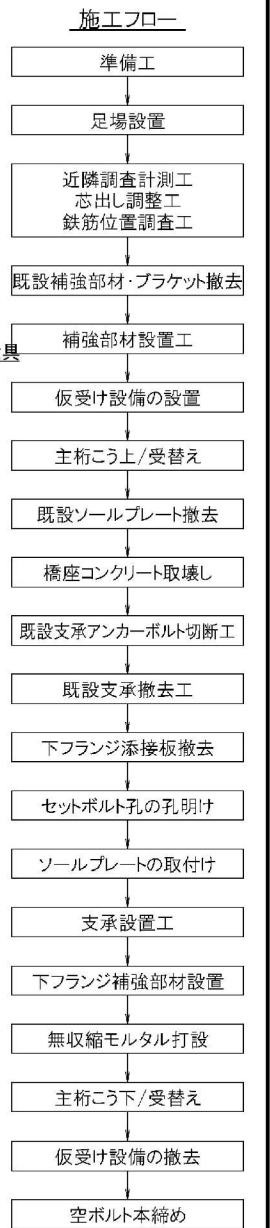
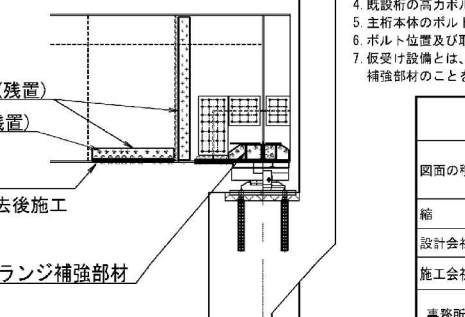
ステップ①: 仮受け設備の設置
※()内値はG1主桁の値を示す。



ステップ②: 既設支承撤去工



ステップ③: 支承設置工

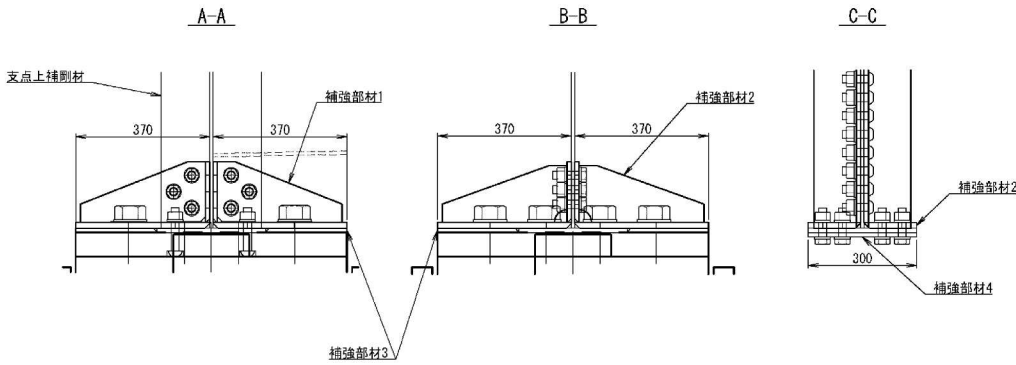
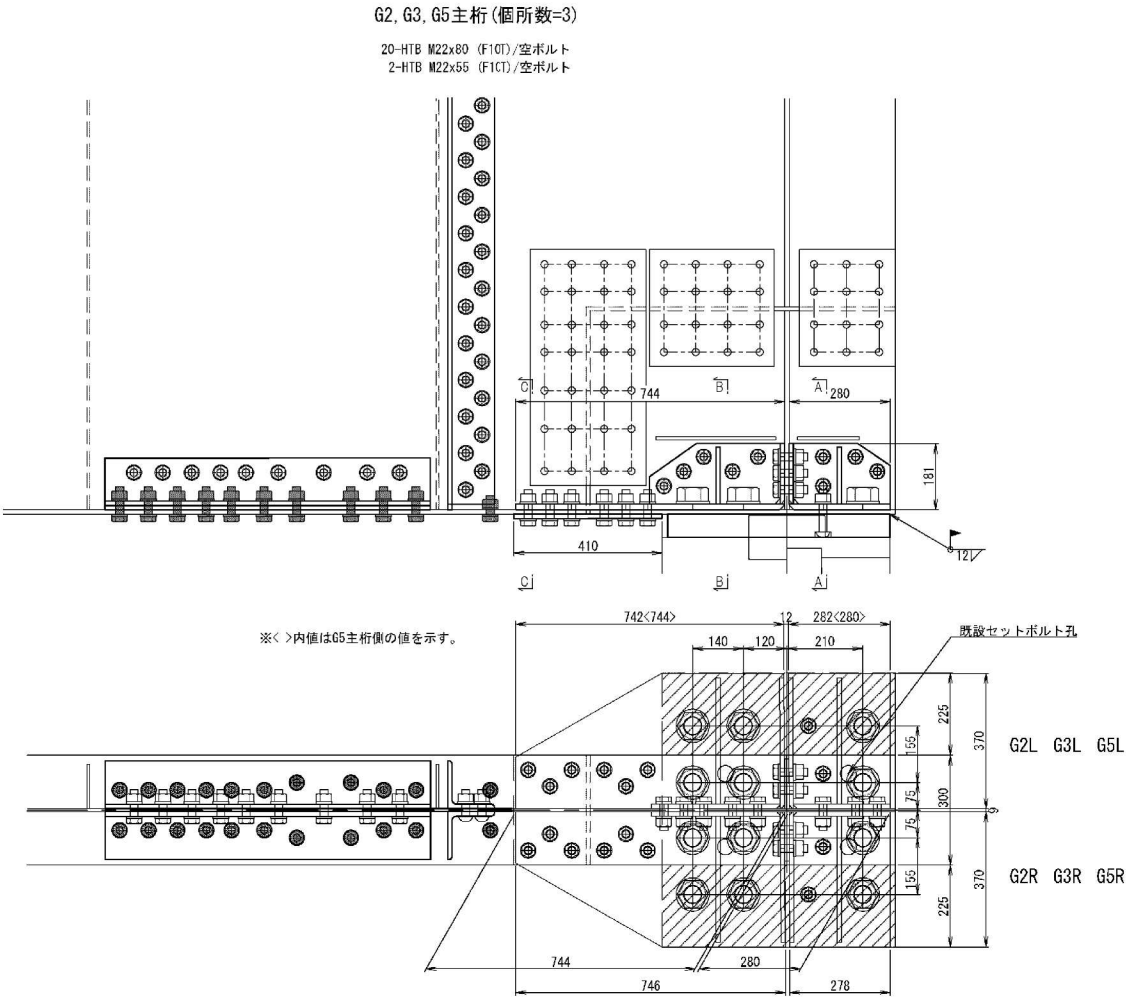
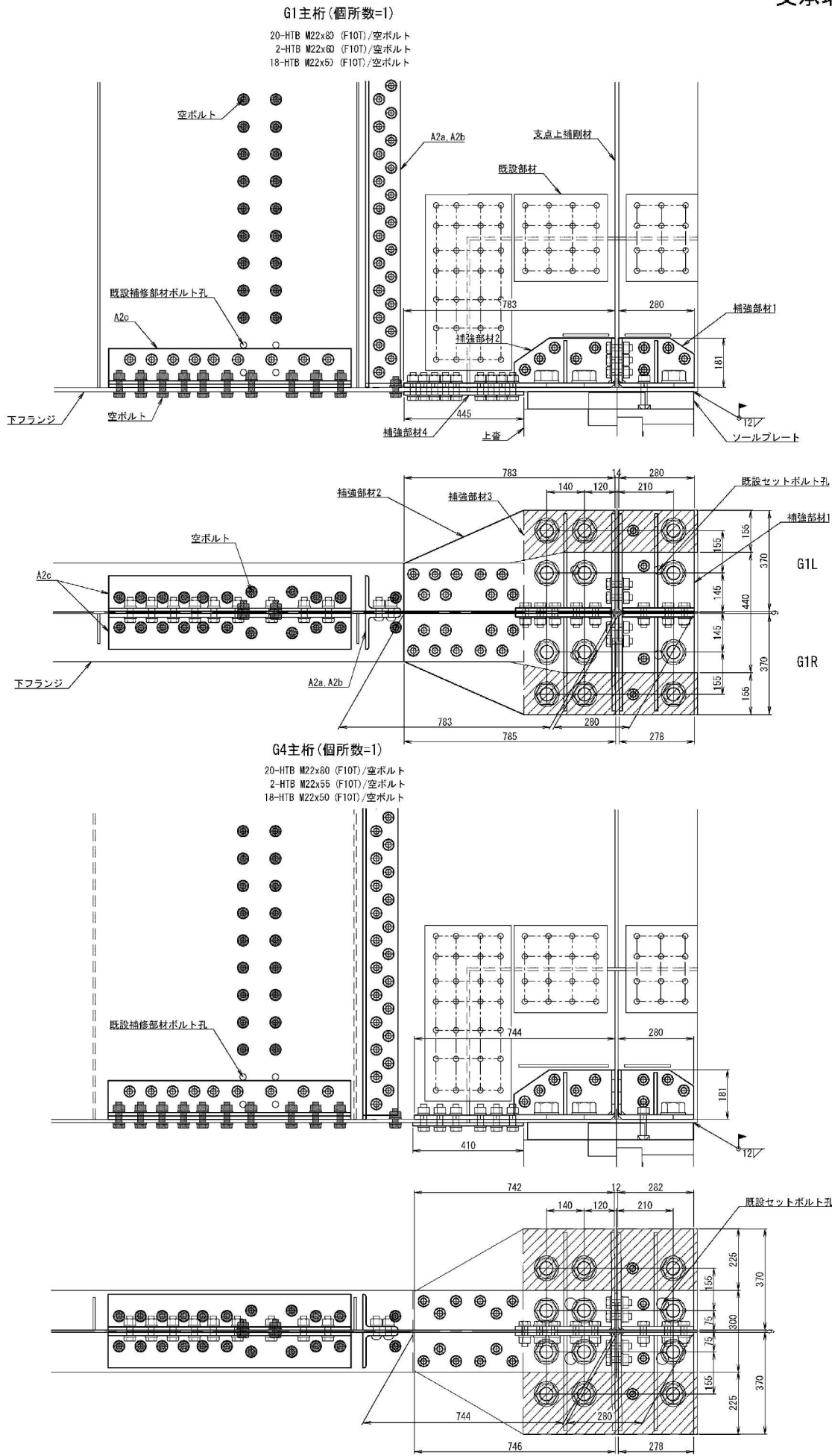


- 【注記】
- 施工・製作に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。
 - アンカー用耐孔にあたっては、鉄筋探索を行う等して既設鉄筋を切断しないよう留意すること。
 - 既設桁への補強部材の取付面は、表地調整を行うこと。
 - 既設桁の高力ボルト用耐孔径はφ24.5mmとする。
 - 主桁本体のボルト孔位置の詳細は各部材の詳細図を参照のこと。
 - ボルト位置及び取付位置の変更がある場合は再度検討を行うこと。
 - 仮受け設備とは、仮受け支柱、固定装置、固定装置主桁部材とその補強部材のことをいう。

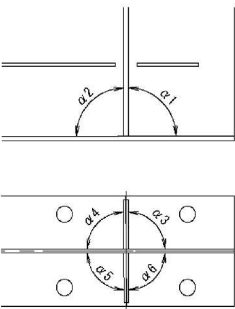
東 京 東 自 動 車 道			
吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン A2橋台支承取替工図(3)		
縮 尺	図 示	図面番号	62/232
設計会社名	大 日 咨 詢 社 有 限 公 司		
施工会社名	東 日 本 高 速 道 路 株 式 有 限 公 司		
事務所名	千 葉 管 理 事 務 所		

吉倉高架橋 Aライン A2橋台支承取替工詳細図(4)
支承取替工 B P・B-3
[補強部材配置図]

S=1:20



支点周辺角度



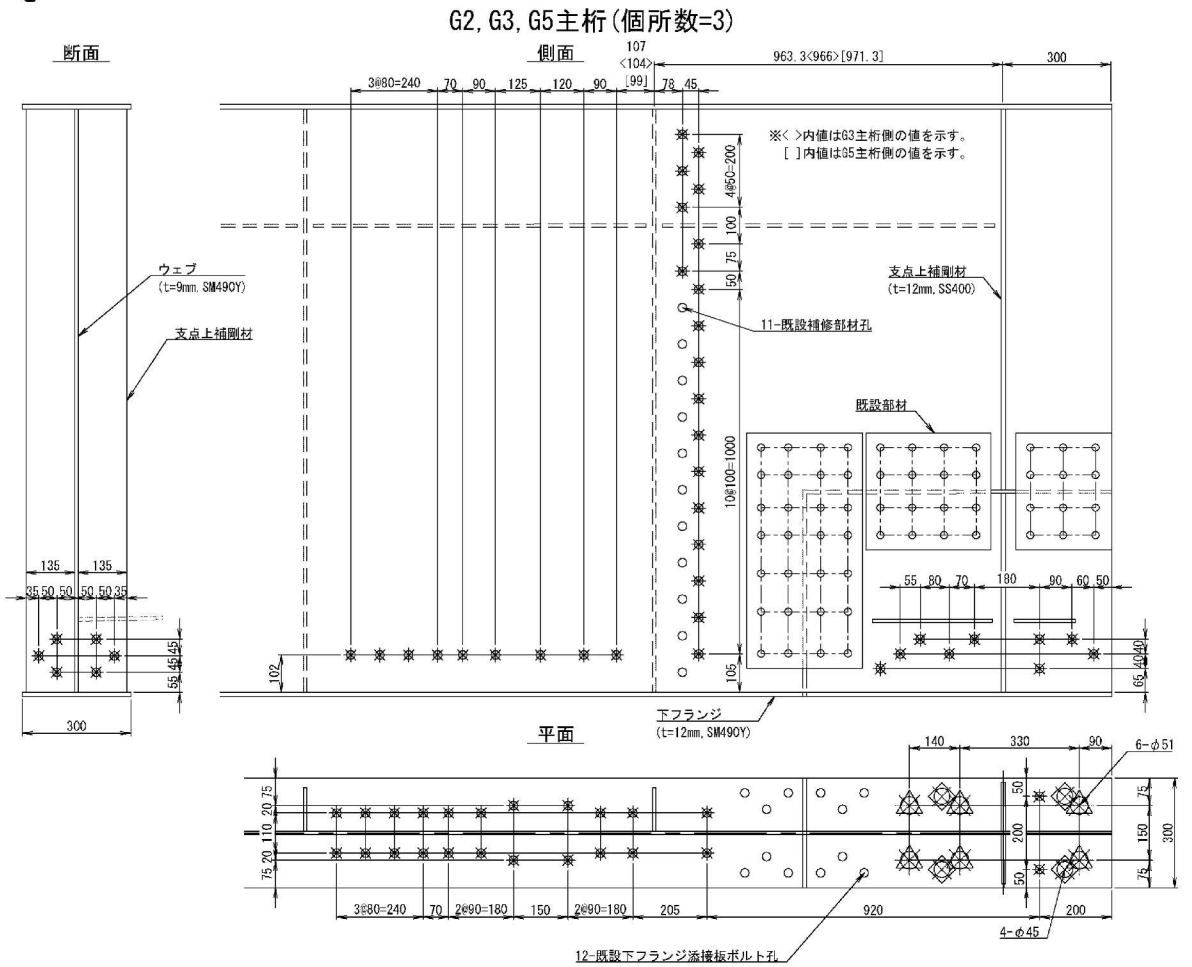
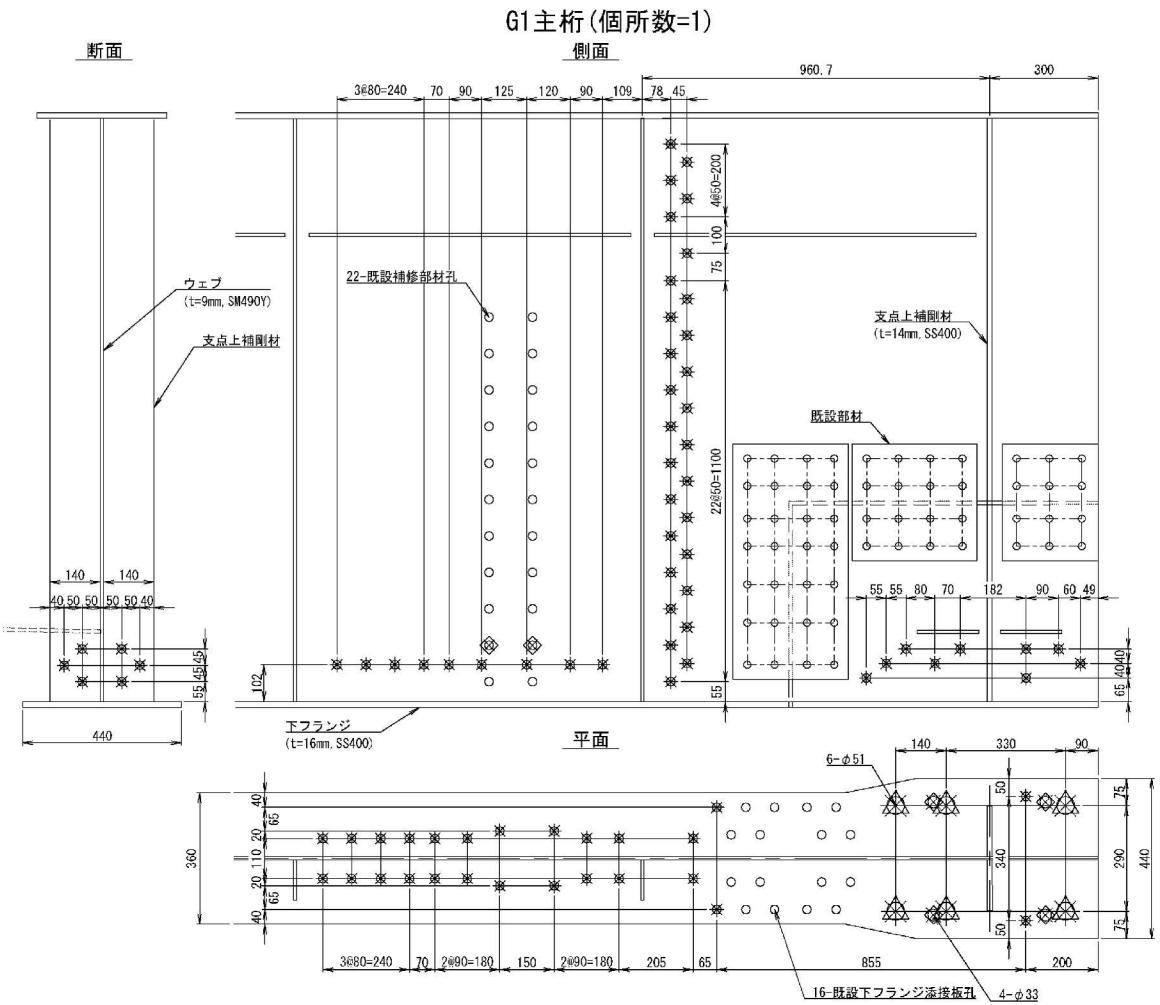
	G1	G2	G3	G4	G5
$\alpha 1$	89° 59' 39"				
$\alpha 2$	90° 00' 21"				
$\alpha 3$	90° 00' 00"	90° 16' 28"		90° 16' 28"	
$\alpha 4$	90° 00' 00"	89° 43' 32"		89° 43' 32"	
$\alpha 5$	90° 16' 28"	90° 16' 28"		90° 00' 00"	
$\alpha 6$	89° 43' 32"	89° 43' 32"		90° 00' 00"	

- 注記)
1. 施工・製作に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。
 2. ボルト位置及び取付位置等の変更がある場合は、再度検討を行うこと。
 3. 特配無きRib補強部材ボルトは全て高力ボルト(M22)を使用する。
 4. 既設セットボルト孔及び既設補修部材ボルト孔は溶接で埋まし、グラインダ仕上げを行う。

東 関 東 自 動 車 道 吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン A2橋台支承取替工詳細図(4)		
縮 尺	図 示	図面番号	63/232
設計会社名	大 日 咨 詢 社 有 限 公 司		
施工会社名	東 日 本 高 速 道 路 株 式 有 限 公 司 関 東 支 社		
事務所名	千 葉 管 理 事 務 所		

吉倉高架橋 Aライン A2橋台支承取替工詳細図（5）
支承取替工 BP・B-3
[主桁削孔工]

S=1:20

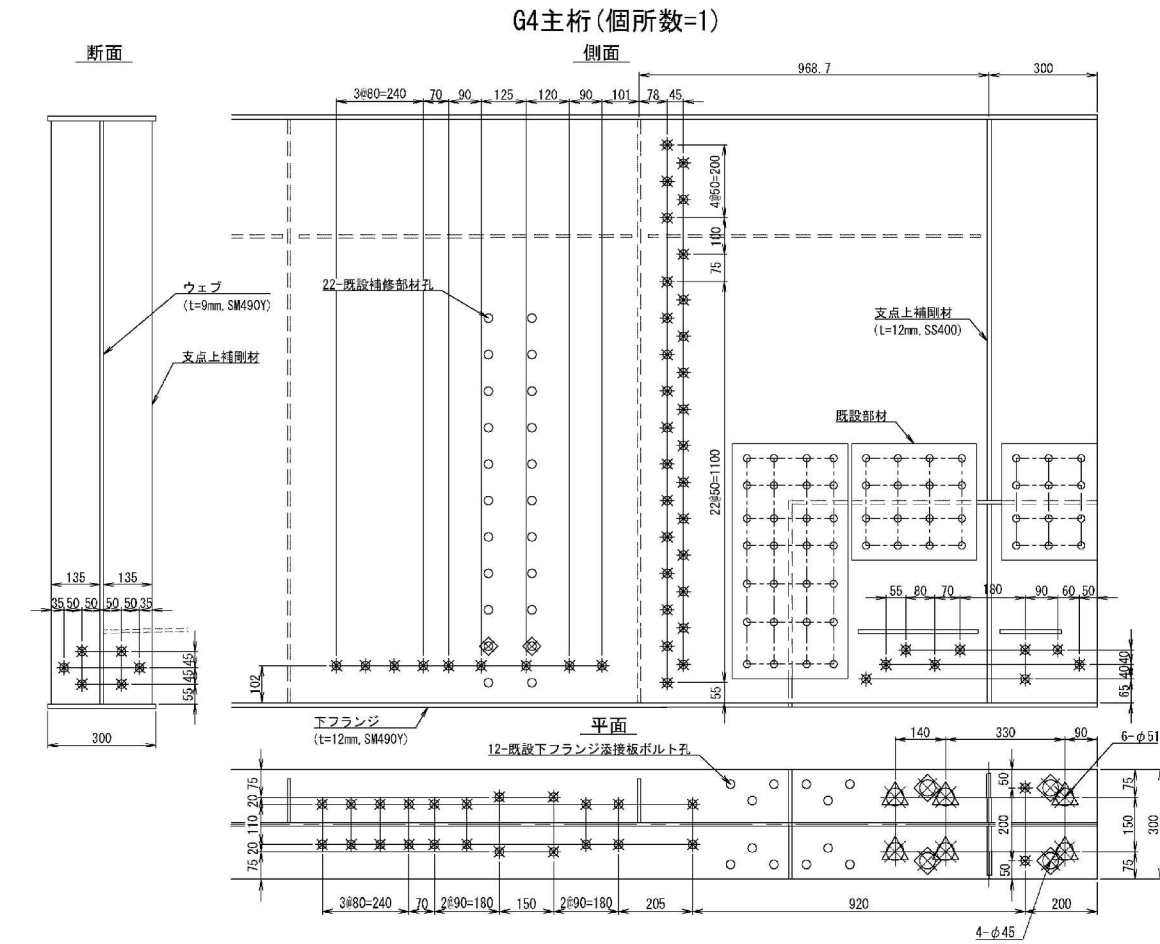


○ 印は、既設ボルト孔を示す。
◊ 印は、既設孔を示し、溶接で埋戻し後、グラインダ仕上げを行う。
※ 印は、新設ボルト孔を示し、削孔径はφ24.5mmとする。
※ 印は、新設セットボルト孔を示し、削孔径はφ51mmとする。

新設ボルト孔数内訳 (単位: 孔)

		G1	G2, G3, G5	G4
下フランジ補強部材	ウェブ	9	27	9
	支点上補強部材	6	18	6
	下フランジ	4	6	2
Rib補強部材	ウェブ	29	54	29
固定設置主桁部材	ウェブ	9	27	9
	下フランジ	22	66	22

注記)
1. 施工・製作に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。

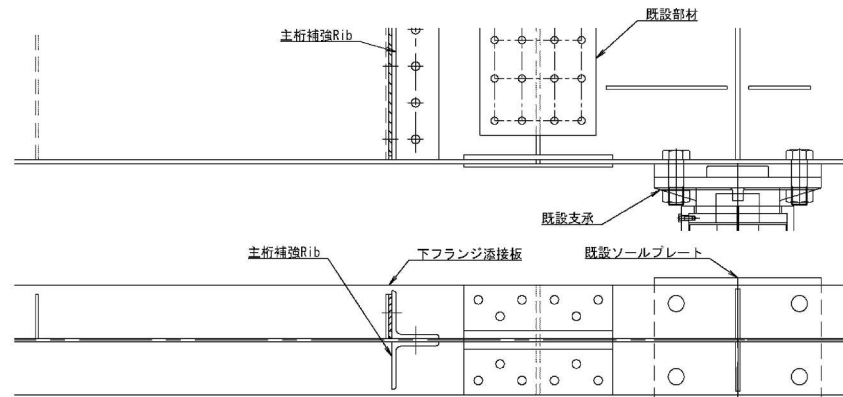


東 関 東 自 動 車 道			
吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン A2橋台支承取替工詳細図（5）		
縮 尺	図 示	図面番号	64/232
設計会社名	大 日 コ ン サ ル タ ン ト 株 式 有 限 公 司		
施工会社名	東 日 本 高 速 道 路 株 式 有 限 公 司		
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所		

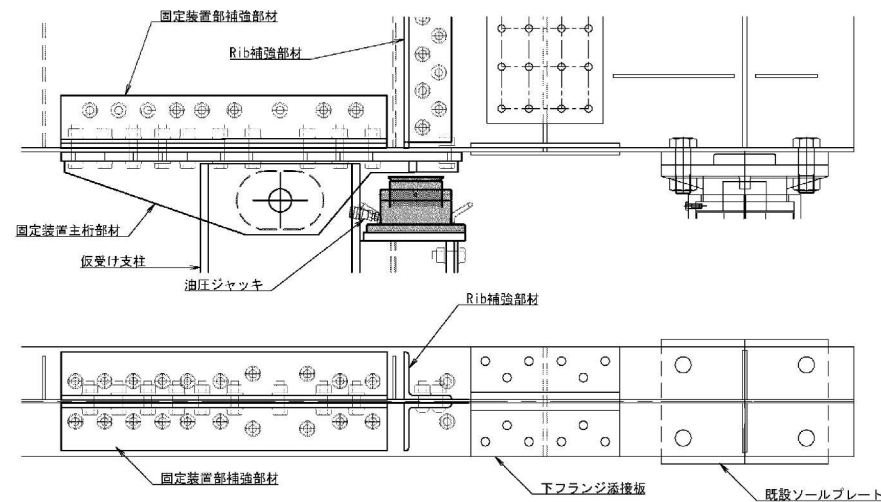
吉倉高架橋 Aライン A2橋台支承取替工詳細図(6)
 支承取替工 BP・B-3
 [補強部材取付け順序図]

S=1:20

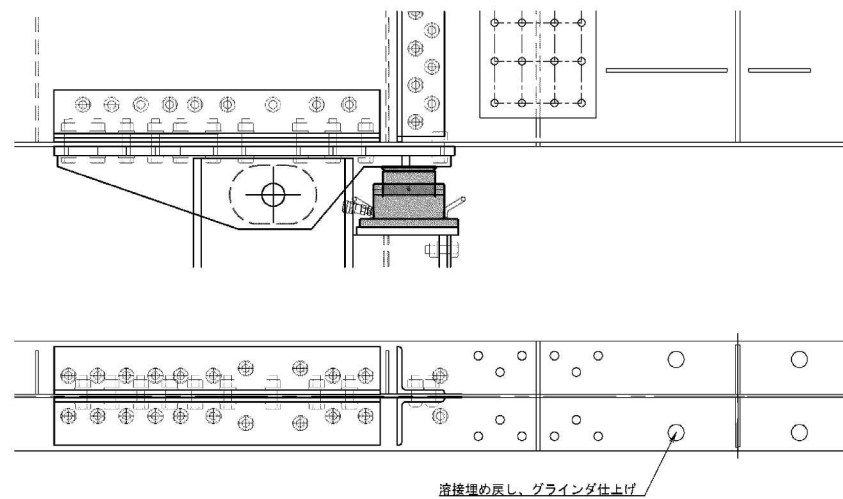
Step1: 現況



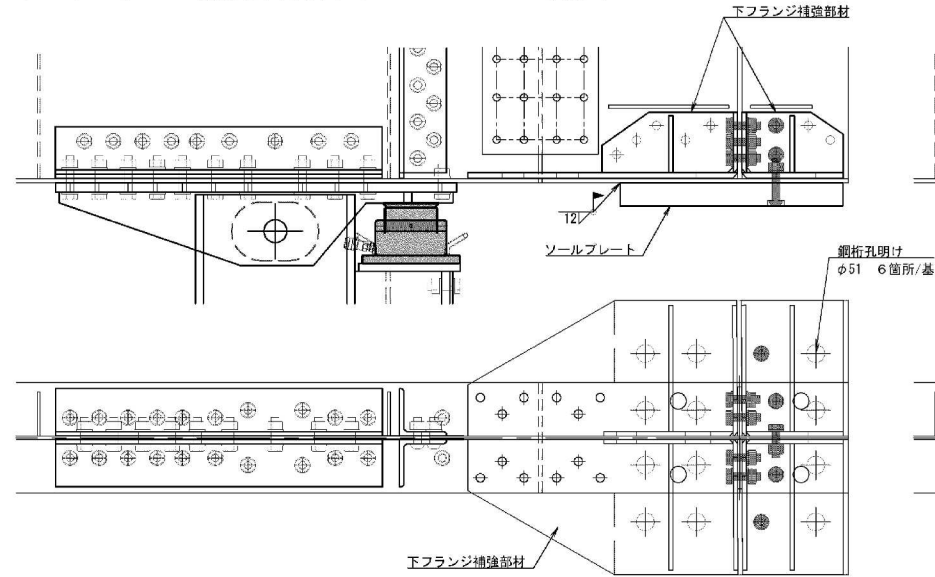
Step2: 主桁補強Rib、補強Rib・固定装置主桁部材取付け



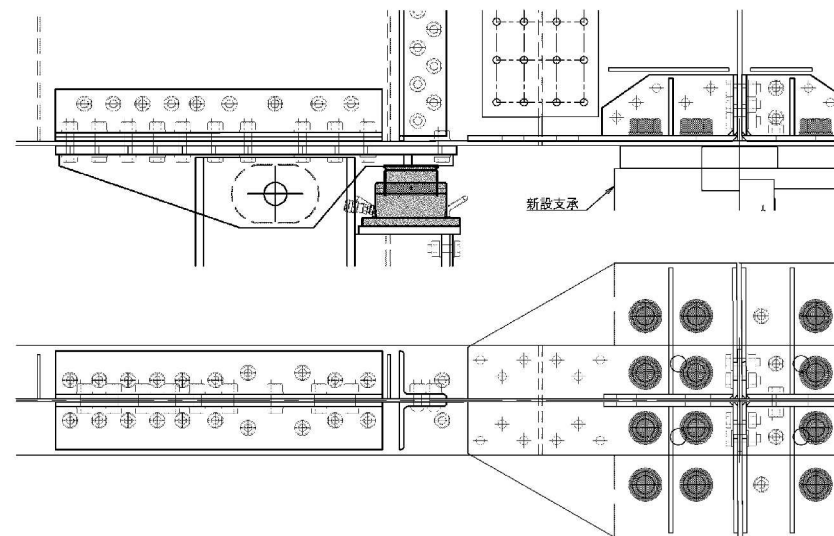
Step3: 既設支承・ソールプレート・下フランジ添接板撤去



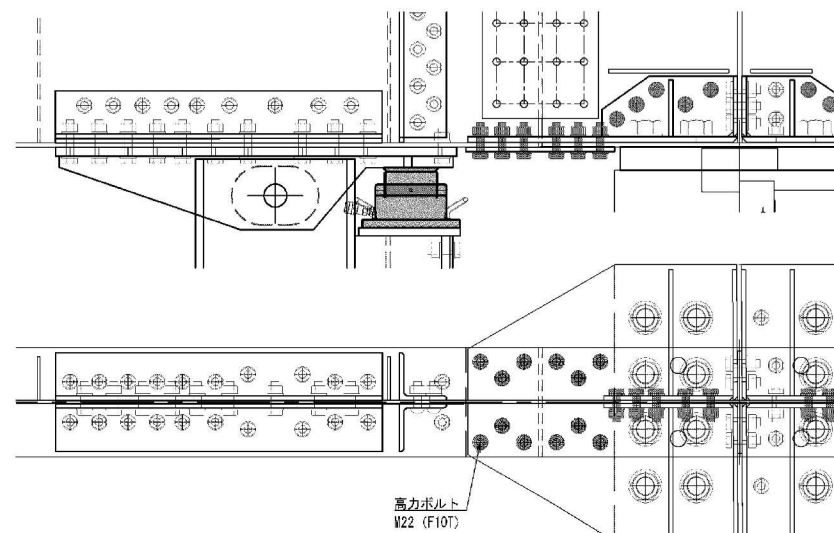
Step4: 下フランジ補強部材及びソールプレート取付け



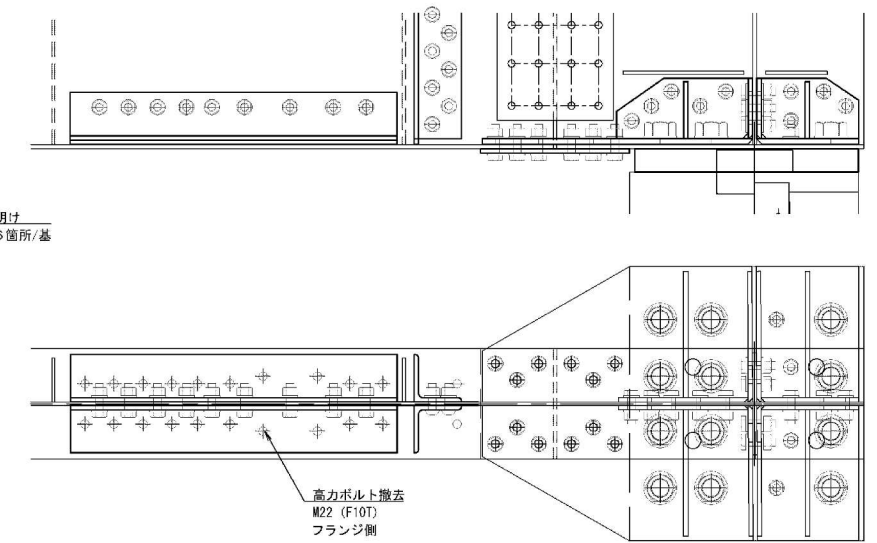
Step5: 支承設置



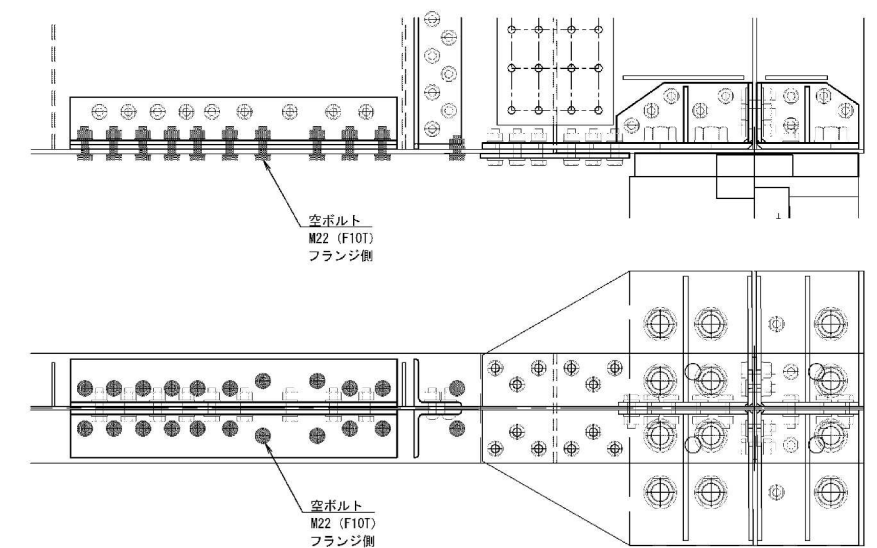
Step6: 添接板及び補強部材ボルト取付け



Step7: 仮受け設備撤去



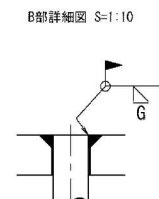
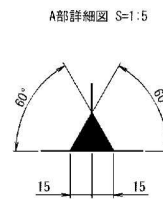
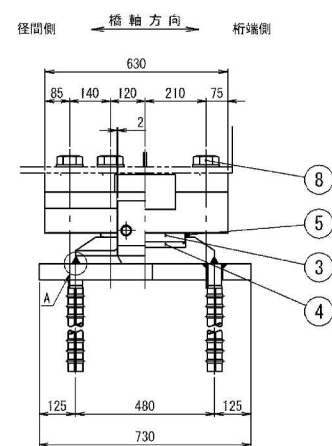
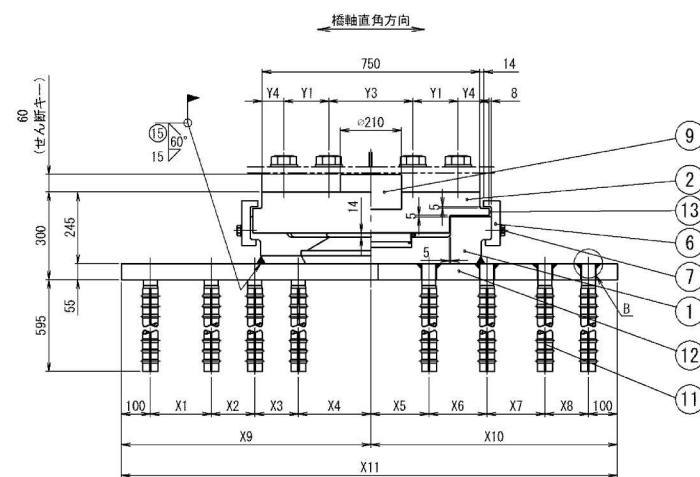
Step8: 空ボルト取付け



注記)
 1. 施工・製作に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。
 2. ボルト位置及び取付位置等の変更がある場合は、再度検討を行うこと。
 3. 特記無きRib補強部材ボルトは全て高力ボルト(M22)を使用する。

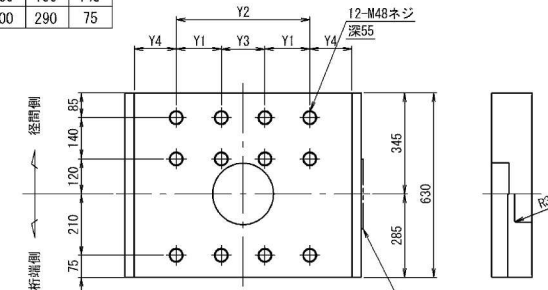
東 京 東 京 自 動 車 道				
吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事				
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン A2橋台支承取替工詳細図(6)			
縮 尺	図 示	図面番号	65/232	
設計会社名	大 日 コ ン サ ル タ ン ト 株 式 会 社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所			

吉倉高架橋 Aライン A2橋台支承詳細図 S=1:25
 支承取替工 B P・B-3

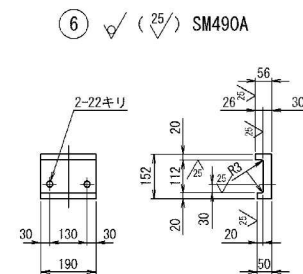
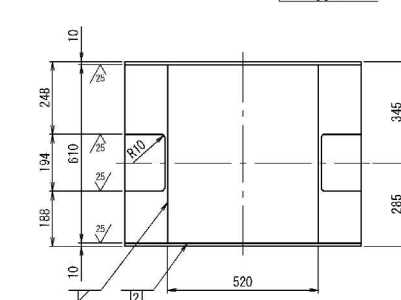
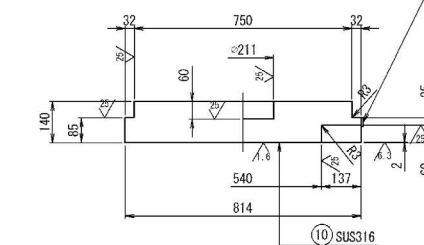


位置	Y1	Y2	Y3	Y4
G5~G2	155	460	150	145
G1	155	600	290	75

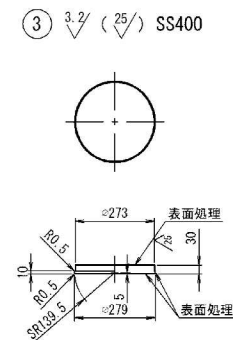
② \checkmark (\checkmark 25 \checkmark 6.3) SM490A



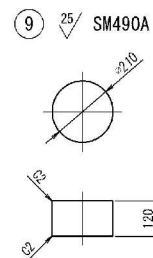
上沓とサイドブロック
の間に 13 ゴムピース
をはさんで組立のこと



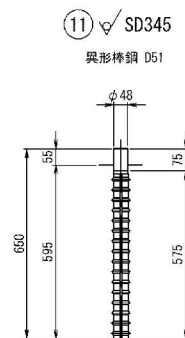
⑥ ∇ (25) SM490A



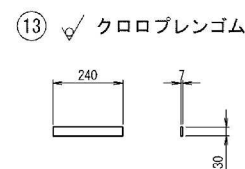
③ 3.2/ (25/) SS400



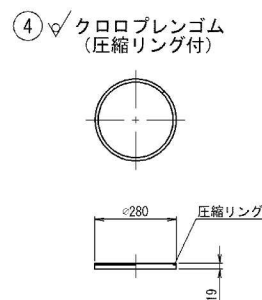
⑨ 25/ SM490A



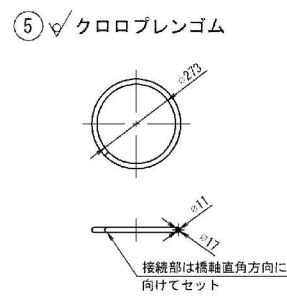
⑪  SD345
異形棒鋼 D51



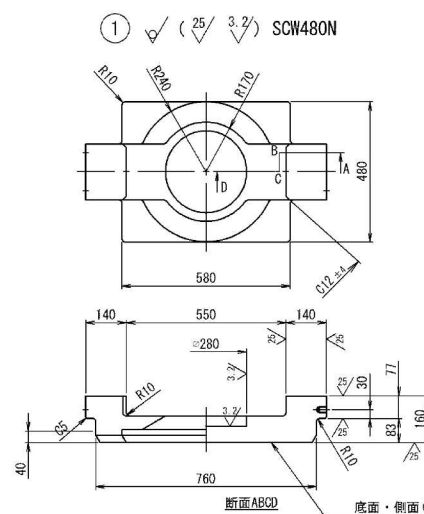
⑬ ☒ クロロプレンゴム



④ ☒ クロロプレンゴム
(圧縮リング付)



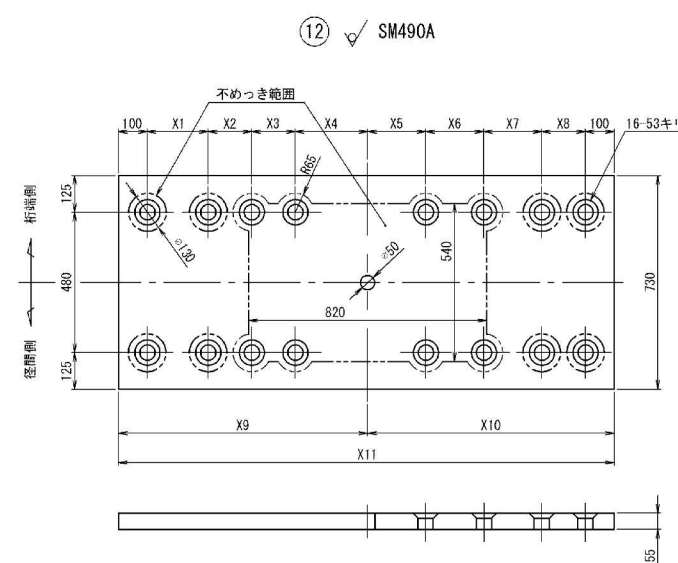
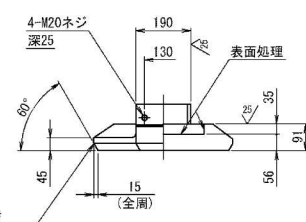
⑤ ☒ クロロプレンゴム



① ∇ (∇^{25} $\nabla^{3.2}$) SCW480N

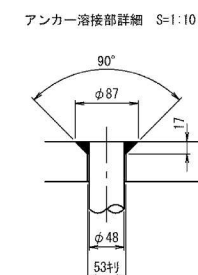
⑦ 六角ボルト 中 M20x55 4.8
(平座金付き)

⑧ 六角ボルト 中 M48x100 8.8相当
(平座金付き)

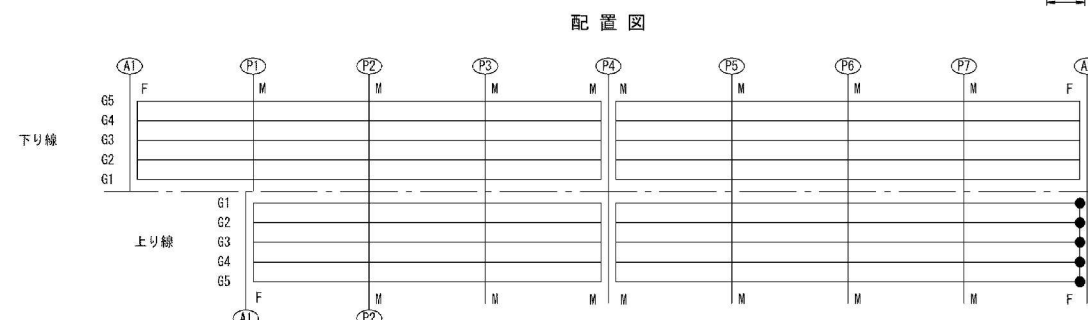


⑫ ✓ SM490A

位置	X1	X2	X3	X4	X5	X6	X7	X8	X9	X10	X11
G1	150	150	150	390	410	150	150	150	940	960	1900
G2	150	150	150	395	205	225	245	150	945	925	1870
G3	150	150	150	425	230	225	225	225	975	1005	1980
G4	150	150	275	200	480	225	225	150	875	1180	2055
G5	150	150	150	275	325	175	150	140	825	890	1715



アンカー溶接部詳細 S=1:10



配置図

設計条件

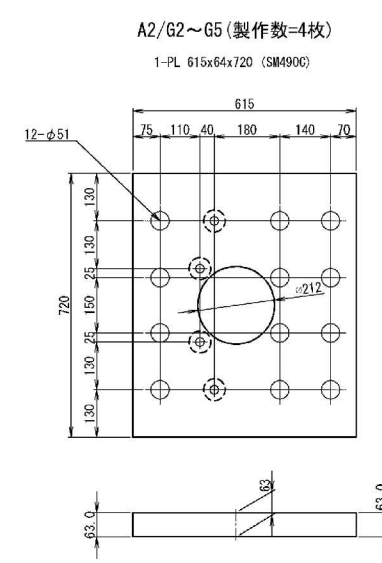
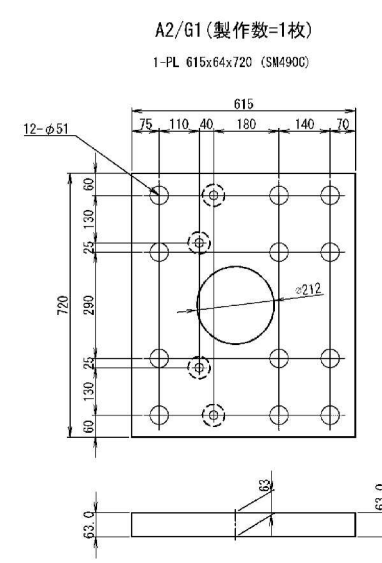
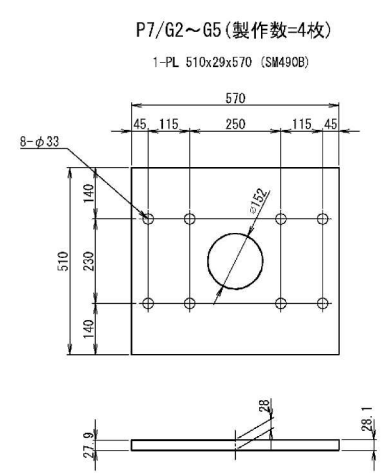
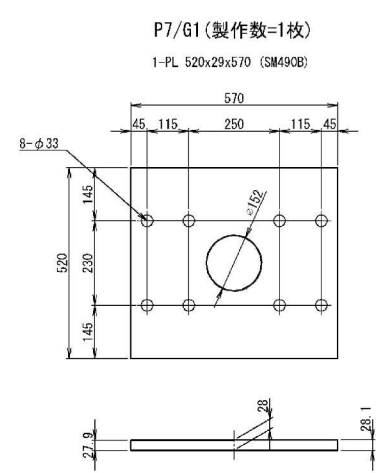
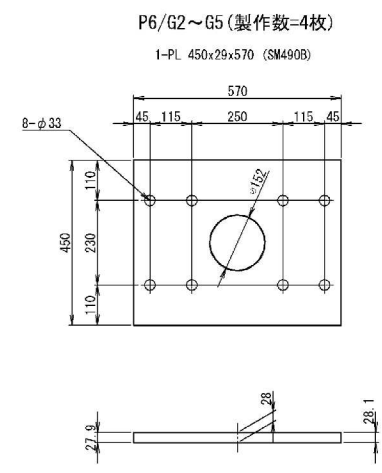
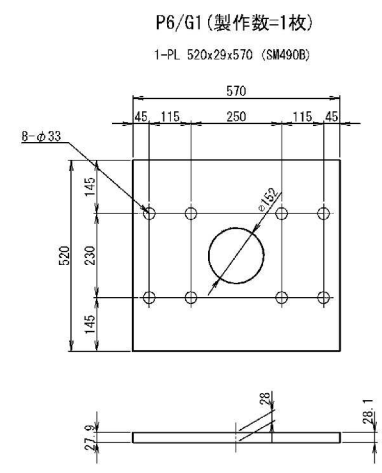
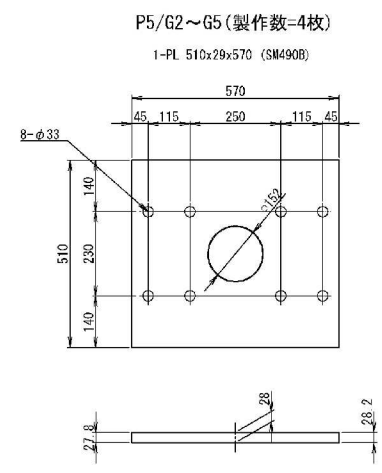
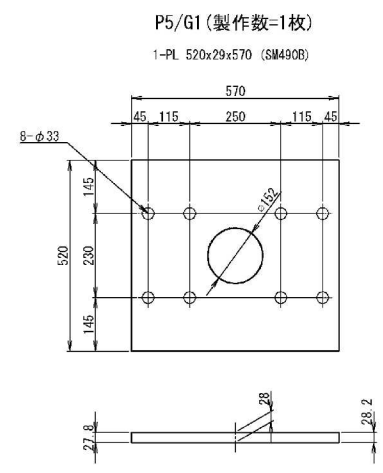
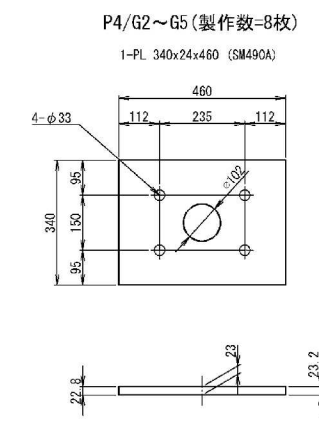
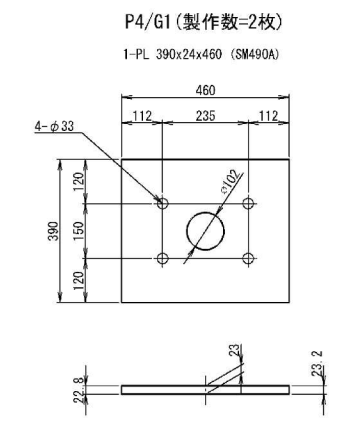
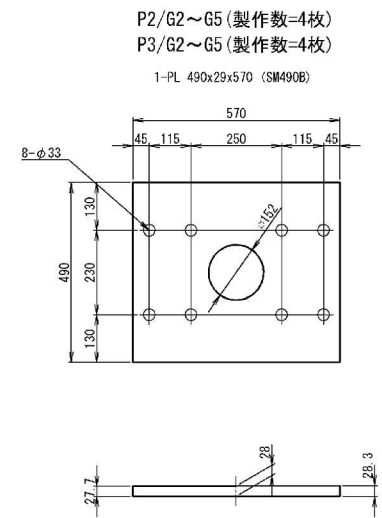
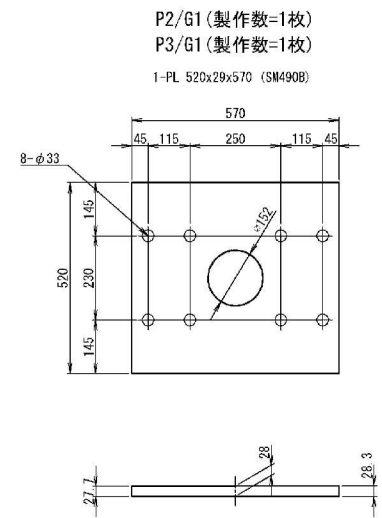
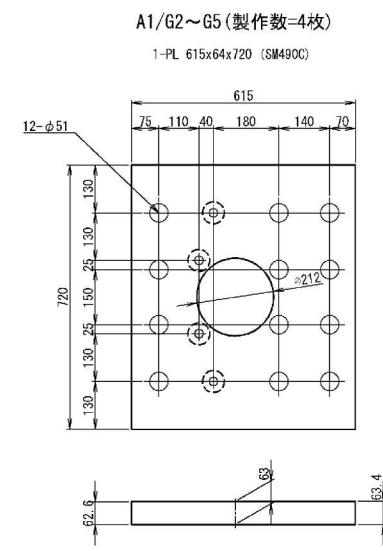
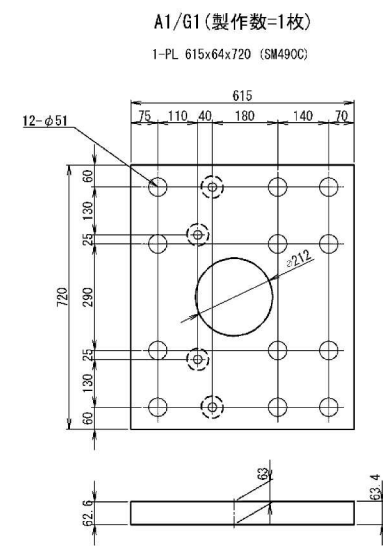
反		力	
設 計 反 力		R	860 kN
死 荷 重 反 力		Rd	390 kN
橋 軸 方 向 水 平 力 (地震時)		RH1e	5100 kN
橋軸垂直方向水平力 (地震時)		RH2e	610 kN
上 橋 力 (地震時)		V	117 kN
支 承 部 支 持 条 件			
橋軸方向：固定		橋軸垂直方向：固定	

材 料 表

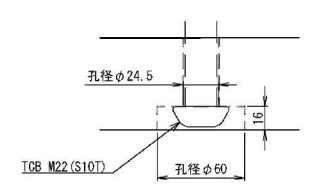
船番	部 品 名 称	材 質	個数	重量(kg)	備 考
①	下 容	SCW480N	1	196.1	
②	上 容	SM490A	1	482.4	
3	中 間 プ レ ー ト	SS400	1	14.0	
4	ゴ ム ブ レ ー ト	クロブレングム	1	1.5	狂摩リング付
5	シ ー ル リ ン グ	クロブレングム	1	0.2	
⑥	サイ ド ブ ロ ッ ク	SM490A	2	16.0	
⑦	六角ボルト・座金	—	4	0.9	JIS B 1180 JIS B 1256
⑧	六角ボルト・座金	—	12	31.9	JIS B 1180 JIS B 1256
⑨	せん 断 き 器	SM490A	1	32.6	
10	ステンレス板	SUS316	1	5.0	320x2x600
11	アンカーボルト	SD345	16	165.4	
⑫	ベ ー ス プ レ ー ト	SM490A	1	584.0	(平吊用)
13	グ ム ビ ー ス	クロブレングム	2	—	架設部用
全 重 量				1530.0	(kg)
一 般 外 面 の 防 食 処 理					
溶融亜鉛めっき		付着量550g/m ² 以上、350g/m ² 以下(ポルト類)			

(注記) 1. ゴムピース (13) は、架設完了後、撤去のこと。
2. 材料表部番 〇印は、溶融亜鉛めっき仕様の場合のめっき施工部材を示す。
3. 部番 ⑦ (8) の六角ボルト・座金の重量は参考重量とする。
4. アンカーボルトは鉄筋防錆剤を塗布のこと。
5. 不めっき部は事先防錆剤塗布のこと。現場溶接後、高濃度亜鉛末塗塗のこと。
6. ペースプレートは現場実測を行い、アンカーボルト位置確定の後に従法決定のこと。
7. 必要に応じて強度に問題ない箇所には吊用のネジ穴を設けても可。

吉倉高架橋 Aライン 支承取替工鋼材詳細図 (1) S=1:20
[ソールプレート詳細図]



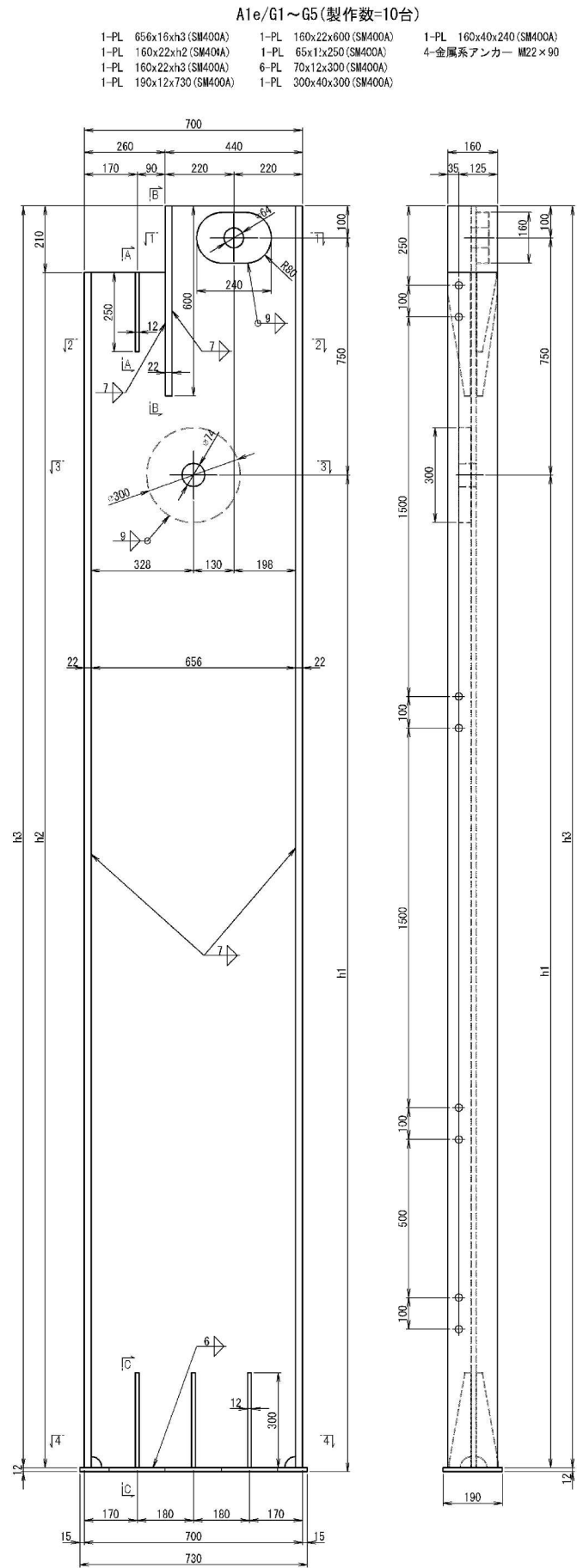
ザグリ孔詳細図 S=1:5



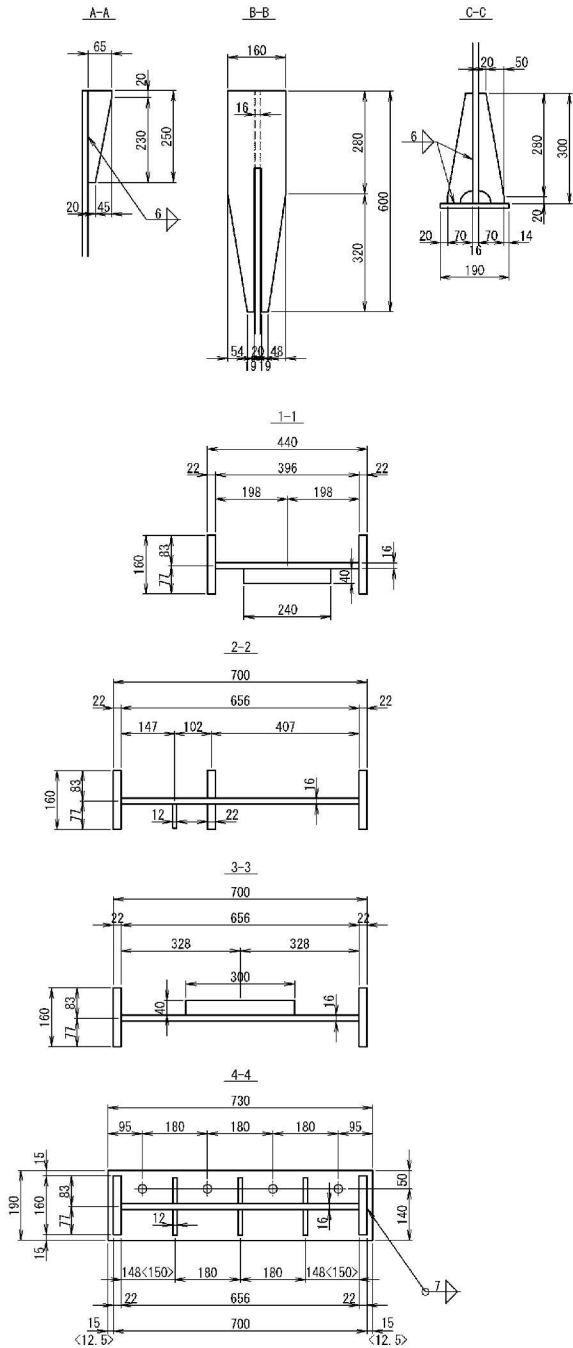
注記)
1. (⊕)印は、ザグリ孔を示し、詳細図上に示す。

東 関 東 自 動 車 道 吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン 支承取替工鋼材詳細図 (1)		
縮 尺	図 示	図面番号	67/232
設計会社名	大 日 コ ン サ ル タ ン ト 株 式 会 社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所		

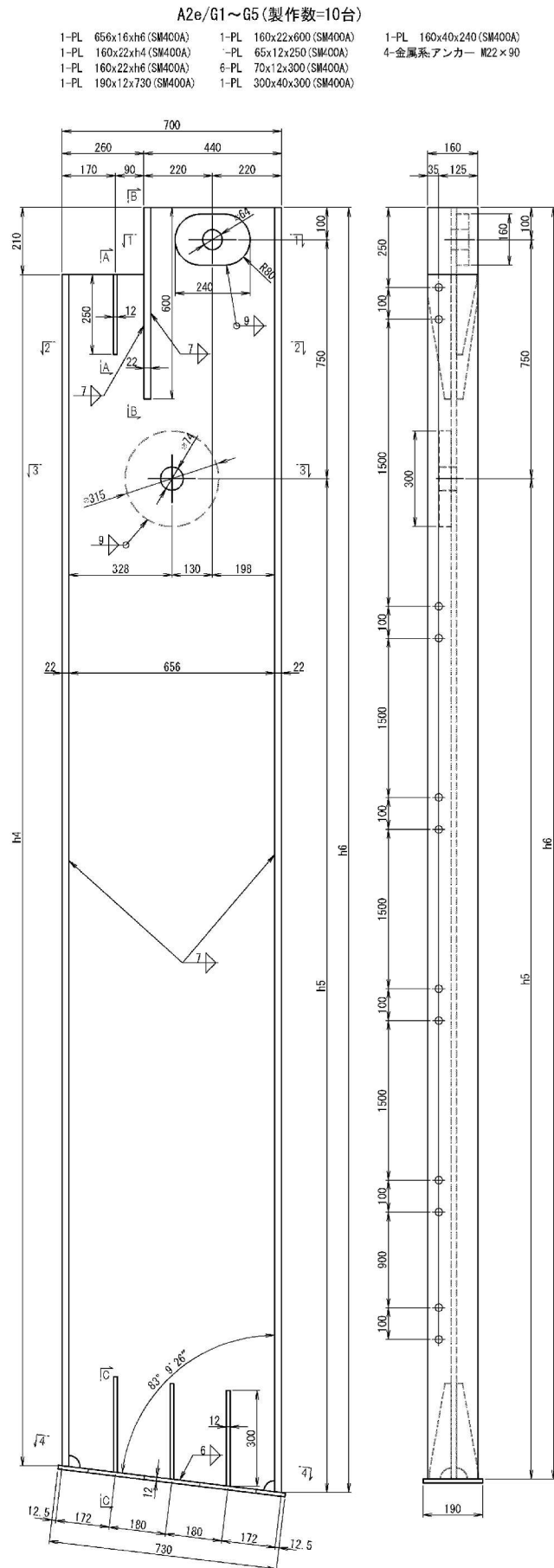
吉倉高架橋 Aライン 支承取替工鋼材詳細図 (4) S=1:20
[仮受け支柱詳細図]



A1橋台					
	G1	G2	G3	G4	G5
h1	3522	3592	3660	3727	3794
h2	4351	4233	4300	4367	4434
h3	4372	4443	4510	4577	4644



※< >内値はA2e部材製の値を示す。

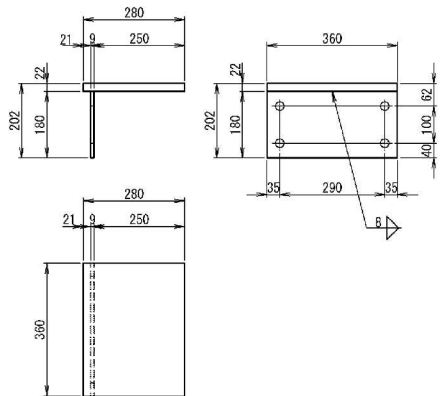


A2橋台					
	G1	G2	G3	G4	G5
h4	7966	8037	8104	8171	8238
h5	7770	7481	7548	7615	7682
h6	8620	8331	8398	8465	8532

支柱金具

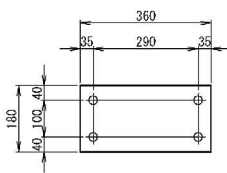
A1f/G1~G5(製作数=5台)
A2f/G1~G5(製作数=5台)

1-PL 280x22x360 (SM400A) 4-HTB M22x75 (F10T)
1-PL 180x 9x360 (SM400A)



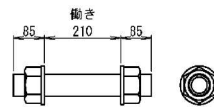
A1g/G1~G5(製作数=30枚)
A2g/G1~G5(製作数=50枚)

1-PL 180x9x360
4-HTB M22x75 (F10T)

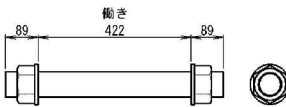


ピン詳細図

1本当たり
1-φ60x380 (S45CN)
2-Nut/M56 (1種)
2-Washer/M56
製作数=10本
A1, A2橋台 各5本



1本当たり
1-φ70x600 (S45CN)
2-Nut/M60 (1種)
2-Washer/M60
製作数=10本
A1, A2橋台 各5本

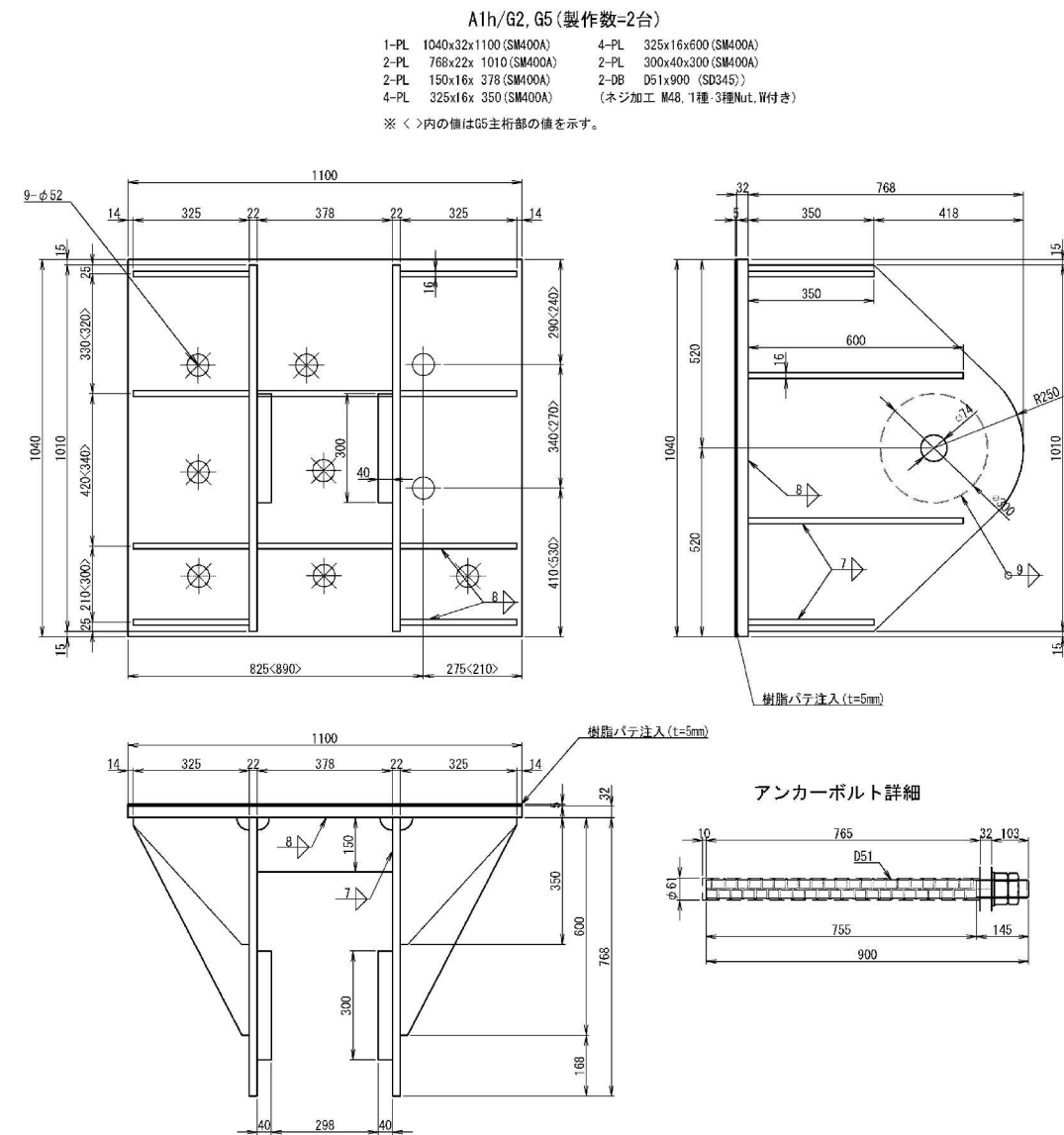
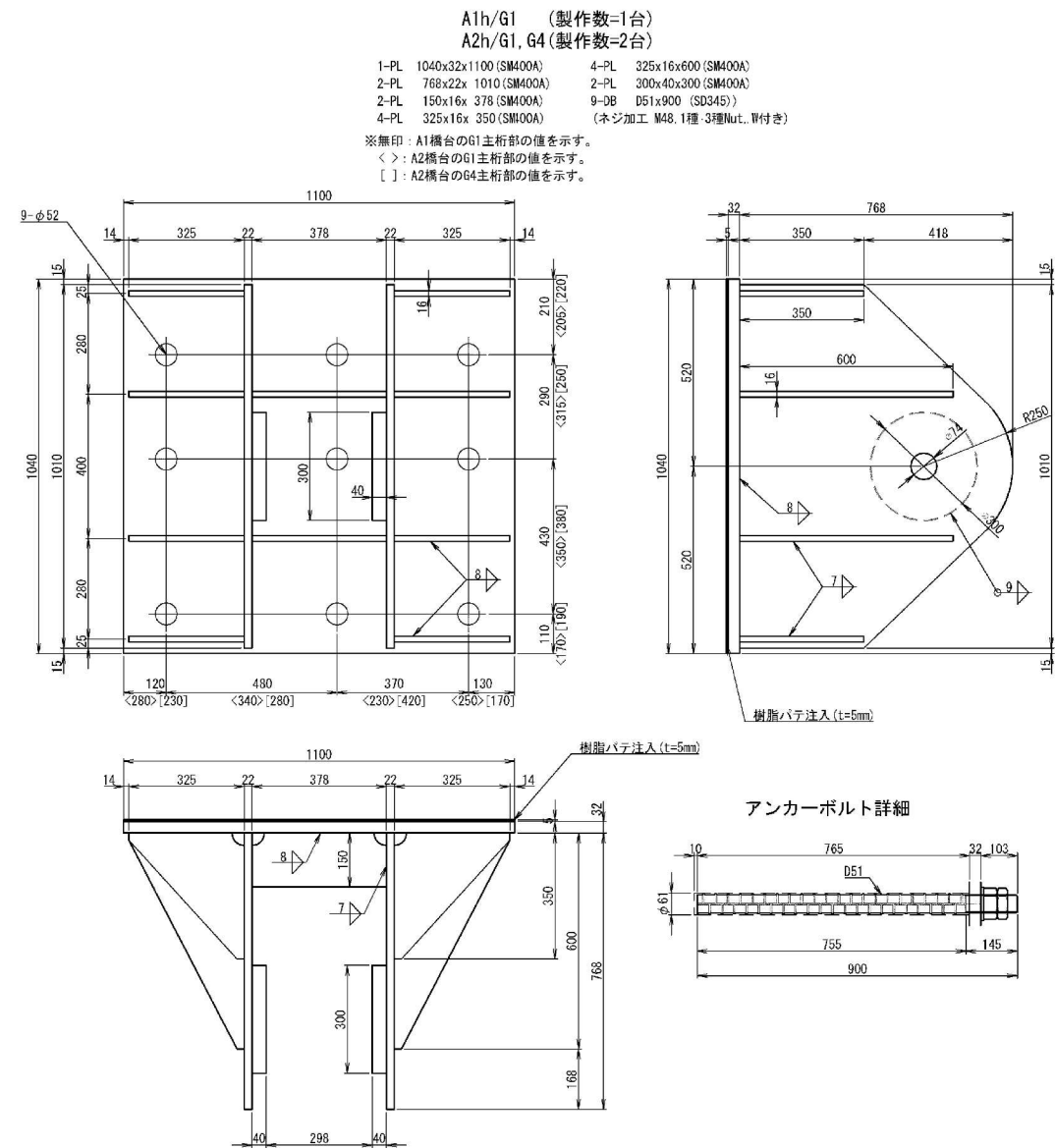


注記

- 特記無き材質は全てSS400とする。
- 特記無きスカーラップは全てR35mmとする。
- 特記無きボルト孔は全てφ24.5mmとする。
- 金属系アンカー用削孔にあたっては、鉄筋探索を行う等して既設鉄筋を切断しないよう留意すること。

東 関 東 自 動 車 道 吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン 支承取替工鋼材製作図 (4)		
縮 尺	図 示	図面番号	70/232
設計会社名	大 日 咨 詢 サ ル タ ン ト 株 式 会 社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	千葉管理事務所		

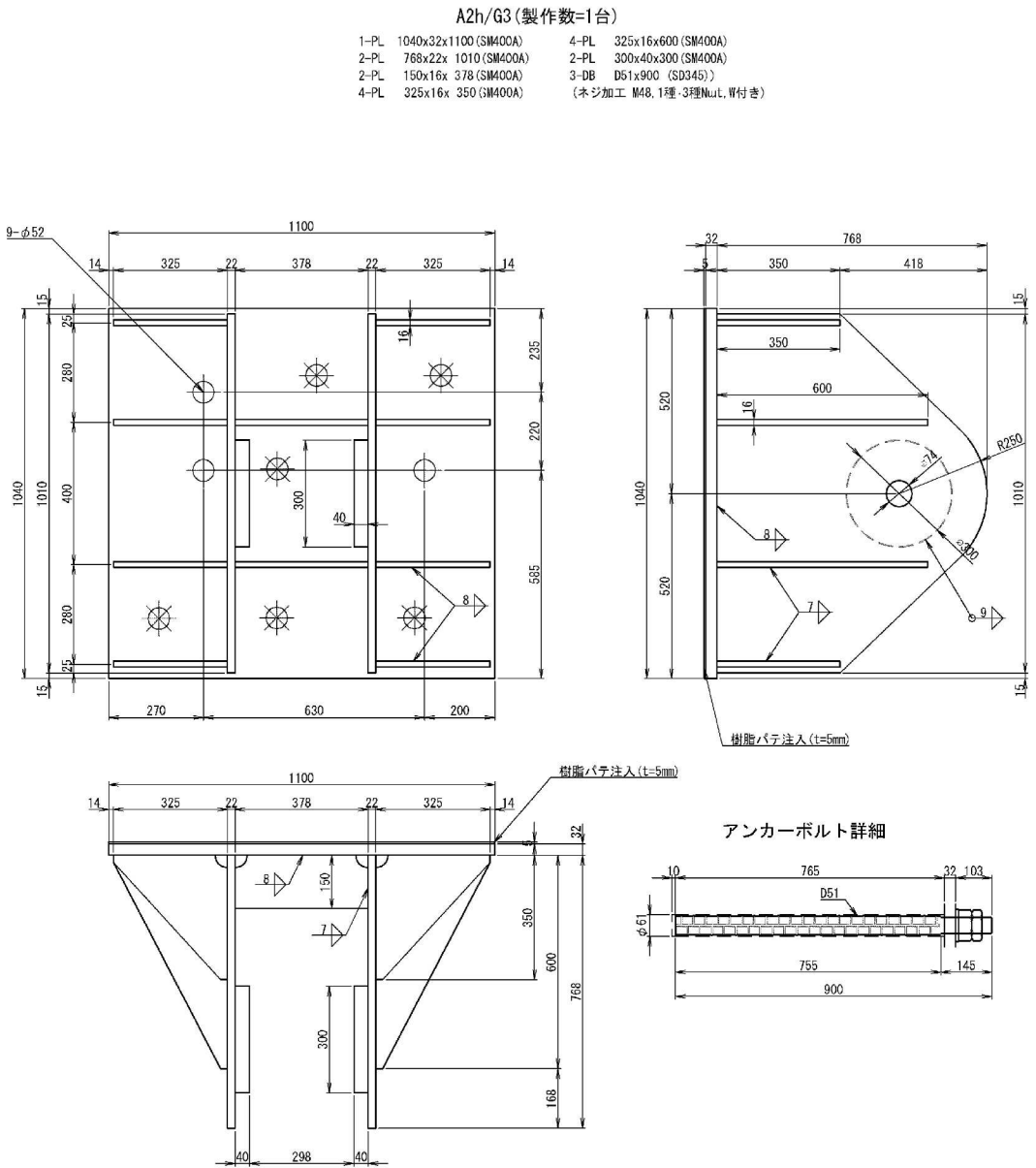
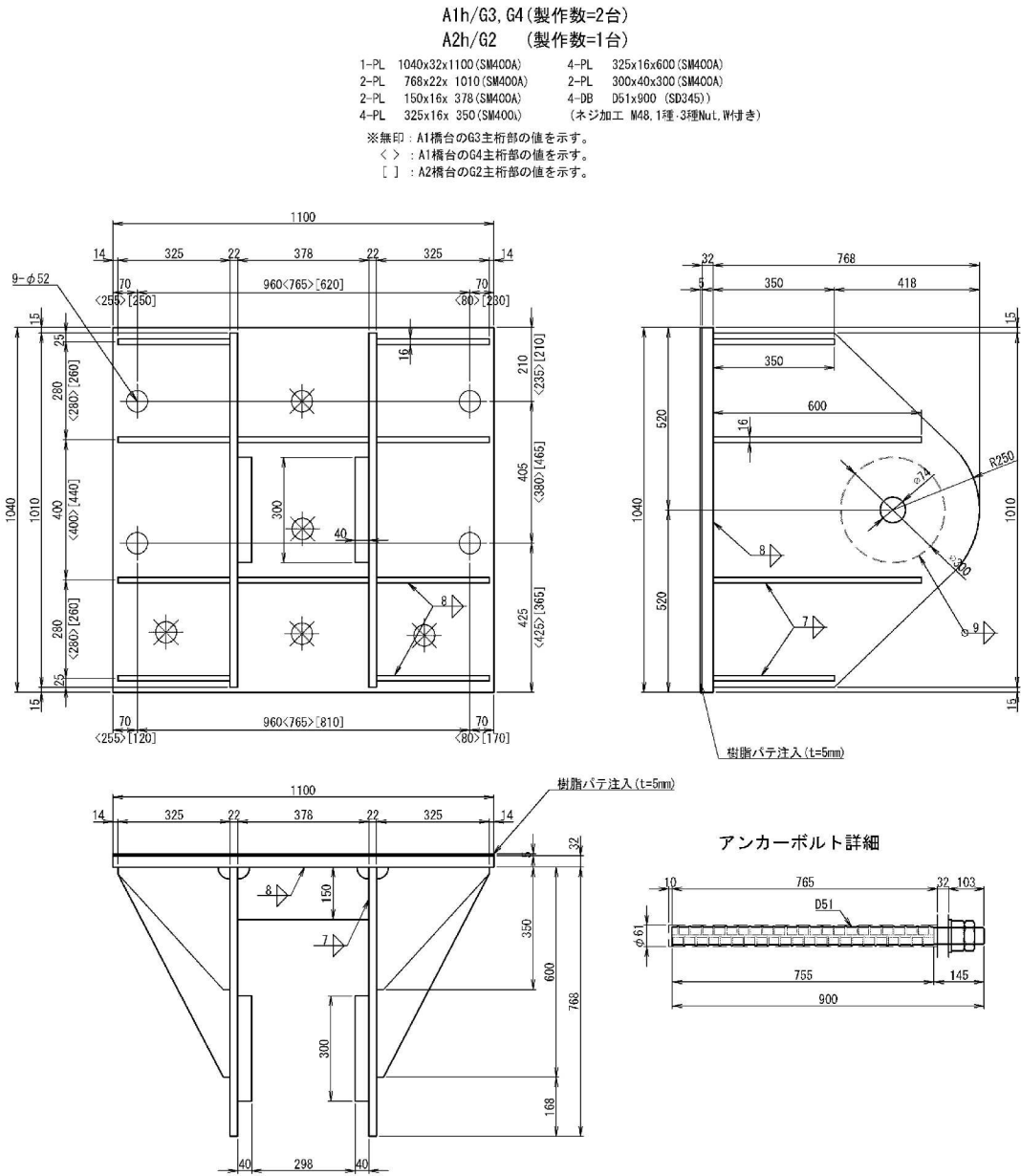
吉倉高架橋 Aライン 支承取替工鋼材詳細図（5） S=1:20
[固定装置詳細図]



- 注記)
1. 施工・製作に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。
 2. 特記なきスカーラップは全てR35mmとする。
 3. 印は、既設アンカーボルト利用孔を示す。
既設アンカーボルト利用箇所はボルト配置を計測の上、
ボルト孔及びリブの配置を見直すものとする。
 4. 樹脂パテ注入の周囲にはシール材を施工するものとする。

東 関 東 自 動 車 道			
吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン 支承取替工鋼材詳細図（5）		
縮 尺	図 示	図面番号	71/232
設計会社名	大 日 コ ン サ ル タ ン ト 株 式 会 社		
施工会社名			
平野所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 平 野 管 理 事 務 所		

吉倉高架橋 Aライン 支承取替工鋼材詳細図（6） S=1:20
[固定装置詳細図]



注記)
1. 施工・製作に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。
2. 特記無きスカーラップは全てR35mmとする。
3. 印は、既設アンカーボルト利用孔を示す。
既設アンカーボルト利用箇所はボルト配置を計測の上、
ボルト孔及びリブの配置を見直すものとする。

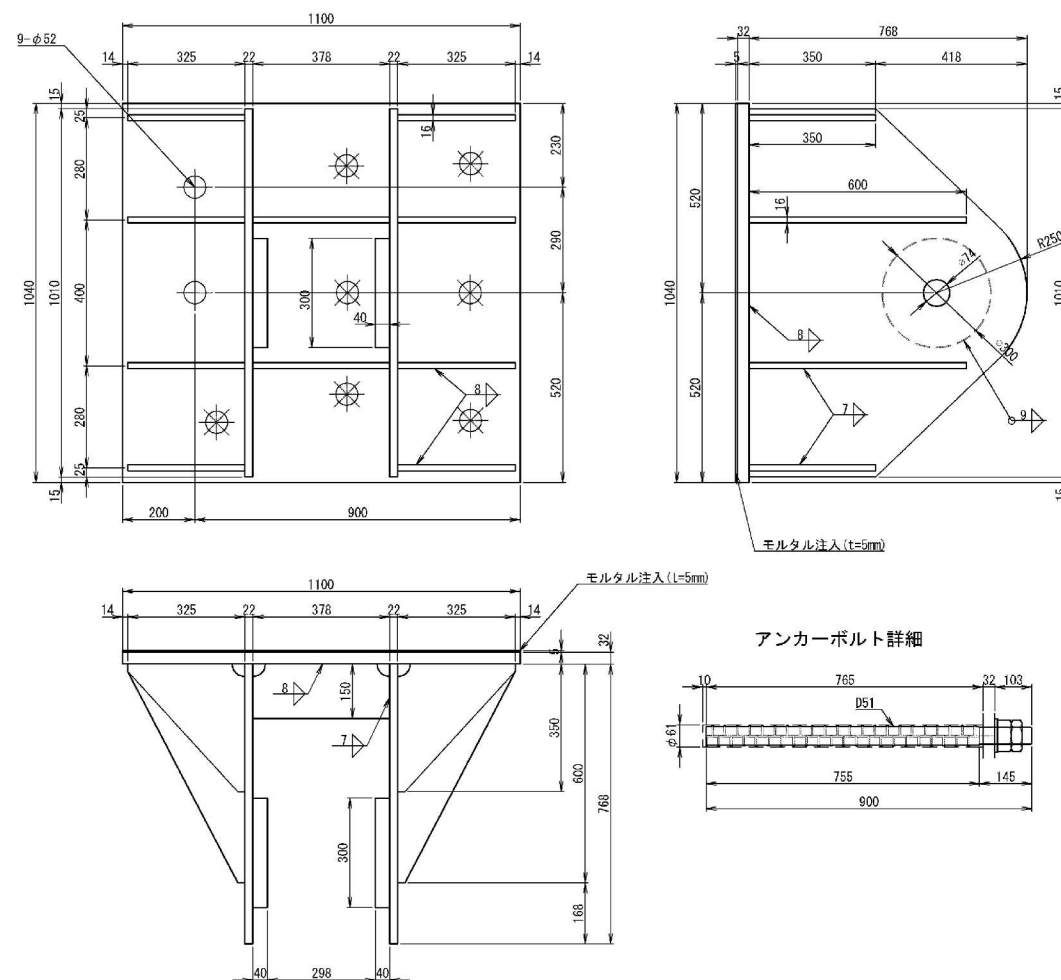
東 関 東 自 動 車 道 吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
四面の種類	吉倉高架橋 Aライン 支承取替工鋼材詳細図（6）		
縮 尺	図 示	図面番号	72/232
設計会社名	大 日 コン サ ル タ ン ト 株 式 会 社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 干 葉 管 理 事 務 所		

吉倉高架橋 Aライン 支承取替工鋼材詳細図(7) S=1:20
[固定装置、固定装置主桁部材詳細図]

固定装置

A2h/G5(製作数=1台)

1-PL 1040x32x1100 (SM400A)	4-PL 325x16x600 (SM400A)
2-PL 768x22x 1010 (SM400A)	2-PL 300x40x300 (SM400A)
2-PL 150x16x 378 (SM400A)	2-DB D51x900 (SD345))
4-PL 325x16x 350 (SM400A)	(ネジ加工 M48, 1種・3種Nut, 附付き)



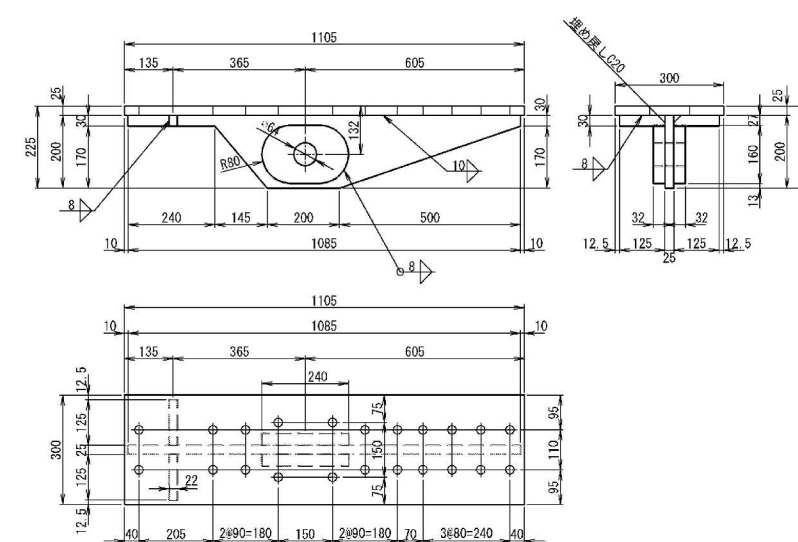
固定装置主桁部材

A1i/G1~G5(製作数=5台)

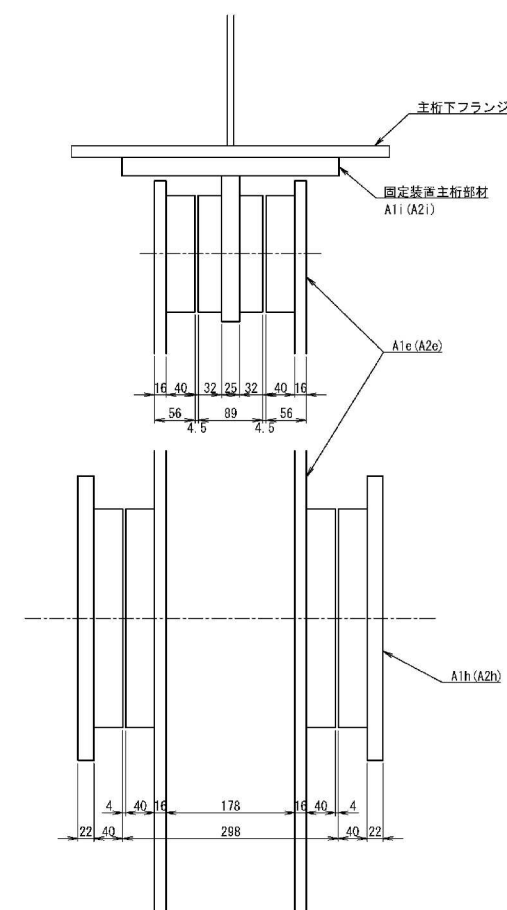
A2i/G1~G5(製作数=5台)

1-PL 300x25x1105 (SM400A)	2-HTB M22x 80 [85] (F10T)
1-PL 200x25x1085 (SM400A)	
2-PL 30x22x 125 (SM400A)	
2-PL 160x20x 240 (SM400A)	

※〔 〕内値はG1の値を示す。



ピン接合部板厚説明 S=1:10



- 注記)
1. 施工・製作に先立ち現地調査を行い、寸法確認・修正を行うこと。
 2. 特記無きスカーラップは全てR35mmとする。
 3. ~~○~~印は、既設アンカーボルト利用孔を示す。
既設アンカーボルト利用箇所はボルト配置を計測の上、ボルト孔及びリブの配置を見直すものとする。

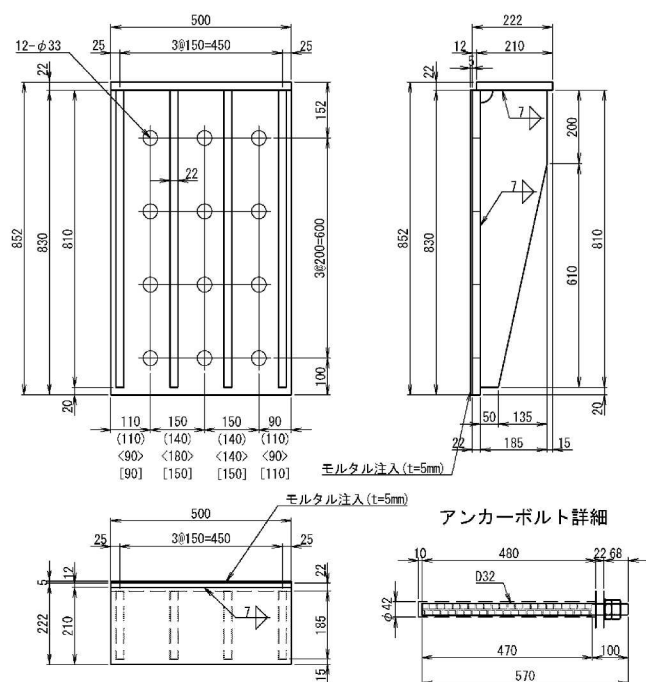
東 関 東 自 動 車 道 吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン 支取替工鋼材詳細図(7)		
縮 尺	図 示	図面番号	73/232
設計会社名	大日コンサルタント株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所		

吉倉高架橋 Aライン 支承取替工鋼材詳細図 (8) S=1:20
[仮ブラケット・仮受けプレート詳細図]

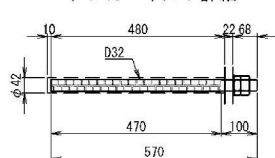
P2/G1~G5 (製作数=10台)
P3/G1~G5 (製作数=10台)

1-PL 500x22x830 (SM400A) 12-DB D32x570 (SD345)
1-PL 500x22x210 (SM400A) (ネジ加工 M30, 1種・3種Nut, W付き)
4-PL 185x22x810 (SM400A)

※()内値はG2, G4の値を示す。
 < >内値はG3の値を示す。
 []内値はG5の値を示す。



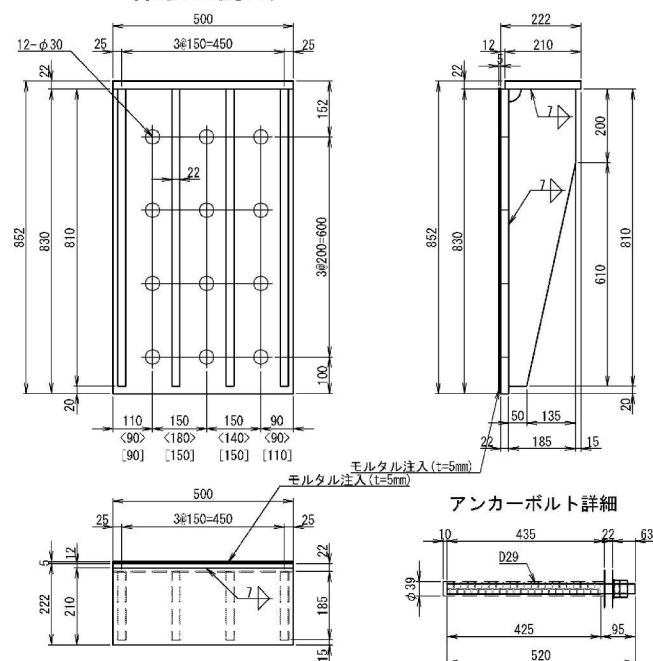
アンカーボルト詳細



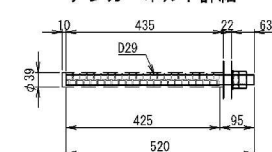
P6/G1, G3, G5 (製作数=6台)

1-PL 500x22x830 (SM400A)	12-DB D29x520 (SD345)
1-PL 500x22x210 (SM400A)	(ネジ加工 M27, 1種・3種Nut, 別付き)
4-PL 185x22x810 (SM400A)	

※〈 〉内値はG3の値を示す。
[]内値はG5の値を示す。



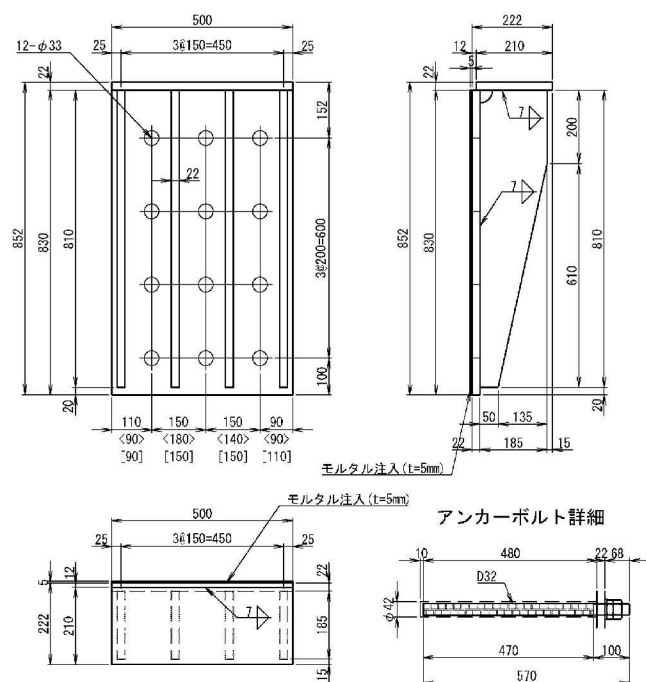
アンカーボルト詳細



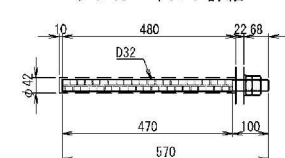
P5/G1, G3, G5 (製作数=6台)
P7/G1, G3, G5 (製作数=6台)

1-PL 500x22x830 (SM400A) 12-DB D32x570 (SD345)
1-PL 500x22x210 (SM400A) (ネジ加工 M30, 1種・3種Nut, 附付き)
4-PL 185x22x810 (SM400A)

※〈 〉内値はG3の値を示す。
[]内値はG5の値を示す。

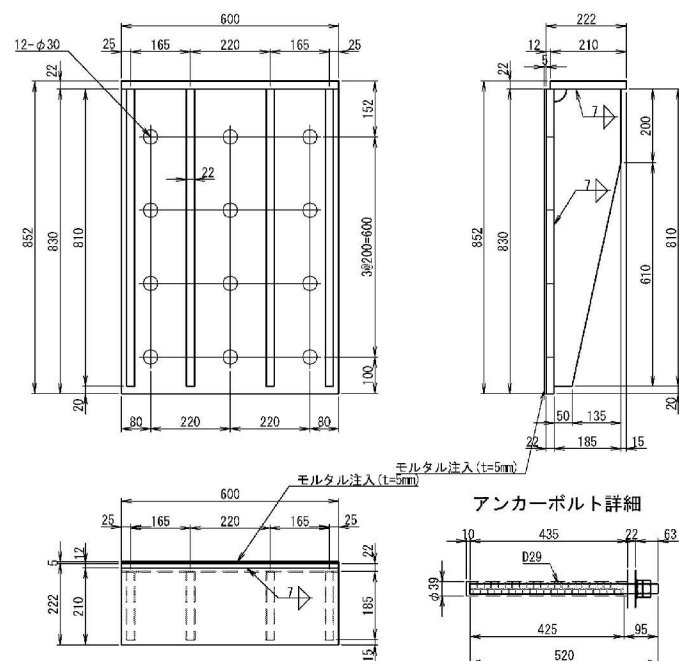


アンカーボルト詳細

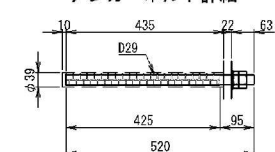


P6/G2, G4 (製作数=4台)

1-PL 600x22x830 (SM400A)	12-DB D29x520 (SD345)
1-PL 600x22x110 (SM400A)	(ネジ加工 M27, 1種・3種Nut. 別付)
4-PL 185x22x810 (SM400A)	

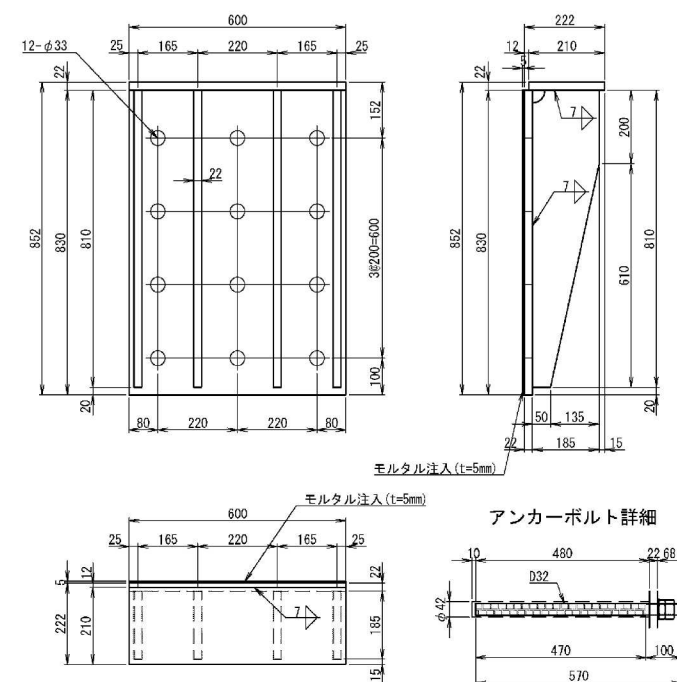


アンカーボルト詳細

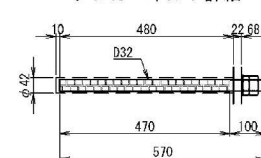


P5/G2, G4 (製作数=4台)
P7/G2, G4 (製作数=4台)

1-PL 600x22x830 (SM400A) 12-DB D32x570 (SD345)
1-PL 600x22x210 (SM400A) (ネジ加工 M30, 1種・3種 Nut, W付き)
4-PL 185x22x810 (SM400A)



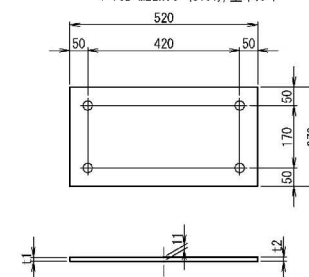
アンカーボルト詳細



仮受けプレート

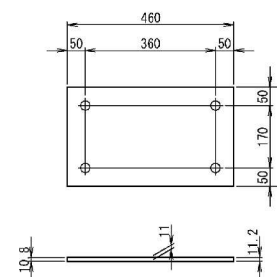
P2/G1~G5(製作数=10枚)
P3/G1~G5(製作数=10枚)
P5/G1~G5(製作数=10枚)
P6/G1~G5(製作数=10枚)
P7/G1~G5(製作数=10枚)

1-PL 270x13x520
4-HTB M22x85 (F10T)
4-TCB M22x70 (S10T)/空ボルト



P4/G1~G5(製作数=10枚)

1-PL 270x12x460
4-HTB M22x70 (F10T)
4-TCB M22x55 (S10T)/空ボルト



	P2	P3	P5	P6	P7
t1	10.7		10.8	10.9	
t2	11.3		11.2	11.1	
t3	12				

注記)

1. 特記無き材質は全てSS400とする。
2. 特記無きスカラーアップは全てR35mmとする。
3. 特記無きボルト孔は全てφ26.5mmとする。
4. アンカーボルトはネジ切部のみ溶融亜鉛メッキを施すものとする。

亜鉛の付着量は、JIS H 8641 HDZ35とする。
但し、ナット類は、HDZ35とする。

東 関 東 自 動 車 道 吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン 文承取付工鋼材詳細図(8)		
縮 尺	図 示	図面番号	74/23
設計会社名	大 日 コ ン サ ル タ ン ト 株 式 会 社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所		

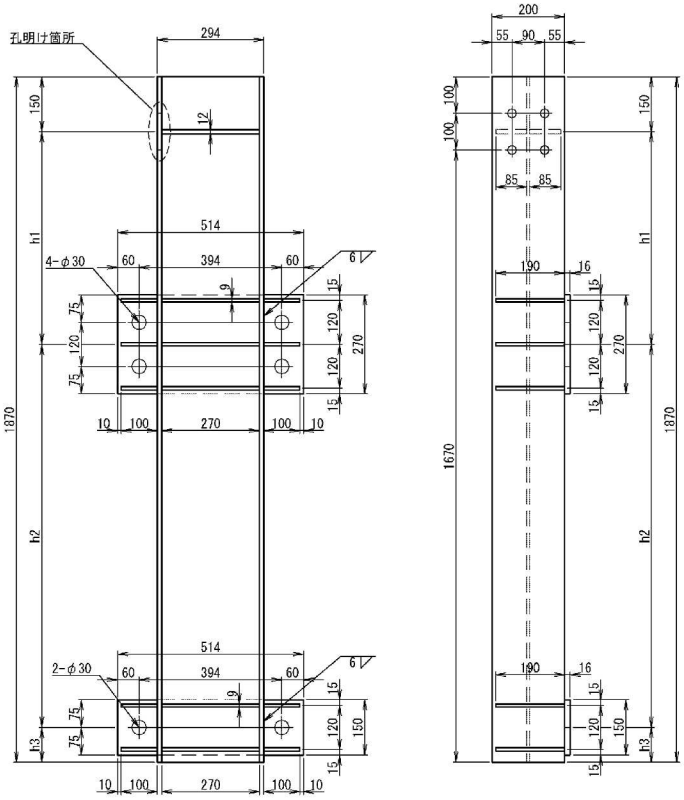
吉倉高架橋 Aライン 支承取替工鋼材詳細図 (9) S=1:20
[直角方向固定装置部材詳細図]

P2, P3, P5, P7橋脚部

C2a/G1~G5 (製作数=16台)
C3a/G1~G5 (製作数=16台)
C5a/G1~G5 (製作数=16台)
C7a/G1~G5 (製作数=16台)

1-H 294x200x8x12x1870
1-PL 270x16x514 (SM400A)
1-PL 150x16x514 (SM400A)
2-PL 85x12x270 (SM400A)

10-PL 85x 9x270 (SM400A)
10-PL 100x 9x190 (SM400A)
6-DB D29x510 (SD345)
(ネジ加工 M27, 1種・3種Nut, W付き)

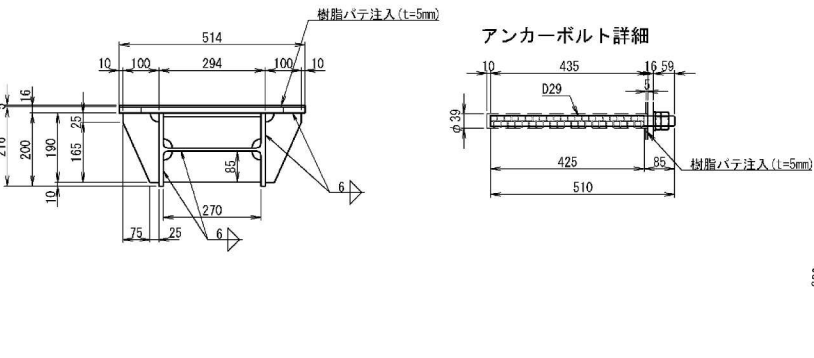


P2, P3 起点側・終点側								
	G1R	G2L	G2R	G3L	G3R	G4L	G4R	G5L
h1	580	605	580	605	580	600	580	605
h2	1045	1020	1045	1020	975	1025	1045	1000
h3	95	95	95	95	165	95	95	115

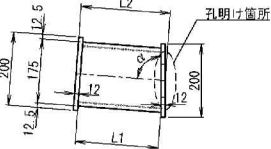
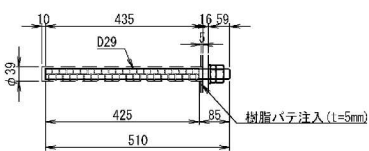
P5, P7 起点側・終点側								
	G1R	G2L	G2R	G3L	G3R	G4L	G4R	G5L
h1	580	605	580	605	580	600	580	605
h2	1045	1020	1045	1020	975	1005	1025	1000
h3	95	95	95	95	165	115	115	115

C2c/G1~G5 (製作数=20個)
C3c/G1~G5 (製作数=20個)
C5c/G1~G5 (製作数=20個)
C7c/G1~G5 (製作数=20個)

1-H 175x175x7 5x11xL1
2-PL 200x12x200 (SM400A)
4-HTB M22x65 (F10T)



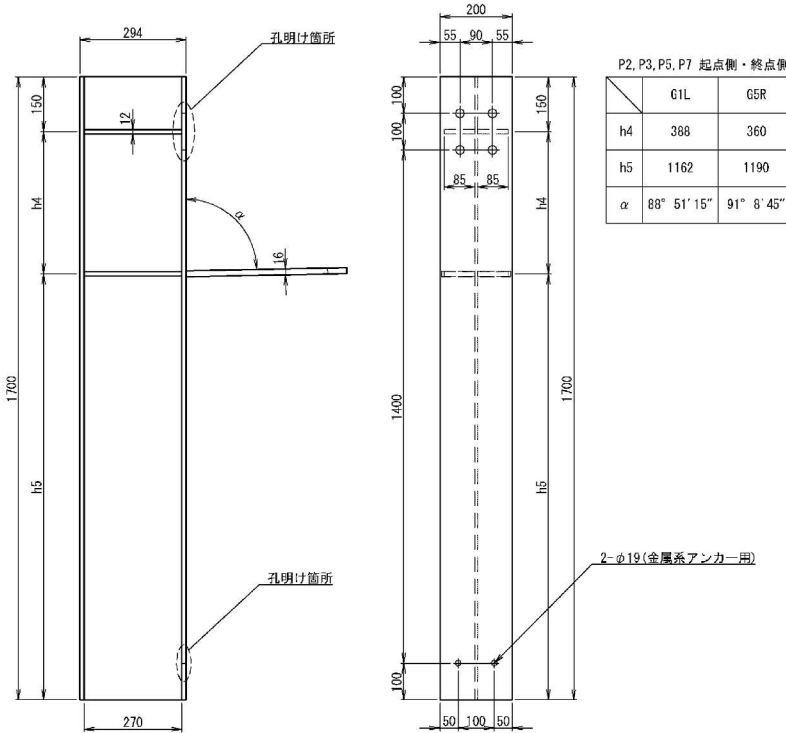
アンカーボルト詳細



C2b/G1, G5 (製作数=4台)
C3b/G1, G5 (製作数=4台)
C5b/G1, G5 (製作数=4台)
C7b/G1, G5 (製作数=4台)

1-H 294x200x8x12x1700
1-PL 190x16x445 (SM400A)
4-PL 85x12x270 (SM400A)

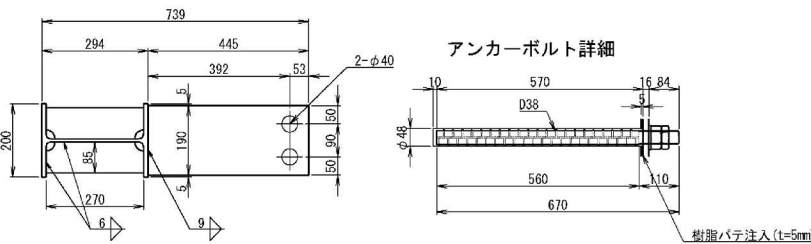
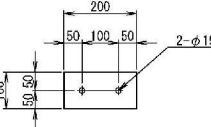
2-DB D38x670 (SD345)
(ネジ加工 M36, 1種・3種Nut, W付き)
2-金属系アンカー M16x500



P2, P3, P5, P7 起点側・終点側		
	G1L	G5R
h4	388	360
h5	1162	1190
α	88° 51' 15"	91° 8' 45"

C2d/G1, G5 (製作数=4枚)
C3d/G1, G5 (製作数=4枚)
C5d/G1, G5 (製作数=4枚)
C7d/G1, G5 (製作数=4枚)

1-PL 100x12x200



P2 起点側										
	G1L	G1R	G2L	G2R	G3L	G3R	G4L	G4R	G5L	G5R
L1	359	230	197	171	137	181	167	221	296	464
L2	377	247	221	195	161	205	191	245	320	488
α	86° 10' 39"	85° 37' 43"	89° 43' 32"							

P2 終点側										
	G1L	G1R	G2L	G2R	G3L	G3R	G4L	G4R	G5L	G5R
L1	355	223	197	171	137	181	167	221	296	464
L2	374	241	221	195	161	205	191	245	320	488
α	86° 39' 5"	86° 6' 0"	89° 43' 32"							

P3 起点側										
	G1L	G1R	G2L	G2R	G3L	G3R	G4L	G4R	G5L	G5R
L1	355	223	197	171	137	181	167	221	296	464
L2	374	241	221	195	161	205	191	245	320	488
α	86° 39' 5"	86° 6' 0"	89° 43' 32"							

P3 終点側										
	G1L	G1R	G2L	G2R	G3L	G3R	G4L	G4R	G5L	G5R
L1	359	230	197	171	137	181	167	221	296	464
L2	377	247	221	195	161	205	191	245	320	488
α	86° 10' 39"	85° 37' 43"	89° 43' 32"							

P5 起点側										
	G1L	G1R	G2L	G2R	G3L	G3R	G4L	G4R	G5L	G5R
L1	360	232	192	166	127	171	157	211	287	454
L2	378	249	216	190	151	195	181	235	311	478
α	86° 1' 14"	85° 28' 18"	89° 43' 32"							

P5 終点側										
	G1L	G1R	G2L	G2R	G3L	G3R	G4L	G4R	G5L	G5R
L1	355	223	192	166	127	171	157	211	287	454
L2	374	241	216	190	151	195	181	235	311	478
α	86° 39' 5"	86° 6' 0"	89° 43' 32"							

P7 起点側										
	G1L	G1R	G2L	G2R	G3L	G3R	G4L	G4R	G5L	G5R
L1	355	223	192	166	127	171	157	211	287	454
L2	374	241	216	190	151	195	181	235	311	478
α	86° 39' 5"	86° 6' 0"	89° 43' 32"							

P7 終点側										
	G1L	G1R	G2L	G2R	G3L	G3R	G4L	G4R	G5L	G5R
L1	360	232	192	166	127	171	157	211	287	454
L2	378	249	216	190	151	195	181	235	311	478
α	86° 1' 14"	85° 28' 18"	89° 43' 32"							

注記)
1. 特記無き材質は全てSS400とする。
2. 特記無きスカラーアップは全てR35mmとする。
3. 特記無きボルト孔は全てφ24.5mmとする。

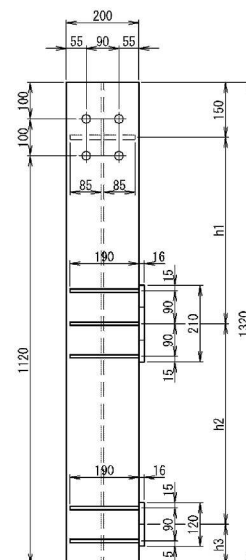
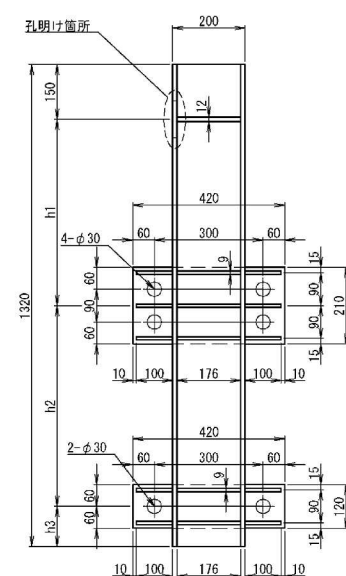
東 関 東 自 動 車 道 吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	吉倉高架橋 Aライン 支承取替工鋼材詳細図 (9)		
縮 尺	図 示	図面番号	75/232
設計会社名	大 日 コ ン サ ル タ ン ト 株 式 会 社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	千葉管理事務所		

[橋軸直角方向固定装置部材詳細図]

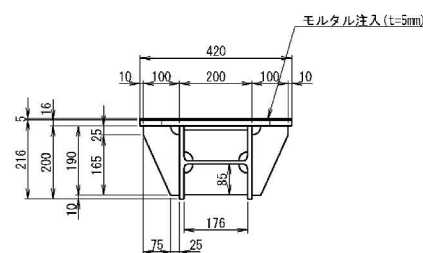
P4橋脚

C4a/G1~G5(製作数=16台)

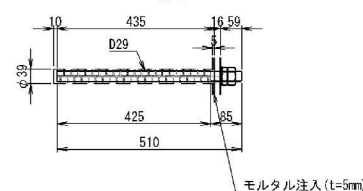
- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1-H 200x200x8x12x1320 | 10-PL 85x 9x176 (SM400A) |
| 1-PL 210x16x420 (SM400A) | 10-PL 100x 9x190 (SM400A) |
| 1-PL 120x16x420 (SM400A) | 6-DB D29x510 (SD345) |
| 2-PL 85x12x176 (SM400A) | (ネジ加工 M27, 1種・3種Nut, 附付き) |



	起点側・終点側	
	G2L~G5L	G1R~G4R
h1	535	510
h2	545	550
h3	90	110

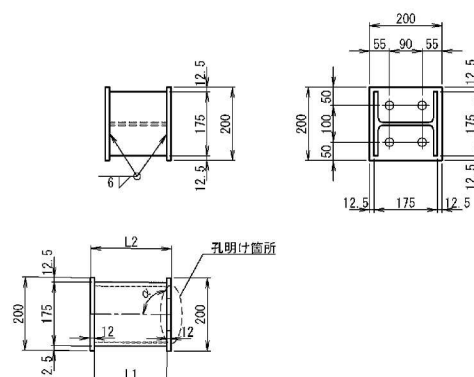


アンカーボルト詳細



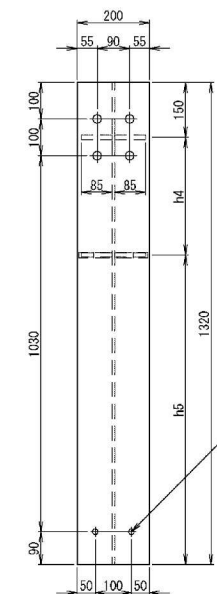
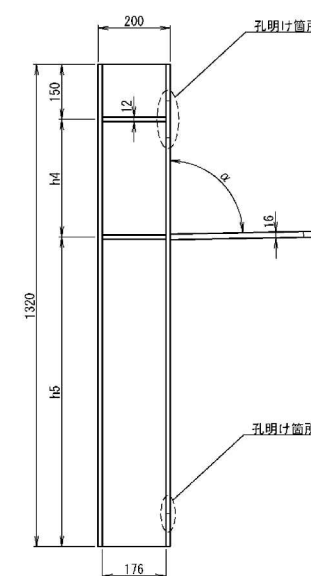
C4c/G1, G5 (製作数=20個)

- 1-H 175x175x7.5x11xL1
2-PL 200x12x200 (SM400A)
4-HTB M22x65 (F10T)



C4b/G1, G5 (製作数=4台)

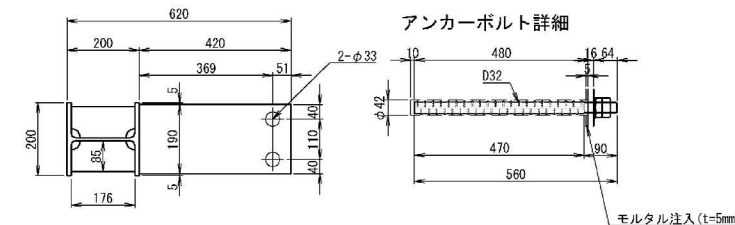
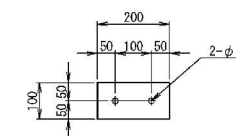
- 1-H 200x200x8x12x1320
1-PL 190x16x420 (SM400A)
4-PL 85x12x176 (SM400A)
2-DB D32x560 (SD345)
(ネジ加工 M30, 1種 3種Nut, 附付き)
2-金属系アンカー M16



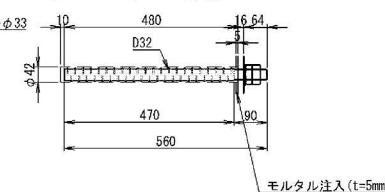
起点側・終点側		
	G1L	G5R
h4	322	296
h5	848	874
α	88° 51' 15"	91° 8'

C4d/G1, G5 (製作数=4枚)

- 1-PL 100x12x200



アンカーボルト詳細



起・点側・終・点側										
	G1L	G1R	G2L	G2R	G3L	G3R	G4L	G4R	G5L	G5R
L1	477	200	267	275	257	260	267	275	227	50
L2	484	224	291	299	281	284	291	299	251	50
α	78° 58' 21"		89° 43' 03"							

注記)

- 注記)
1. 特記無き材質は全てSS400とする。
 2. 特記無きスカーラップは全てR35mmとする。
 3. 特記無きボルト孔は全てφ24.5mmとする。

東 関 東 自 動 車 道 吉 倉 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
四面の種類	吉倉高架橋 Aライン 支承取替工鋼材詳細図 (10)		
縮 尺	図 示	図面番号	76/232
設計会社名	大日コンサルタント株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所		